洗足学園音楽大学

大学院

2019年度シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	科目コード	ページ数
音楽教育学研究(前)[火2]、(後)[月2]	塚原 健太	IE1401	4
音楽教育学演習I(前)[火3]、(後)[木4]	佐藤 昌弘	IE1410	7
音楽教育学演習II	佐藤 昌弘	IE1415	10
音楽表現研究I[金4]	佐藤 昌弘	IE1440	13
音楽表現研究II[金4]	佐藤 昌弘	IE1445	16
副論文作成研究	那須田 務	IE2060	19
音楽・音響デザイン特殊研究1[木5]	栗山 和樹	IE2631	22
音楽・音響デザイン特殊研究2[木5]	栗山 和樹	IE2632	25
ライブ・エレクトロニクス研究1[木6]	宮木 朝子	IE2641	28
ライブ・エレクトロニクス研究2[木6]	宮木 朝子	IE2642	31
デジタル・オーケストレーション研究1[木4]	前田 康徳	IE2651	34
デジタル・オーケストレーション研究2[木4]	前田 康徳	IE2652	37
録音・音響特殊研究1[月4]	徳永 宏	IE2661	40
録音・音響特殊研究2[月4]	徳永 宏	IE2662	43
映像特殊研究1[火3]	山田 剛志	IE2671	46
映像特殊研究2[火3]	山田 剛志	IE2672	49
作曲法特殊研究1(作曲)	清水 昭夫	IE2701	52
作曲法特殊研究1(二胡)	清水 昭夫	IE2701	55
楽曲分析法特殊研究1[月2]	那須田 務	IE2711	58
楽曲分析法特殊研究2	那須田 務	IE2712	61
アンサンブル特殊研究1	清水 昭夫	IE2721	64
プロフェッショナル特殊研究I	柳澤 涼子	IE2751	67
プロフェッショナル特殊研究II	柳澤 涼子	IE2752	70
オペラ研究1・2[水3-4、木2-4]	柳澤 涼子	IE2753d	73
アンサンブル研究1[月2]	柳澤 涼子	IE2755	76
アンサンブル研究2[月2]	柳澤 涼子	IE2756	79
歌曲研究1[月3 日][月5 仏][火2 伊][金4 独]	柳澤 涼子	IE2757	82
歌曲研究2[月3 日][月5 仏][火2 伊][金4 独]	柳澤 涼子	IE2758	85
合唱指導法研究[木3-4]	相澤 直人	IE2770	88
プロフェッショナル特殊研究1	吉武 雅子	IE2801	92
プロフェッショナル特殊研究1	渡部 亨	IE2801	95
プロフェッショナル特殊研究1	水野 佐知香	IE2801	98
プロフェッショナル特殊研究1	神谷 百子	IE2801	101
プロフェッショナル特殊研究1	赤塚 博美	IE2801	104
プロフェッショナル特殊研究1	松尾 祐孝	IE2801	107
プロフェッショナル特殊研究1	今田 央	IE2801	110
プロフェッショナル特殊研究2	吉武 雅子	IE2802	113
プロフェッショナル特殊研究2	荻野 由美子	IE2802	116
プロフェッショナル特殊研究2	渡部 亨	IE2802	119
プロフェッショナル特殊研究2	神谷 百子	IE2802	122
プロフェッショナル特殊研究2	赤塚 博美	IE2802	125
プロフェッショナル特殊研究2	松尾 祐孝	IE2802	128
プロフェッショナル特殊研究2	竹内 永和	IE2802	131
プロフェッショナル特殊研究3	水野 佐知香	IE2803	134
プロフェッショナル特殊研究3	松尾 祐孝	IE2803	137
プロフェッショナル特殊研究4	松尾 祐孝	IE2804	140
アンサンブル研究1	赤塚 博美	IE2811	143
アンサンブル研究2	赤塚 博美	IE2812	146
作曲・編曲法1	赤塚 博美	IE2821	149
作曲・編曲法2	赤塚 博美	IE2822	152

アンサンブル研究1	吉武 雅子	IE2841		155
アンサンブル研究1	荻野 由美子	IE2841		158
アンサンブル研究1	渡部 亨	IE2841		161
アンサンブル研究1	水野 佐知香	IE2841		164
アンサンブル研究1[火4-5]	山澤 洋之	IE2841		167
アンサンブル研究1	松尾 祐孝	IE2841		170
アンサンブル研究1	原 善伸	IE2841		173
アンサンブル研究2	吉武 雅子	IE2842		176
アンサンブル研究2	荻野 由美子	IE2842		179
アンサンブル研究2	渡部 亨	IE2842		182
アンサンブル研究2	水野 佐知香	IE2842		185
アンサンブル研究2[火4-5]	山澤 洋之	IE2842		188
アンサンブル研究2	松尾 祐孝	IE2842		191
アンサンブル研究2	原 善伸	IE2842		194
現代曲の奏法と研究1(後)[水2]	渡部 亨	IE2851		197
現代曲の奏法と研究2(後)[水2]	渡部 亨	IE2852		200
打楽器の変遷と奏法の研究1	古川 玄一郎	IE2861		203
打楽器の変遷と奏法の研究2	古川 玄一郎	IE2862		206
コンチェルト研究1	江崎 昌子	IE2871		209
コンチェルト研究2	江崎 昌子	IE2872		212
オルガンの様式と奏法の研究2	荻野 由美子	IE2874		215
音楽教育特殊研究1[金3]	董 芳勝	IE2881		218
音楽教育特殊研究2[金3]	董 芳勝	IE2882		221
音楽教育特殊研究3	佐藤 昌弘	IE2883		224
音楽教育特殊研究4	佐藤 昌弘	IE2884		227
合奏指導法研究1(前)[水2]	渡部 亨	IE2885		230
合奏指導法研究1	水野 佐知香	IE2885		233
合奏指導法研究1	神谷 百子	IE2885		236
合奏指導法研究1	松尾 祐孝	IE2885		239
合奏指導法研究1	原 善伸	IE2885		242
合奏指導法研究1	石井 喜久子	IE2885		245
合奏指導法研究2(前)[水2]	渡部 亨	IE2886		248
合奏指導法研究2	水野 佐知香	IE2886		251
合奏指導法研究2	神谷 百子	IE2886		254
合奏指導法研究2	松尾 祐孝	IE2886		257
合奏指導法研究2	原 善伸	IE2886		260
合奏指導法研究2	石井 喜久子	IE2886		263
オルガン研究[水2]	荻野 由美子	IE2890		266
作品研究法[月4]Aクラス	那須田 務	IE3070		269
作品研究法[金2]Bクラス	那須田 務	IE3070		272
楽曲分析法[火1]Aクラス	青島 広志	IE3080		275
楽曲分析法[水3]Bクラス	久行 敏彦	IE3080		278
専門器楽実習 I (PF)	吉武 雅子	IL1110d		281
専門器楽実習 I (OR)	荻野 由美子	IL1110d		284
専門器楽実習 I (WI)	渡部 亨	IL1110d		287
専門器楽実習 I (SI)	水野 佐知香	IL1110d		290
専門器楽実習 I (GT)	原 善伸	IL1110d		293
専門器楽実習 I (PI)	神谷 百子	IL1110d		296
専門器楽実習 I (EO)	赤塚 博美	IL1110d		299
専門器楽実習 I (WA)	松尾 祐孝	IL1110d		302
専門器楽実習 II (PF)	吉武 雅子	IL1115d		305

專門器樂實習Ⅱ(OR)	荻野 由美子	IL1115d		308
專門器樂實習Ⅱ(WI)	渡部 亨	IL1115d		311
專門器樂實習Ⅱ(SI)	水野 佐知香	IL1115d		314
專門器樂實習Ⅱ(GT)	原 善伸	IL1115d		317
專門器樂實習Ⅱ(PI)	神谷 百子	IL1115d		320
專門器樂實習Ⅱ(EO)	赤塚 博美	IL1115d		323
專門器樂實習Ⅱ(WA)	松尾 祐孝	IL1115d		326
演奏法研究Ⅰ(PF)	吉武 雅子	IL1170d		329
演奏法研究Ⅰ(OR)	荻野 由美子	IL1170d		332
演奏法研究Ⅰ(WI)	渡部 亨	IL1170d		335
演奏法研究Ⅰ(SI)	水野 佐知香	IL1170d		338
演奏法研究Ⅰ(GT)	原 善伸	IL1170d		341
演奏法研究Ⅰ(PI)	神谷 百子	IL1170d		344
演奏法研究Ⅰ(EO)	赤塚 博美	IL1170d		347
演奏法研究Ⅰ(WA)	松尾 祐孝	IL1170d		350
演奏法研究Ⅱ(PF)	吉武 雅子	IL1175d		353
演奏法研究Ⅱ(OR)	荻野 由美子	IL1175d		356
演奏法研究Ⅱ(WI)	渡部 亨	IL1175d		359
演奏法研究Ⅱ(SI)	水野 佐知香	IL1175d		362
演奏法研究Ⅱ(GT)	原 善伸	IL1175d		365
演奏法研究Ⅱ(PI)	神谷 百子	IL1175d		368
演奏法研究Ⅱ(EO)	赤塚 博美	IL1175d		371
演奏法研究Ⅱ(WA)	松尾 祐孝	IL1175d		374
声樂實習Ⅰ(VO)	柳澤 涼子	IL1310d		377
声樂實習Ⅱ(VO)	柳澤 涼子	IL1315d		380
演奏法研究Ⅰ(VO)	柳澤 涼子	IL1370d		383
演奏法研究Ⅱ(VO)	柳澤 涼子	IL1375d		386
創作研究Ⅰ(CO)	清水 昭夫	IL1511d		389
創作研究Ⅱ(CO)	清水 昭夫	IL1516d		392
作曲理論研究Ⅰ(CO)	清水 昭夫	IL1570d		395
作曲理論研究Ⅱ(CO)	清水 昭夫	IL1575d		398
創作制作研究Ⅰ(SC)	前田 康德	IL1580d		401
創作制作研究Ⅱ(SC)	前田 康德	IL1585d		404
音樂音響理論研究Ⅰ(SC)	前田 康德	IL1590d		407
音樂音響理論研究Ⅱ(SC)	前田 康德	IL1595d		410
副科研究1(MP)	佐藤 昌弘	IL2051d		413
副科研究2(MP)	佐藤 昌弘	IL2052d		415
副科研究3(MP)	佐藤 昌弘	IL2053d		417
副科研究4(MP)	佐藤 昌弘	IL2054d		419

科目名	音楽教育学研究（前）[火2]、（後）[月2]				
代表教員	塚原 健太	授業コード	IE140100	科目コード	IE1401
担当教員		期間		通年	
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	MP	科目分類	専門必修		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

主題：音楽教育学の基礎的な研究方法および研究内容

到達目標：

- (1) 研究遂行の基礎となる知識・技能を習得する。
- (2) 音楽教育学の分野と方法を理解し、自らの研究課題を位置づける。
- (3) 日本の音楽科教育の基本構造を理解する。
- (4) 音楽教育学の今日的課題を理解し、自らの研究の意義を明確にする。

2. 授業概要

前期：まず各受講生の研究テーマおよび問題設定を確認する（第1回）。

次に文献探索の方法や論文の読み方などの基礎技術を理解した上で、各自の関心に応じた先行研究の講読と批判を行う（第2～6回）。

続いて音楽教育学の分野と方法を具体的な研究事例を通して概観する（第7～11回）。

前期の最後では、日本の音楽科教育の構造を教育政策・歴史の観点から概観する（第12回～15回）。

後期：音楽教育学の基礎的な文献、および今日的な課題を取り上げた文献を講読することで、自らの研究の位置づけを明確にする（第1～11回）。

さらに前期・後期を通じて習得した基礎的な知識・技能を踏まえて、各受講生の研究について報告してもらい、修士論文執筆につなげる（第12～15回）。

授業はほぼすべての回を文献講読や発表を中心に進め、体系的な知識の整理が必要な場合は講義などを取り入れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

修士論文作成の基礎的な知識・技能を習得するためにも、授業で指定した文献を事前によく読み、レジュメにまとめる作業に取り組むこと。さらに事後は授業でのディスカッションなどを踏まえ、再読することを推奨する。

4. 成績評価の方法及び基準

レポート（35%）

報告の内容（35%）

議論への参加状況（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：加藤富美子編『音楽科教育』一藝社、2013年

参考文献：日本音楽教育学会編『音楽教育学の未来』音楽之友社、2005年

秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学『教育研究のメソドロジー』東京大学出版、2005年

Phelps, Roger P., and et al., A Guide to Research in Music Education, 5th Edition, The Scarecrow Press, 2005.

日本教科教育学会編『教科教育研究ハンドブック』教育出版、2017年

リーマー、ベネット／丸山忠璋訳『音楽教育の哲学』音楽之友社、1987年

スワンウィック、キース／野波健彦ほか訳『音楽と心と教育』音楽之友社、1992年

西園芳信『小学校音楽科カリキュラム構成に関する教育実践学的研究』風間書房、2005年

スモール、クリストファー／野澤豊一・西島千尋訳『ミュージッキング—音楽は〈行為〉である』水声社、2011年

この他は授業中に随時紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生の研究テーマや関心に応じて毎回のトピックや重点の置き方、講義順序などを変更することがある。

授業計画	
	[前期]
1	研究テーマと問題設定
2	文献探索の方法
3	文献収集の方法
4	論文の構造と読み方
5	先行研究の講読
6	先行研究の批判
7	音楽教育学の研究分野：学校教育
8	音楽教育学の研究分野：学校教育外
9	音楽教育学の研究手法：哲学的・歴史的研究
10	音楽教育学の研究手法：質的研究
11	音楽教育学の研究手法：量的研究
12	日本の教育制度
13	日本の教育課程行政と学習指導要領
14	日本の音楽科教育史：近代
15	日本の音楽科教育史：現代

授業計画	
	[後期]
1	音楽教育学の基礎文献購読：教育思想・哲学
2	音楽教育学の基礎文献購読：教育史
3	音楽教育学の基礎文献購読：教育心理学
4	音楽教育学の基礎文献購読：カリキュラム論
5	音楽教育学の基礎文献購読：教育評価論
6	音楽教育学の基礎文献購読：授業論
7	音楽教育学の基礎文献購読：専門家教育
8	音楽教育学の基礎文献購読：成人教育
9	音楽教育学の基礎文献購読：幼児教育
10	音楽教育学の今日的課題：学力論
11	音楽教育学の今日的課題：芸術の教育的意義
12	研究の進捗状況の報告
13	研究課題の再検討
14	研究方法の再検討
15	研究計画の再検討

科目名	音楽教育学演習I (前) [火3]、(後) [木4]				
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE141000	科目コード	IE1410
担当教員	金井 公美子				
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	MP	科目分類	専門必修		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

主題：音楽教育の諸問題の把握と関連資料のレビュー

到達目標：日本と西洋の音楽教育を概観し、中国の音楽教育との違いについて把握する。また、日本の伝統的な楽器を用いた授業実践を体験や、20世紀音楽を教材とした鑑賞や創作の授業のシミュレーションをすることにより、アクティブラーニングを取り入れた指導の内容、方法を研究し理解する力を身に付ける。

2. 授業概要

前期は、音楽教育を西洋と日本の歴史的背景から学び、アジア(中国)の音楽教育と日本の音楽教育の比較について深く学んでいく。後期は、日本の学校教育の鑑賞と創作を中心に、20世紀に書かれた音楽書をテキストとして、音楽創造と教育との関わり合いを学び、その内容や方法の精選について研究を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

関連資料のレビューが中心となるため、授業時間外での資料の探索や読解が必要であるので、自らの研究活動とバランスをとりつつ、計画をたてて準備をすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
レポート（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特定のテキストは特になく、配付資料を準備。参考文献は講義中随時示す。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕音楽教育の諸問題とその歴史背景
1	ガイダンス
2	日本の音楽教育の歴史的背景 明治・大正
3	日本の音楽教育の歴史的背景 学習指導要領の変遷
4	学校教育における日本の伝統音楽の実際－伝統音楽の体験を交えて
5	資料講読1：各国の音楽教育
6	資料講読2：中国の音楽教育－表現教育
7	資料講読3：中国の音楽教育－鑑賞教育
8	資料講読4：韓国の音楽教育－伝統音楽を中心に
9	資料講読5：ハンガリーの音楽教育－コダーイ・メソッドを中心に
10	資料講読6：リトミック教育－ジャック＝ダルクローズを中心に
11	プレゼンテーション1：中国の音楽教育－表現教育
12	プレゼンテーション2：中国の音楽教育－鑑賞教育
13	プレゼンテーション3：リトミック教育
14	日本と中国の音楽教育の比較
15	前期総括

授業計画	
	〔後期〕 今日における音楽教育の諸問題：創作を中心に
1	ガイダンス
2	日本の学校教育における鑑賞
3	日本の学校教育における創作
4	創作と鑑賞との関連について
5	資料講読1 パーンスタイン著『音楽を語る』より「音楽の無限の多様性」
6	資料講読2 パーンスタイン著『音楽を語る』より「シリアスマュージックにおけるジャズ」
7	資料講読3 パーンスタイン著『音楽を語る』より「リズム」
8	資料講読4 パーンスタイン著『音楽を語る』より「音楽におけるロマンチズム」
9	資料講読5 メシアン著『音楽言語の技法』より第3章～第7章（リズムに関する記述）
10	資料講読6 メシアン著『音楽言語の技法』より第8章～第11章（旋律に関する記述）
11	資料講読7 メシアン著『音楽言語の技法』より第13章～第15章（和声に関する記述）
12	資料講読8 メシアン著『音楽言語の技法』より第16章～第19章（旋法に関する記述）
13	資料講読9 武満徹著『東の音・西の音—さわりの文化について』
14	資料講読10 武満徹著『私の受けた音楽教育』
15	後期総括

科目名	音楽教育学演習II						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE141500	科目コード	IE1415	期間	通年
担当教員	董 芳勝、金井 公美子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	「音楽教育学演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：各自のテーマに基づき、1年次からの研究を深め、その成果を論文にとりまとめる。
 目標：修士論文を完成する。

2. 授業概要

各自のテーマに基づき、資料探索、データの分析・解釈、考察といった一連の研究活動について、院生・教員との討議、および教員による個人指導のもとに進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には、資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、現地調査から、実際の執筆におよぶまで、学習にかかる時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

4. 成績評価の方法及び基準

授業（中間発表を含む）への参加態度について成績評価の50%、論文作成上必要な作業への対応状況について成績評価の50%を基準とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自のテーマに応じて授業内で随時紹介。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究計画立案
3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	研究テーマの確定
7	予備研究の始動
8	資料・文献の収集
9	資料・文献の整理
10	資料・文献からのデータ抽出
11	研究計画の見直し
12	論文の構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討
15	前期の総括及び中間発表の準備

授業計画	
1	中間発表要旨作成
2	中間発表
3	先行研究について
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成 1 序論
7	論文作成 2 第1章作成
8	論文作成 3 第1章推敲
9	論文作成 4 第2章作成
10	論文作成 5 第2章推敲
11	論文作成 6 第3章作成
12	論文作成 7 第3章推敲
13	論文作成 8 結論
14	論文の仕上げと見直し
15	論文要旨作成

科目名	音楽表現研究I [金4]						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE144000	科目コード	IE1440	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽表現を理解する重要な要素の一つで、かつ教材作成に役立つ「作品分析」という分野の実践では、教育に携わる者として大切な資質となる洞察力と解釈力を必要とする。この授業では、主題となる作品分析という行為を通して、洞察力と解釈力を身につけることが到達目標である。

2. 授業概要

【前期】ロマン派の黄昏① リヒャルト・シュトラウスの主要作品と生涯
 【後期】ロマン派の黄昏② セルゲイ・ラフマニノフの主要作品と生涯

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲に相当する作品について予備知識を調べ、確認する。
 復習：授業で分析した作品について要点をまとめておく。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
 レポート執筆（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

【前期】岡田暁生著「リヒャルト・シュトラウス」（音楽之友社）田代權著「リヒャルト・シュトラウス 鳴り響く落日」（春秋社）
 【後期】柴辻純子・堀内みさ著「ラフマニノフ」（学研パブリッシング）ソコロワ著 佐藤靖彦著「ラフマニノフ その作品と生涯」（新読者社）
 前期、後期とも補足説明の印刷物を随時配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】リヒャルト・シュトラウスの主要作品と生涯
1	前期ガイダンス
2	歌曲①「8つの歌」Op. 10「4つの歌」Op. 27他
3	歌曲②「ブレンターノ歌曲集」Op. 68他
4	交響詩①「ドン・ファン」「死と変容」
5	交響詩②「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」「ドン・キホーテ」
6	交響詩③「ツァラトウストラはかく語りき」
7	交響詩④「英雄の生涯」
8	「家庭交響曲」と「アルプス交響曲」
9	オペラ①「サロメ」「エレクトラ」
10	オペラ②「ばらの騎士」「ナクソス島のアリアドネ」
11	オペラ③「アラベラ」「カプリッチョ」
12	2曲のホルン協奏曲とオーボエ協奏曲
13	メタモルフォーゼン
14	歌曲③「四つの最後の歌」
15	前期総括

授業計画	
	【後期】セルゲイ・ラフマニノフの主要作品と生涯
1	後期ガイダンス
2	ピアノ協奏曲第1番、幻想的小品集
3	悲しみの三重奏曲、交響曲第1番
4	ピアノ協奏曲第2番
5	2つの2台ピアノのための組曲
6	チェロ・ソナタ
7	交響曲第2番
8	声楽作品
9	ピアノ協奏曲第3番
10	ピアノソナタ第2番
11	前奏曲集
12	楽興の時、音の絵
13	パガニーニの主題による狂詩曲
14	交響詩「死の島」、交響的舞曲
15	後期総括

科目名	音楽表現研究II [金4]						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE144500	科目コード	IE1445	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽表現を理解する重要な要素の一つで、かつ教材作成に役立つ「作品分析」という分野の実践では、教育に携わる者として大切な資質となる洞察力と解釈力を必要とする。この授業では、主題となる作品分析という行為を通して、洞察力と解釈力を身につけることが到達目標である。

2. 授業概要

【前期】ロマン派の黄昏① リヒャルト・シュトラウスの主要作品と生涯
 【後期】ロマン派の黄昏② セルゲイ・ラフマニノフの主要作品と生涯

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

予習：各回の学習範囲に相当する作品について予備知識を調べ、確認する。
 復習：授業で分析した作品について要点をまとめておく。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（70%）
 レポート執筆（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

【前期】岡田暁生著「リヒャルト・シュトラウス」（音楽之友社）田代權著「リヒャルト・シュトラウス 鳴り響く落日」（春秋社）
 【後期】柴辻純子・堀内みさ著「ラフマニノフ」（学研パブリッシング）ソコロワ著 佐藤靖彦著「ラフマニノフ その作品と生涯」（新読者社）
 前期、後期とも補足説明の印刷物を随時配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】リヒャルト・シュトラウスの主要作品と生涯
1	前期ガイダンス
2	歌曲①「8つの歌」Op. 10「4つの歌」Op. 27他
3	歌曲②「ブレンターノ歌曲集」Op. 68他
4	交響詩①「ドン・ファン」「死と変容」
5	交響詩②「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」「ドン・キホーテ」
6	交響詩③「ツァラトゥストラはかく語りき」
7	交響詩④「英雄の生涯」
8	「家庭交響曲」と「アルプス交響曲」
9	オペラ①「サロメ」「エレクトラ」
10	オペラ②「ばらの騎士」「ナクソス島のアリアドネ」
11	オペラ③「アラベラ」「カプリッチョ」
12	2曲のホルン協奏曲とオーボエ協奏曲
13	メタモルフォーゼン
14	歌曲③「四つの最後の歌」
15	前期総括

授業計画	
	【後期】セルゲイ・ラフマニノフの主要作品と生涯
1	後期ガイダンス
2	ピアノ協奏曲第1番、幻想的小品集
3	悲しみの三重奏曲、交響曲第1番
4	ピアノ協奏曲第2番
5	2つの2台ピアノのための組曲
6	チェロ・ソナタ
7	交響曲第2番
8	声楽作品
9	ピアノ協奏曲第3番
10	ピアノソナタ第2番
11	前奏曲集
12	楽興の時、音の絵
13	パガニーニの主題による狂詩曲
14	交響詩「死の島」、交響的舞曲
15	後期総括

科目名	副論文作成研究						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE206000	科目コード	IE2060	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全 (MP除く)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：各自のテーマに基づいた研究とその成果を取りまとめる。
 目標：副論文を作成する。

2. 授業概要

各自の演奏や作品の理論的裏付けとなる根拠や考察を、個人指導を通じて、論文の形でまとめる。優れた演奏・作品には理論に裏付けされた優れた洞察がその根底にあることを常に意識して研究を進め、質の高い論文の完成を目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

論文作成には資料や文献の探索・収集、必要な情報の抽出、先行研究の読解、論文執筆等々、学習にかかる時間は授業よりも授業外の方がはるかに多い。指導教員の助言のもと、研究計画をしっかりと立てて、授業時間外ですべき課題について確実に取り組んでいくことが求められる。

4. 成績評価の方法及び基準

授業（中間発表を含む）への参加態度（30%）
 論文（70%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自のテーマに応じて随時紹介。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

論文はワードプロセッサで作成する。論文としての書式・ルールで作成するため、それらに対応できるよう準備し心がけること。
 なお、一年次に「作品研究法」「楽曲分析法」を履修できなかった人は、今年度併せて履修することが望ましい。

授業計画	
	[前期] ただし、実際の進め方については、それぞれの状況が異なるので、詳細は指導教員と相談すること。
1	オリエンテーション
2	テーマ探求 1 基本
3	テーマ探求 2 応用
4	テーマの決定と研究計画立案
5	研究計画立案
6	資料・文献の探索と収集 1 基本
7	資料・文献の探索と収集 2 応用
8	資料・文献の探索と収集 3 発展
9	資料・文献の探索と収集 4 確認
10	資料・文献からのデータ抽出 1 基本
11	資料・文献からのデータ抽出 2 応用
12	資料・文献からのデータ抽出 3 発展
13	資料・文献からのデータ抽出 4 確認
14	研究テーマと計画の調整
15	中間発表の準備

授業計画	
	[後期]
1	中間発表の要旨作成 前半
2	中間発表の要旨作成 後半
3	中間発表（公開）
4	論文作成（必要な資料・文献の追加） 1 基本
5	論文作成（必要な資料・文献の追加） 2 応用
6	論文作成（必要な資料・文献の追加） 3 発展
7	論文作成（必要な資料・文献の追加） 4 確認
8	論文作成 1 基本
9	論文作成 2 応用
10	論文作成 3 発展
11	論文作成 4 確認
12	論文作成 5 まとめ
13	論文提出後の見直し 1 前半
14	論文提出後の見直し 2 後半
15	大学保存用論文の仕上げ

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究 1 [木5]				
代表教員	栗山 和樹	授業コード	IE263100	科目コード	IE2631
担当教員	前田 康徳				
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	SC	科目分類	専門選択		
前提科目					
教員免許状					

1. 主題・到達目標

フィルムスコア特殊研究を主題とし、映画音楽作曲家作品研究を行います。
同時にハーモニーやソングライティングに関する内容を受講することにより楽曲の理解を深めることができます。

2. 授業概要

近年の映画音楽界を代表する作家の作品を、専門的、多角的に研究考察する方法を身につけ、今後の作品創作に役立つ、より幅の広い技能を身につける事を目的とします。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

取り上げる作曲家については、必ず事前に代表的な音楽を聴いておいてください。
また復習として、授業で得た内容を整理、ファイリングしておくことを推奨します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
「研究内容が大学院生研究レベルにあるかどうか」を評価の基準とします。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

以下を履修条件とします。

教養としての映画音楽研究を目指す方ではなく、映画音楽作家を目指す方々を対象に講義を展開します。
そのため、学部レベルの管弦楽法、和声法の知識を有する者とします。

授業計画	
	前期は、ジョン・ウイリアムス、ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を通して各手法を研究する。
1	ジョン・ウイリアムス作品研究
2	速度変化について
3	管弦楽手法について
4	リディア旋法について
5	対位法的金管作法
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気調整）
8	課題提出・発表
9	ジェームス・ニュートン・ハワード作品研究
10	遠隔内部調について
11	閉じた終止・開いた終止
12	旋法的和声
13	3度和声／2度和声
14	低音位の進行
15	前期内容のまとめと講評

授業計画	
	後期はハンス・ジマーの作品から、各自で選択した作曲家研究の発表を実施する。
1	ハンス・ジマー作品研究
2	リズム作法について
3	打楽器アンサンブル研究
4	旋律作法
5	混声合唱研究
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気調整）
8	課題提出・発表
9	自らが選んだ作家の作品研究
10	作曲家選択のポイント
11	作品選択のポイント
12	作品の研究発表—発表ポイントの確認—
13	作品の研究発表—反省点の確認—
14	作品の研究発表—講評—
15	後期内容のまとめと講評

科目名	音楽・音響デザイン特殊研究2 [木5]				
代表教員	栗山 和樹	授業コード	IE263200	科目コード	IE2632
担当教員	前田 康徳	期間	通年		
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	SC	科目分類	専門選択		
前提科目					
教員免許状					

1. 主題・到達目標

フィルムスコア特殊研究を主題とし、映画音楽作曲家作品研究を行います。
同時にハーモニーやソングライティングに関する内容を受講することにより楽曲の理解を深めることができます。

2. 授業概要

近年の映画音楽界を代表する作家の作品を、専門的、多角的に研究考察する方法を身につけ、今後の作品創作に役立つ、より幅の広い技能を身につける事を目的とします。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

取り上げる作曲家については、必ず事前に代表的な音楽を聴いておいてください。
また復習として、授業で得た内容を整理、ファイリングしておくことを推奨します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
「研究内容が大学院生研究レベルにあるかどうか」を評価の基準とします。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

以下を履修条件とします。

教養としての映画音楽研究を目指す方ではなく、映画音楽作家を目指す方々を対象に講義を展開します。
そのため、学部レベルの管弦楽法、和声法の知識を有する者とします。

授業計画	
	前期は、ジョン・ウイリアムス、ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を通して各手法を研究する。
1	ジョン・ウイリアムス作品研究
2	速度変化について
3	管弦楽手法について
4	リディア旋法について
5	対位法的金管作法
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気調整）
8	課題提出・発表
9	ジェームス・ニュートン・ハワード作品研究
10	遠隔内部調について
11	閉じた終止・開いた終止
12	旋法的和声
13	3度和声／2度和声
14	低音位の進行
15	前期内容のまとめと講評

授業計画	
	後期はハンス・ジマーの作品から、各自で選択した作曲家研究の発表を実施する。
1	ハンス・ジマー作品研究
2	リズム作法について
3	打楽器アンサンブル研究
4	旋律作法
5	混声合唱研究
6	模作研究（部分的に特徴を把握）
7	模作研究（全体の雰囲気調整）
8	課題提出・発表
9	自らが選んだ作家の作品研究
10	作曲家選択のポイント
11	作品選択のポイント
12	作品の研究発表—発表ポイントの確認—
13	作品の研究発表—反省点の確認—
14	作品の研究発表—講評—
15	後期内容のまとめと講評

科目名	ライブ・エレクトロニクス研究1 [木6]				
代表教員	宮木 朝子	授業コード	IE264100	科目コード	IE2641
担当教員	前田 康徳	期間	通年		
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	SC	科目分類	専門選択		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

「音楽・音響空間特殊研究」として、映像に対する音響の可能性や空間性という視点から音楽・音響を考察。映画やアート映像、空間的な表現における、聴覚と視覚のコンテンポラリーな関係を研究する。空間デザインとしてのサウンドインスタレーション、サウンド・アートや舞台作品についても研究する。

2. 授業概要

前期は「メディア芸術としての電子音楽表現」の歴史から現在まで作品鑑賞、分析、研究発表をおこない、具体音（現実音・環境音）を用いた電子音響音楽を制作し、立体音響再生システムについて学ぶ。後期はサウンドスケープ、サウンドアートなど空間的な音楽表現の歴史を学び、音響と映像と空間の融合による表現について考察。映画音楽の分析、インスタレーションの企画発表をおこなう。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での音素材録音と分析・解説を元に各自が小作品を制作する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）制作への取り組み（評価の40%）制作作品評価（評価の20%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『コンピュータ音楽-歴史・テクノロジー・アート』 Curtis Roads著（東京電機大学出版局）
『映画にとって音とはなにか』 ミシェル・シオン著（勁草書房）
『Maxの教科書』 ノイマンピアノ著（リットーミュージック）
『世界の調律』 R・マリー・シェーファー（平凡社）
『科学と芸術の対話』（NTT出版）
『見えないデザイン』 井出祐昭（Yamaha）他

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ・ソフト（波形編集できるもの、Logic、Pro-toolsなど）による編集・加工作業について各自日常的に学習・習熟して授業に臨んで欲しい。
授業の欠席が3分の1を超える者については、単位を認定しない。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス-メディアとしての音
2	音楽とメディア 録音と音楽-アコースマティック・アートとは
3	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析1 フランス音楽の伝統との関連
4	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析2 作品のタイプ別分析
5	作品分析結果発表、考察
6	録音実習-具体音の録音
7	録音素材の分類と作曲技法解説
8	素材の加工方法について解説、実習
9	制作実習1-素材の扱いについて
10	制作実習2-空間の作り方
11	立体音響空間演奏システム=アコースモニウムとは
12	アコースモニウム演奏実習1-演奏技法について
13	アコースモニウム演奏実習2-空間の捉え方と表現法
14	アコースモニウム演奏実習3-曲の解釈と表現について
15	制作発表スタジオコンサートと解説

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス（後期の解説）
2	サウンドスケープ導入ータルコフスキー映画分析
3	サウンドスケープ・コンポジション
4	サウンドスペースコンポーザーについて
5	フィールドレコーディング実習（制作素材録音）
6	制作実習
7	サウンド・アート、サウンドインスタレーション作品分析
8	企画案、制作実習1 テーマの立て方
9	企画案・制作実習2-実現に向けての企画書の書き方
10	映像と音響の表現について
11	映像と光と身体による舞台表現考察
12	ライブエレクトロニクスの歴史と作品
13	ライブエレクトロニクス実習
14	後期のまとめ
15	制作作品発表と解説

科目名	ライブ・エレクトロニクス研究2 [木6]				
代表教員	宮木 朝子	授業コード	IE264200	科目コード	IE2642
担当教員	前田 康徳	期間	通年		
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	SC	科目分類	専門選択		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

「音楽・音響空間特殊研究」として、映像に対する音響の可能性や空間性という視点から音楽・音響を考察。映画やアート映像、空間的な表現における、聴覚と視覚のコンテンプラリーな関係を研究する。空間デザインとしてのサウンドインスタレーション、サウンド・アートや舞台作品についても研究する。

2. 授業概要

前期は「メディア芸術としての電子音楽表現」の歴史から現在まで作品鑑賞、分析、研究発表をおこない、具体音（現実音・環境音）を用いた電子音響音楽を制作し、立体音響再生システムについて学ぶ。後期はサウンドスケープ、サウンドアートなど空間的な音楽表現の歴史を学び、音響と映像と空間の融合による表現について考察。映画音楽の分析、インスタレーションの企画発表をおこなう。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での音素材録音と分析・解説を元に各自が小作品を制作する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）制作への取り組み（評価の40%）制作作品評価（評価の20%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『コンピュータ音楽-歴史・テクノロジー・アート』 Curtis Roads著（東京電機大学出版局）
『映画にとって音とはなにか』 ミシェル・シオン著（勁草書房）
『Maxの教科書』 ノイマンピアノ著（リットーミュージック）
『世界の調律』 R・マリー・シェーファー（平凡社）
『科学と芸術の対話』（NTT出版）
『見えないデザイン』 井出祐昭（Yamaha）他

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ・ソフト（波形編集できるもの、Logic、Pro-toolsなど）による編集・加工作業について各自日常的に学習・習熟して授業に臨んで欲しい。
授業の欠席が3分の1を超える者については、単位を認定しない。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス-メディアとしての音
2	音楽とメディア 録音と音楽-アコースマティック・アートとは
3	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析1 -フランス音楽の伝統との関係
4	ミュージック・コンクレートとアコースマティック作品分析2 -タイプ別分析方法
5	作品分析結果発表、考察
6	録音実習-具体音の録音
7	録音素材の分類と作曲技法解説
8	素材の加工方法について解説、実習
9	制作実習1-素材の扱いについて
10	制作実習2-空間の作り方について
11	立体音響空間演奏システム=アコースモニウムとは
12	アコースモニウム演奏実習1-解釈について
13	アコースモニウム演奏実習2-表現方法について
14	前期のまとめ
15	制作発表スタジオコンサートと解説

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス（後期の解説）
2	サウンドスケープ導入ータルコフスキー映画分析
3	サウンドスケープ・コンポジション
4	サウンドスペースコンポーザーについて
5	フィールドレコーディング実習（制作素材録音）
6	制作実習
7	サウンド・アート、サウンドインスタレーション作品分析
8	企画案、制作実習1ー企画の立て方
9	企画案・制作実習2ー企画案のまとめ方
10	映像と音響の表現について
11	映像と光と身体による舞台表現考察
12	ライブエレクトロニクスの歴史と作品
13	ライブエレクトロニクス実習
14	後期のまとめ
15	制作作品発表と解説

科目名	デジタル・オーケストレーション研究1 [木4]						
代表教員	前田 康德	授業コード	IE265100	科目コード	IE2651	期間	通年
担当教員	相馬 健太						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりもシンプルであるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

2. 授業概要

この講座は各教員による講義・実習を通して実際の作品を制作する。更にその作品をプロの演奏家により録音して作品を完成させる、一連のミュージック・プロダクションを学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

講義における課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
録音した楽曲は、各自のスコアと照らし合わせ、録音時に生じた相違点は修正しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
(指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修に際しては以下の条件を満たすこと。

- 1、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。
- 2、スコア、パート譜が作成できること。

授業計画	
	〔前期〕 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論
3	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（制作論）
7	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（制作論）
11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評
15	前期まとめと総評

授業計画	
	[後期] 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）
3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	各自実習用作品の準備（作品の構想）
7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング（後半）
11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会
15	後期まとめと総評

科目名	デジタル・オーケストレーション研究2 [木4]						
代表教員	前田 康德	授業コード	IE265200	科目コード	IE2652	期間	通年
担当教員	相馬 健太						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現代の音楽制作の工程は以前よりもシンプルであるが、生楽器の録音を伴う作業は基本的に変わっていない。この講座では、各教員の講義を参考にしながら、実際の音楽制作の流れを体験することにより、学生は音楽制作に必要な知識とスキルを得ることができる。

2. 授業概要

この講座は各教員による講義・実習を通して実際の作品を制作する。更にその作品をプロの演奏家により録音して作品を完成させる、一連のミュージック・プロダクションを学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

講義における課題曲の楽曲分析は事前に済ませておくこと。
録音した楽曲は、各自のスコアと照らし合わせ、録音時に生じた相違点は修正しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点100%
(指導教員が、履修者個々の指向性・研究過程・研究成果を総合的に考慮して、成績評価を決定する)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修に際しては以下の条件を満たすこと。

- 1、コンピュータ、MIDI、デジタルオーディオに関する基本的な知識を持っていること。
- 2、スコア、パート譜が作成できること。

授業計画	
	<p>[前期] 各教員の講義を受け、デジタルオーケストレーションの作品の参考とする。</p>
1	ガイダンス（講座概要）
2	デジタルオーケストレーション作品制作概論
3	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（音楽論）
4	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
5	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
6	上倉 紀行 ミュージックプロダクション（制作論）
7	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（音楽論）
8	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
9	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
10	渡辺俊幸 ミュージックプロダクション（制作論）
11	作品制作
12	作品制作指導
13	デジタルオーケストレーション作品発表
14	デジタルオーケストレーション作品発表と講評
15	前期まとめと総評

授業計画	
	[後期] 実際のプロダクションの流れに従いながら録音まで体験する。
1	後期ガイダンス（講座概要）
2	山下康介 ミュージックプロダクション（音楽論）
3	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲試聴）
4	山下康介 ミュージックプロダクション（楽曲分析論）
5	山下康介 ミュージックプロダクション（制作論）
6	各自実習用作品の準備（作品の構想）
7	作品指導（スコアの確認）
8	作品指導（パート譜の確認）
9	作品のレコーディング（前半）
10	作品のレコーディング（後半）
11	録音した作品のミックス作業
12	録音した作品のミックス作業（マスタリング）
13	作品発表
14	作品発表会
15	後期まとめと総評

科目名	録音・音響特殊研究1 [月4]						
代表教員	徳永 宏	授業コード	IE266100	科目コード	IE2661	期間	通年
担当教員	前田 康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

1. 主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

2. 授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。
後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60％） 平常点（評価の40％）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版
『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	アナログ減算合成 1 (音色の三要素)
2	アナログ減算合成 2 (モジュレーション)
3	前期作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム (加算合成、減算合成)
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム (変調合成)
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム (グラニューラ合成)
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析 1 (基礎)
12	音声入力分析 2 (応用)
13	プログラミング実習 1 (基礎)
14	プログラミング実習 2 (応用)
15	前期作品発表とまとめ

授業計画	
	[後期]
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用
4	FFT (実用的な活用)
5	Jitter objectを用いた映像処理 1 (準備)
6	Jitter objectを用いた映像処理 2 (ムービーの再生関連)
7	Jitter objectを用いた映像処理3 (マトリックス処理)
8	Jitter objectを用いた映像処理4 (画像の加工)
9	Jitter objectを用いた映像処理5 (画像の合成、描画)
10	企画発表
11	制作実習 1 (企画)
12	制作実習 2 (各インターフェイスの作成)
13	制作実習 3 (パッチのくみ上げ)
14	制作実習 4 (デバック作業)
15	後期作品発表と総括

科目名	録音・音響特殊研究2 [月4]						
代表教員	徳永 宏	授業コード	IE266200	科目コード	IE2662	期間	通年
担当教員	前田 康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	録音・音響特殊研究1						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

サウンド制作の基礎であるアナログ減算合成方式からFFT分析・再合成など高度な音声信号処理技術まで包括的に学ぶ。さらに、これらの技術が映画音楽や電子音響音楽の制作で同様に活用されているかを研究しサウンドデザインについての理解を深める。

2. 授業概要

前期：アナログ減算合成方式の実習、Maxの基本的なプログラミング手法を学び、様々な音合成、音響処理モジュールを制作する。
後期：高度な音響処理技術の習得、各々の方向性に基づいた作品を制作し授業内もしくは学内での演奏会で発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の60％） 平常点（評価の40％）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。

参考文献：

『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版

『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	アナログ減算合成 1 (音色の三要素)
2	アナログ減算合成 2 (モジュレーション)
3	前期作品発表
4	Maxプログラミングの基礎
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム (加算合成、減算合成)
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム (変調合成)
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム (グラニューラ合成)
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析 1 (基礎)
12	音声入力分析 2 (応用)
13	プログラミング実習 1 (基礎)
14	プログラミング実習 2 (応用)
15	前期作品発表とまとめ

授業計画	
	[後期]
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用
4	FFT (実用的な活用)
5	Jitter objectを用いた映像処理 1 (準備)
6	Jitter objectを用いた映像処理 2 (ムービーの再生関連)
7	Jitter objectを用いた映像処理3 (マトリックス処理)
8	Jitter objectを用いた映像処理4 (画像の加工)
9	Jitter objectを用いた映像処理5 (画像の合成、描画)
10	企画発表
11	制作実習 1 (企画)
12	制作実習 2 (各インターフェイスの作成)
13	制作実習 3 (パッチのくみ上げ)
14	制作実習 4 (デバック作業)
15	後期作品発表と総括

科目名	映像特殊研究 1 [火3]						
代表教員	山田 剛志	授業コード	IE267100	科目コード	IE2671	期間	通年
担当教員	前田 康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

映像特殊研究では、単なる映像制作やそのスキルの習得を目標とするのではなく、自身の目指す表現を実現するための複合的なアイデア、考えた方の獲得を目指す。最終的には音楽と視覚の関係について研究することが目的である。

2. 授業概要

前期は、一般的な映像制作の企画、動画、静止画の制作方法を概観し、視覚的な効果と音との関連性について学習する。後期においては、作品の表現を実現するための複合的な考え方、ツールの使い方、制作方法の習得を目指す。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

PCの基本操作、各アプリケーションの使用方法は、事前に予習しておくこと。
使用するソフトウェア：Photoshop, Illustrator, AfterEffects, Unity, MAYA

4. 成績評価の方法及び基準

作品への取り組み60%、授業への取り組み40%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

※参考文献（進行具合に寄って変更する可能性があります）
 ・ Mayaベーシックス 3DCG基礎力育成ブック
 ・ After Effects FIRST LEVEL:ゼロからはじめる映像制作基礎テクニック
 ・ Unityの教科書 Unity 2018完全対応版
 ・ Unity ゲームエフェクト入門 Shurikenで作る! ユーザーを引き込む演出手法

その他、指導教員の指示に従い準備すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	環境のセットアップは第3回目開始までに完了しておくこと。 レンダリングについては、非常に時間がかかる場合があるので、右記の計画を遂行するには、事前に出力しておくなど事前の準備が必要である。
1	ガイダンス
2	環境のセットアップ (MAYA、Unity、Adobe系ソフト)
3	映像制作の基礎1 (映像の歴史、ゲームにおける映像表現)
4	映像制作の基礎1 (映像を企画するという事、絵コンテ)
5	MAYA基礎1 (基本的なワークフロー)
6	MAYA基礎2 (モデリング、テクスチャ)
7	MAYA基礎3 (ライティング、レンダリング)
8	MAYA基礎4 (アニメーション)
9	AfterEffects (基本的なワークフロー)
10	AfterEffects (素材を読み込んで編集してみる)
11	AfterEffects (映像にエフェクトをつけてみる)
12	AfterEffects (映像に音をつけてみる)
13	Unity (基本的なワークフロー、素材を読みこんでみる)
14	Unity (簡単な世界をつくってみる)
15	Unity (簡単なゲームをつくってみる)

授業計画	
	自身の名前をクレジットする作品を作るという意識を持って企画を考える必要性、心構えについて
1	ケーススタディ・1（映像と音楽の組み合わせ）
2	ケーススタディ・2（映像とSEの組み合わせ）
3	ケーススタディ・2（ゲームと映像の組み合わせ）
4	企画立案（アイデア検討）
5	映像構成作成（草案、字コンテ）
6	絵コンテ作成
7	絵コンテに従い素材制作
8	絵コンテに従い素材制作（修正など手直し）
9	編集作業（PCに取り込み）
10	編集作業
11	音楽・サウンドの準備
12	出力作業（目的別に応じたセットアップ）
13	出力作業（バッチによる出力）
14	作品提出・レポート提出
15	作品上映・講評

科目名	映像特殊研究2 [火3]						
代表教員	山田 剛志	授業コード	IE267200	科目コード	IE2672	期間	通年
担当教員	前田 康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択				
前提科目	映像特殊研究1						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

映像特殊研究では、単なる映像制作やそのスキルの習得を目標とするのではなく、自身の目指す表現を実現するための複合的なアイデア、考えた方の獲得を目指す。最終的には音楽と視覚の関係について研究することが目的である。

2. 授業概要

前期は、一般的な映像制作の企画、動画、静止画の制作方法を概観し、視覚的な効果と音との関連性について学習する。後期においては、作品の表現を実現するための複合的な考え方、ツールの使い方、制作方法の習得を目指す。限られた時間で創作するため、効率的な作業計画、実施に努めること。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

PCの基本操作、各アプリケーションの使用方法は、事前に予習しておくこと。
使用するソフトウェア：Photoshop, Illustrator, AfterEffects, Unity, MAYA

4. 成績評価の方法及び基準

作品への取り組み60%、授業への取り組み40%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

※参考文献（進行具合に寄って変更する可能性があります）
 ・ Mayaベーシックス 3DCG基礎力育成ブック
 ・ After Effects FIRST LEVEL:ゼロからはじめる映像制作基礎テクニック
 ・ Unityの教科書 Unity 2018完全対応版
 ・ Unity ゲームエフェクト入門 Shurikenで作る! ユーザーを引き込む演出手法

その他、指導教員の指示に従い準備すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	環境のセットアップは第3回目開始までに完了しておくこと。 レンダリングについては、非常に時間がかかる場合があるので、右記の計画を遂行するには、事前に出力しておくなど事前の準備が必要である。
1	ガイダンス
2	環境のセットアップ (MAYA、Unity、Adobe系ソフト)
3	映像制作の基礎1 (映像の歴史、ゲームにおける映像表現)
4	映像制作の基礎1 (映像を企画するという事、絵コンテ)
5	MAYA基礎1 (基本的なワークフロー)
6	MAYA基礎2 (モデリング、テクスチャ)
7	MAYA基礎3 (ライティング、レンダリング)
8	MAYA基礎4 (アニメーション)
9	AfterEffects (基本的なワークフロー)
10	AfterEffects (素材を読み込んで編集してみる)
11	AfterEffects (映像にエフェクトをつけてみる)
12	AfterEffects (映像に音をつけてみる)
13	Unity (基本的なワークフロー、素材を読みこんでみる)
14	Unity (簡単な世界をつくってみる)
15	Unity (簡単なゲームをつくってみる)

授業計画	
	自身の名前をクレジットする作品を作るという意識を持って企画を考えること
1	ケーススタディ・1（映像と音楽の組み合わせ）
2	ケーススタディ・2（映像とSEの組み合わせ）
3	ケーススタディ・2（ゲームと映像の組み合わせ）
4	企画立案（アイデア検討）
5	映像構成作成（草案、字コンテ）
6	絵コンテ作成
7	絵コンテに従い素材制作
8	絵コンテに従い素材制作（修正など手直し）
9	編集作業（PCに取り込み）
10	編集作業
11	音楽・サウンド準備
12	出力作業（目的別に応じたセットアップ）
13	出力作業（バッチによる出力）
14	作品提出・レポート提出
15	作品上映・講評

科目名	作曲法特殊研究 1 (作曲)					
代表教員	清水 昭夫	授業コード	IE2701A0	科目コード	IE2701	期間
担当教員	久行 敏彦					
授業形態	演習	配当学年	1			
対象コース	CO	科目分類				
前提科目	特になし					
教員免許状						

1. 主題・到達目標

作曲法という言葉はさまざまなテクニックを指すが、本授業においては特に和声法について、これまでに修得してきたテクニックをさらに向上させることを主題とする。

和声法は20世紀にH. シャランをはじめとする理論家によって大きな発展を遂げた。日本においても島岡譲氏らによる『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅲ』（音楽之友社）により例えば模倣反復進行、偶成和音、保続音、2個の主題の同時的提示をもつバス課題、階梯導入をもつバス課題など、さまざまな概念や課題様式が考案された。さらに、特にフランスにおいて特定の作曲家の和声様式に基づく課題などへと発展し今日に至る。

本授業では、それらの課題様式における難度の高い課題を中心に修得するとともに、それらの課題を作成する力を身につけることを目標とする。

2. 授業概要

学生の技量に合わせて目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：

『和声 理論と実習Ⅲ』（音楽之友社）

『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）

『Vingt Leçons d'Harmonie』（O. メシアン著／LEDUC社刊）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 目標の設定 課題の研究 反復進行、偶成和音、保続音を含む課題
2	課題の創作 反復進行、偶成和音、保続音を含む課題
3	課題の研究 内声における主題再現を含む課題
4	課題の創作 内声における主題再現を含む課題
5	模範例作成 内声における主題再現を含む課題
6	課題の研究 反復進行を含む課題
7	課題の創作 反復進行を含む課題
8	模範例作成 反復進行を含む課題
9	課題の研究 偶成和音を含む課題
10	課題の創作 偶成和音を含む課題
11	模範例作成 偶成和音を含む課題
12	課題の研究 2個の主題の同時的提示をもつバス課題
13	課題の創作 2個の主題の同時的提示をもつバス課題
14	模範例作成 2個の主題の同時的提示をもつバス課題
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	[後期]
1	課題の研究 J. S. バッハ様式
2	課題の創作 J. S. バッハ様式
3	模範例作成 J. S. バッハ様式
4	課題の研究 W. A. モーツァルト様式
5	課題の創作 W. A. モーツァルト様式
6	模範例作成 W. A. モーツァルト様式
7	課題の研究 R. シューマン様式
8	課題の創作 R. シューマン様式
9	模範例作成 R. シューマン様式
10	課題の研究 J. ブラームス様式
11	課題の創作 J. ブラームス様式
12	模範例作成 J. ブラームス様式
13	課題の研究 R. ワーグナー様式
14	課題の創作 R. ワーグナー様式
15	模範例作成 R. ワーグナー様式 1年間の総括

科目名	作曲法特殊研究 1 (二胡)						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	IE2701B0	科目コード	IE2701	期間	通年
担当教員	大江 千佳子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

西洋音楽における五線を用いる記譜法は、今日では世界に広く浸透し、あらゆる音楽の記譜に用いられるようになってきた。しかし、五線記譜法は全ての音楽を書き表すのに適しているというわけではなく、今日でも各地域の文化、伝統によって独自の記譜法が定着している楽器や、口伝によって受け継がれている音楽も存在する。西洋音楽でも音符で書き表さず、記号(装飾音)の使用によって旋律の装飾を指示することもある。一方、楽譜に指示がなくても自由な装飾を施す必要のある作品もある。

本授業では、①五線記譜法とそれ以外の記譜法の違いを研究し、相互に書き表す方法を修得すること ② 様々な楽器の奏法や音楽語法を考察し、各自の専攻へ応用できるようになることを主題及び目標とする。

作曲法特殊研究 1 では、主に中国の二胡の記譜法を学び、五線記譜法との連携を研究する。さらに楽曲の作成に取り組み、新たな二胡の音楽の可能性を見出していく。

2. 授業概要

例えば日本における箏や三味線、中国における二胡など、それぞれの楽器や音楽文化における独自の記譜法について、五線記譜法との違いを研究する。各楽器については専門家のアドバイスを受ける。

また、作曲・編曲をおこないながら、音の響きや曲の展開方法などを研究し、さまざまな音楽作品を的確に解釈する能力を養っていく。

3. 授業時間外の学習 (予習復習について)

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、日頃より多くの楽譜を書き、それを演奏することで、最大の学修効果を得ることができる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点 (評価の100%)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献:

『楽譜の書き方』 (平石博一著/東京ハッスルコピー)

6. 履修の条件・クラス分けの方法 (履修者への要望等)

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 目標の設定
2	記譜の研究 (二胡)
3	記譜の実践 (二胡)
4	編曲の研究 編曲作品の研究
5	編曲の実践 歌曲からの編曲
6	編曲の実践 弦楽器の作品からの編曲
7	編曲の実践 ピアノの作品からの編曲
8	作曲演習 作曲にあたっての注意
9	作曲演習 (二胡) 曲の構成
10	作曲演習 (二胡) テーマの作成
11	作曲演習 (二胡) テーマの展開
12	作曲演習 (二胡) ニュアンス、アゴーギク等の音楽表現
13	作曲演習 (二胡) 浄書
14	作曲演習 (二胡) 演奏
15	前期の総括と講評

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス 目標設定
2	西洋音楽の記譜法 音高、音価、リズム
3	西洋音楽の記譜法 拍子
4	西洋音楽の記譜法 装飾音
5	西洋音楽の楽曲研究 形式
6	西洋音楽の楽曲研究 和声
7	西洋音楽の楽曲研究 弦楽器とピアノの作品
8	作曲演習（二胡とピアノ）曲の構成
9	作曲演習（二胡とピアノ）テーマの作成
10	作曲演習（二胡とピアノ）テーマの展開
11	作曲演習（二胡とピアノ）伴奏部の作成
12	作曲演習（二胡とピアノ）浄書
13	作曲演習（二胡とピアノ）演奏
14	日本音楽の記譜法（箏、尺八、三味線）
15	後期の総括と講評

科目名	楽曲分析法特殊研究1 [月2]						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE271100	科目コード	IE2711	期間	通年
担当教員	清水 昭夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

どのようなジャンルの音楽家にとっても、西洋クラシックの歴史や美学史の知識は、自らの創作や演奏活動の発展の礎となる。そこで、前期は主に各時代の音楽について、社会的文化的背景、美学、楽譜、音楽様式、楽器、演奏習慣など様々な観点から学ぶ。ディスカッションを交えて自ら考える力を養う。

2. 授業概要

授業は主に講義形式で進められるが、ときには文献や楽譜をもとに自ら研究・発表・ディスカッションを行う。それを通して具体的な研究方法を身に着けると同時に、論理的な思考力、文章力、話をする力を養う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習は当然ながら、あらゆる時代の音楽への関心を持ち、自発的に研究する態度を求めたい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度担当教員が指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修者の専門分野や関心ごとにも考慮した内容を心掛ける。また、授業計画で挙げられた授業回数とともに、授業時間外の学習時間が必要となるので留意されたい。

授業計画	
	[前期]
1	導入
2	古代ギリシャの音楽 時代背景・思想・音楽理論など
3	中世の音楽～芸術理念・キリスト教典礼音楽の隆盛
4	中世の音楽～音楽理論と哲学
5	中世の音楽～初期の多声音楽と様々な典礼音楽
6	中世の音楽～ノートルダム楽派、アルス・アンティクワ
7	中世の音楽～ノートルダム楽派
8	中世の音楽～アルス・ノーヴァ、様々な楽器と演奏の実践
9	中世の音楽～楽器と演奏習慣
10	ルネサンス音楽～精神思潮としての人文主義、社会、出来事
11	ブルゴーニュ楽派、デュファイとバンショワ、ルネサンス初期の声楽形式
12	盛期ルネサンス音楽～フランドル楽派、ジョスカン・デ・ブレ他
13	ルネサンス音楽～各地の音楽・ドイツ、フランス、イギリス、イタリア
14	バロック音楽～芸術、精神、初期の音楽の様相
15	バロック音楽～イタリア・オペラの発展

授業計画	
	[後期]
1	バロック音楽～17世紀の器楽曲
2	バロック音楽～後期 イタリア、ドイツ、フランス
3	バロック音楽 - バッハ・ヘンデル
4	前古典派と古典派音楽 総論
5	古典派音楽～モーツァルト・ハイドン
6	ベートーヴェンとその時代
7	音楽美学ー近代（音楽の自律化）
8	音楽美学ーロマン派の感情美学
9	ロマン主義時代～時代精神、初期の作曲家
10	19世紀中期の作曲家と音楽
11	ロマン主義運動の頂点～19世紀末の音楽
12	19世紀末から20世紀初頭にかけての諸相
13	20世紀音楽の諸相
14	音楽美学ー音楽とは何か
15	授業のまとめ

科目名	楽曲分析法特殊研究2						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE271200	科目コード	IE2712	期間	通年
担当教員	清水 昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

どのようなジャンルの音楽家にとっても、西洋クラシックの歴史や美学史の知識は、自らの創作や演奏活動の発展の礎となる。そこで、前期は主に各時代の音楽について、社会的文化的背景、美学、楽譜、音楽様式、楽器、演奏習慣など様々な観点から学ぶ。ディスカッションを交えて自ら考える力を養う。

2. 授業概要

授業は主に講義形式で進められるが、ときには文献や楽譜をもとに自ら研究・発表・ディスカッションを行う。それを通して具体的な研究方法を身に着けると同時に、論理的な思考力、文章力、話をする力を養う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習は当然ながら、あらゆる時代の音楽への関心を持ち、自発的に研究する態度を求めたい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度担当教員が指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修者の専門分野や関心ごとにも考慮した内容を心掛ける。また、授業計画で挙げられた授業回数とともに、授業時間外の学習時間が必要となるので留意されたい。

授業計画	
	[前期]
1	導入
2	古代ギリシャの音楽 時代背景・思想・音楽理論など
3	中世の音楽～芸術理念・キリスト教典礼音楽の隆盛
4	中世の音楽～音楽理論と哲学
5	中世の音楽～初期の多声音楽と様々な典礼音楽
6	中世の音楽～ノートルダム楽派、アルス・アンティクワ
7	中世の音楽～ノートルダム楽派
8	中世の音楽～アルス・ノーヴァ、様々な楽器と演奏の実践
9	中世の音楽～楽器と演奏習慣
10	ルネサンス音楽～精神思潮としての人文主義、社会、出来事
11	ブルゴーニュ楽派、デュファイとバンショワ、ルネサンス初期の声楽形式
12	盛期ルネサンス音楽～フランドル楽派、ジョスカン・デ・ブレ他
13	ルネサンス音楽～各地の音楽・ドイツ、フランス、イギリス、イタリア
14	バロック音楽～芸術、精神、初期の音楽の様相
15	バロック音楽～イタリア・オペラの発展

授業計画	
	[後期]
1	バロック音楽～17世紀の器楽曲
2	バロック音楽～後期 イタリア、ドイツ、フランス
3	バロック音楽 - バッハ・ヘンデル
4	前古典派と古典派音楽 総論
5	古典派音楽～モーツァルト・ハイドン
6	ベートーヴェンとその時代
7	音楽美学ー近代（音楽の自律化）
8	音楽美学ーロマン派の感情美学
9	ロマン主義時代～時代精神、初期の作曲家
10	19世紀中期の作曲家と音楽
11	ロマン主義運動の頂点～19世紀末の音楽
12	19世紀末から20世紀初頭にかけての諸相
13	20世紀音楽の諸相
14	音楽美学ー音楽とは何か
15	授業のまとめ

科目名	アンサンブル特殊研究 1						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	IE272100	科目コード	IE2721	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	C0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

民族楽器などを含むさまざまな楽器における旋律線を深く研究し、新たな可能性を模索するとともに、その旋律線に対しての和声法を研究する。西洋音楽における和声法にとどまらず、旋法や五音音階など幅広い音階に目を向けて研究する。また完成した旋律、ハーモニーをもとにどのようなアンサンブルが可能かを研究し、作曲と演奏の両面に実践につなげていく。アンサンブル特殊研究 1 では、西洋の伝統的な旋法を中心に研究する。

2. 授業概要

授業ではさまざまな旋律線を研究するが、西洋音楽の記譜法によって表現できないなど、場合によっては記譜法も研究する。最終的には楽譜を制作し、アンサンブル可能な形へとスコア、パート譜等を完成させる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施し、完成させること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の100%）

平常点には授業への参加姿勢や毎回の課題の達成度、そして授業内でのアンサンブルの完成度が含まれる。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：

『音楽言語の技法』（0.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

洗足学園音楽大学 SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC

<https://www.senzoku-online.jp/theory/classic/>

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 目標の設定
2	長短旋法と教会旋法につて
3	旋律と和声の研究（長旋法と和声）
4	合奏譜の作成演習（長旋法と和声）
5	アンサンブル演習（長旋法と和声）
6	旋律と和声の研究（短旋法と和声）
7	合奏譜の作成演習（短旋法と和声）
8	アンサンブル演習（短旋法と和声）
9	旋律と和声の研究（エオリア旋法と和声）
10	合奏譜の作成演習（エオリア旋法と和声）
11	アンサンブル演習（エオリア旋法と和声）
12	旋律と和声の研究（ドリア旋法と和声）
13	合奏譜の作成演習（ドリア旋法と和声）
14	アンサンブル演習（ドリア旋法と和声）
15	前期のまとめと講評

授業計画	
	[後期]
1	旋律と和声の研究（フリギア旋法と和声）
2	合奏譜の作成演習（フリギア旋法と和声）
3	アンサンブル演習（フリギア旋法と和声）
4	旋律と和声の研究（リディア旋法と和声）
5	合奏譜の作成演習（リディア旋法と和声）
6	アンサンブル演習（リディア旋法と和声）
7	旋律と和声の研究（ミクソリディア旋法と和声）
8	合奏譜の作成演習（ミクソリディア旋法と和声）
9	アンサンブル演習（ミクソリディア旋法と和声）
10	教会旋法を用いた作曲演習
11	様々な西洋の音階（ハンガリー、ジプシーなど）について
12	旋律と和声の研究（様々な西洋の音階）
13	合奏譜の作成演習（様々な西洋の音階）
14	アンサンブル演習（様々な西洋の音階）
15	1年間の総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究I						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275100	科目コード	IE2751	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による指導により、専門家としてのスキル向上を目指す。

2. 授業概要

演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画

	<p>[前期] 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。</p>
1	前期ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する
3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について
7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習 基本
9	課題における表現法の演習 応用
10	演習とまとめ
11	発声法講座
12	合唱指導法講座
13	宗教曲講座
14	音楽家のための英会話
15	音楽家のための体幹トレーニング

授業計画	
	<p>[後期] 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。</p>
1	後期ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察
3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習
7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習 基本
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習 応用
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ
11	日本歌曲特別講座
12	フランス歌曲特別講座
13	ドイツ歌曲特別講座
14	イタリア歌曲特別講座
15	1年間の授業の統括

科目名	プロフェッショナル特殊研究II						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275200	科目コード	IE2752	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	外国人教授の授業は、通訳が付かない場合もあるので、ある程度の外国語（英語・伊語など）理解力が必要						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自の研究テーマおよび目標にあわせて、招聘教授・本学客員教授による指導により、専門家としてのスキル向上を目指す。

2. 授業概要

演奏法・表現法の演習を行う。その他演奏家にとって必要なスキルを学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に教員から与えられた課題をよく理解して、各自で必ず復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自研究テーマに沿って準備する。その他ガイダンス時に各指導教員より指示がある

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演奏曲、研究課題は各レッスン担当教員と相談すること

授業計画	
	<p>[前期] 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。</p>
1	前期ガイダンス（演奏法に関する演習）
2	各自の研究テーマにより課題を選曲し研究する
3	イタリア語研究課題について
4	イタリア語における母音発語法
5	イタリア語における子音発語法
6	歌唱における呼吸運動について
7	イタリア語における言葉と響きについて
8	課題における表現法の演習 基本
9	課題における表現法の演習 応用
10	演習とまとめ
11	発声法講座
12	合唱指導法講座
13	宗教曲講座
14	音楽家のための英会話
15	音楽家のための体幹トレーニング

授業計画	
	<p>[後期] 下表は暫定的なものであるが、詳細は授業を担当する教員がガイダンス時に発表する。集中講義になる可能性も有る。</p>
1	後期ガイダンス（表現法に関する演習）
2	感情表現と身体表現についての考察
3	ヨーロッパにおける感情表現について
4	慣習から考察する表現、演奏法について
5	身体表現を加えた演奏法の演習
6	課題による舞台表現の演習
7	課題による舞台表現及び舞台マナーについての考察
8	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習 基本
9	課題による舞台表現及び舞台マナーについての演習 応用
10	与えられた課題による舞台表現の演習とまとめ
11	日本歌曲特別講座
12	フランス歌曲特別講座
13	ドイツ歌曲特別講座
14	イタリア歌曲特別講座
15	1年間の授業の統括

科目名	オペラ研究 1・2 [水3-4、木2-4]						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275300	科目コード	IE2753d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

オペラ歌手として舞台に立つための様々な基礎的内容の習得、各々の声に応じた作品による音楽表現・舞台身体表現の研究を踏まえ、オペラ・ガラコンサートにおいて課題の作品を完成させる。

2. 授業概要

前期、1年生はモーツァルトを題材とし、院2年はドイツ語オペラを中心に研究する。
前期は主にディクショ、音楽稽古を中心に行い、後期は一部演目を変えて、「オペラガラコンサート」に向けて稽古を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各回与えられた課題、問題点を解決できるよう自主練習をすること

4. 成績評価の方法及び基準

授業の参加姿勢、習熟度を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

自分の演奏する楽譜に関しては各自で用意する。版について指定のある場合は事前に告知する。その他、必要なものは授業内で配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自課題とするオペラ作品のヴォーカル・スコアを準備すること。
欠席回数、遅刻早退回数が多い場合は単位認定を行わない。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンスと授業概要説明
2	コレペティートルによる音楽研究 「フィガロの結婚」から、イタリア語における発語の基礎
3	コレペティートルによる音楽研究 「フィガロの結婚」からモーツァルトにおける楽譜の解析
4	コレペティートルによる音楽研究 「魔笛」から、ドイツ語の発語の基礎
5	コレペティートルによる音楽研究 「魔笛」から、楽譜の解析と読解
6	指揮者による音楽研究 「フィガロの結婚」から、言葉と音のつながりについて
7	指揮者による音楽研究 「フィガロの結婚」から、各キャラクターの音楽表現について
8	指揮者による音楽研究 「魔笛」による役作りと音の表現について
9	演出家による音楽研究 「フィガロの結婚」作品の背景について
10	演出家による音楽研究 「魔笛」作品の背景について
11	声楽講師による音楽研究 「フィガロの結婚」「椿姫」より
12	声楽講師による音楽研究 「フィガロの結婚」声の表現と身体表現について
13	声楽講師による音楽研究 「魔笛」における発声を基本とする台詞表現について
14	指揮者と演出家による音楽チェック
15	前期まとめとして、授業内発表

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス・後期オペラガラコンサートに向けて、演目の決定
2	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察 基本
3	声楽講師による音楽研究／各曲の作品考察 応用
4	演出家による作品への考察
5	演出家による各場面への考察
6	立ち稽古「フィガロの結婚」「ランメルモアのルチア」
7	立ち稽古「フィガロの結婚」「リゴレット」
8	立ち稽古「フィガロの結婚」／基本動作
9	立ち稽古「フィガロの結婚」／舞台上の道具の扱い等
10	立ち稽古「魔笛」／ジグシュピールによる演技の基本
11	立ち稽古「魔笛」
12	各演目荒通し
13	各演目荒通し 確認
14	G.P.
15	「オペラ・ガラコンサート」本番

科目名	アンサンブル研究1 [月2]						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275500	科目コード	IE2755	期間	通年
担当教員	櫻田 亮						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

2. 授業概要

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドバイスの従い、必要な予備研究等を行う。

4. 成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。授業への出席を重視する。

授業計画	
	[前期] 授業の進度により変更有
1	前期ガイダンス
2	研究課題曲の選定
3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクショント解釈
5	パート練習実践
6	自分と違うパートの指導実践
7	意見交換を含めてのパート練習実践
8	独唱曲の聴きあい
9	意見交換を含めて独唱曲を研究
10	個々に研究し再度独唱曲の聴きあい
11	本番を想定しての独唱曲の演奏
12	フィードバックをしさらに独唱曲の研究
13	独唱曲おさらい会
14	前期反省会
15	後期に向けてのガイダンス

授業計画	
	[後期] 授業の進度により変更有
1	後期ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けて曲目の意見交換
3	研究発表演奏会に向けての曲目選定
4	研究発表演奏会に向けての曲目決定
5	ソリストをオーディション
6	ソリスト決定
7	研究課題曲のパート練習
8	研究課題曲のディクショと解釈
9	歌唱演習
10	歌唱演習及び表現の研究
11	パートごと課題曲を演奏
12	フィードバック後の課題曲の演奏
13	全体合唱合わせ
14	研究発表演奏会に向けて最終確認
15	研究発表演奏会のG. P

科目名	アンサンブル研究2 [月2]						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275600	科目コード	IE2756	期間	通年
担当教員	櫻田 亮						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

キリスト教宗教音楽の声楽作品について、独唱曲、重唱曲、合唱曲を総合的に演習・研究し、それぞれの演奏に必要な技術、表現力などを修得する。

2. 授業概要

主にバロック時代や古典派の、ミサ曲、オラトリオなどから、作品を全曲あるいは抜粋して取り上げて演習・研究し、履修年度内に研究発表演奏会を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各自の研究課題について、授業内で教員から与えられるアドバイスの従い、必要な予備研究等を行う。

4. 成績評価の方法及び基準

研究発表演奏会での演奏内容、授業への参加姿勢を評価の対象とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で発表する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修年度内に行われる研究発表演奏会への出演を前提として履修すること。必要に応じて補講を行う場合があるので、できる限り参加すること。また各自の研究課題以外に、他の学生の研究課題にも興味を持ち、積極的に授業に臨むこと。授業への出席を重視する。

授業計画	
	[前期] 授業の進度により変更有
1	前期ガイダンス
2	研究課題曲の選定
3	研究課題曲の決定
4	研究課題曲のディクショント解釈
5	パート練習実践
6	自分と違うパートの指導実践
7	意見交換を含めてのパート練習実践
8	独唱曲の聴きあい
9	意見交換を含めて独唱曲を研究
10	個々に研究し再度独唱曲の聴きあい
11	本番を想定しての独唱曲の演奏
12	フィードバックをしさらに独唱曲の研究
13	独唱曲おさらい会
14	前期反省会
15	後期に向けてのガイダンス

授業計画	
	[後期] 授業の進度により変更有
1	後期ガイダンス
2	研究発表演奏会に向けて曲目の意見交換
3	研究発表演奏会に向けての曲目選定
4	研究発表演奏会に向けての曲目決定
5	ソリストをオーディション
6	ソリスト決定
7	研究課題曲のパート練習
8	研究課題曲のディクショント解釈
9	歌唱演習
10	歌唱演習及び表現の研究
11	パートごと課題曲を演奏
12	フィードバック後の課題曲の演奏
13	全体合唱合わせ
14	研究発表演奏会に向けて最終確認
15	研究発表演奏会のG. P

科目名	歌曲研究 1 [月3 日] [月5 仏] [火2 伊] [金4 独]						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275700	科目コード	IE2757	期間	通年
担当教員	土屋 雅子、悦田 比呂子、服部 真由子、上園 未佳、牧野 正人、宮部 小牧						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	V0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

課題曲の詩の解釈を通し、正しい発音、発語で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

2. 授業概要

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンス時に各指導教員より指示がある。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・バロック音楽概論 「ルネッサンスから初期バロックへ」 ・ドイツリートについて／ドイツ語発音の基礎演習
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バロック音楽史 「音楽技術の進化」 ・古典派の歌曲作品 モーツァルトを中心に
3	<ul style="list-style-type: none"> ・初期バロック概要 ・シューベルトの歌曲作品 1
4	<ul style="list-style-type: none"> ・Caccini, G. "Le Nuove Musiche" ・シューベルトの歌曲作品2
5	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 Amarilli, mia bella ・シューマンの歌曲作品
6	<ul style="list-style-type: none"> ・装飾音について ・シューマン、メンデルスゾーン、リスト、 ワーグナーらの歌曲作品
7	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 Dolcissimo sospiro ・ブラームスの歌曲作品
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴィヴァルトコントロール ・前半の総括
9	<ul style="list-style-type: none"> ・Monteverdi. C. の音楽作品 ・ヴォルフの歌曲作品 1 (メーリケ)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・中、後期バロック概要 ・ヴォルフの歌曲作品 2 (ゲーテ他)
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダ・カーポ形式について ・R. シュトラウスとマーラーの歌曲作品 1
12	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 Scarlatti, A. 独唱カンタータ ・R. シュトラウスとマーラーの歌曲作品 2
13	<ul style="list-style-type: none"> ・Handel, G.F. の音楽作品 ・様々な近代歌曲
14	<ul style="list-style-type: none"> ・通奏低音実習 ・後半の総括／授業内発表に向けての準備
15	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 「バロック音楽作品の楽しみ」 ・授業内発表

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲歌唱のためのフランス語発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・G. フォーレの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 En prière, Les presents, Chanson d'amour 等 ・山田耕柞の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
3	・G. フォーレの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕柞の童謡作品について研究と演習
4	・H. デュパルクの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Chanson triste, Lamento 等 ・山田耕柞の童謡作品について研究と演習
5	・H. デュパルクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・C. ドビュッシーの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Sérénade italienne, Le temps des lilas 等 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
7	・C. ドビュッシーの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・A. ルーセルの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 L'île heureuse, Villanelle des petits canaux 等 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・A. ルーセルの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・F. ブーランクの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
11	・F. ブーランクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・D. deセヴラック歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・D. deセヴラック歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・これまでに取り上げた作品の総括及び歌唱チェック ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
15	・授業内試演会 ・まとめと授業内発表会

科目名	歌曲研究2 [月3 日] [月5 仏] [火2 伊] [金4 独]				
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	IE275800	科目コード	IE2758
担当教員	土屋 雅子、悦田 比呂子、服部 真由子、上園 未佳、牧野 正人、宮部 小牧				
授業形態	演習	配当学年	2		
対象コース	V0	科目分類	専門選択		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

の解釈をし、正しい発音で、それぞれの作品の持つ音楽的なスタイルや歌唱法、表現法を研究し、レパートリーとして演奏表現出来ることを目指す。

2. 授業概要

様々な角度から歌曲の魅力を探り、理解を深め、テキストの解釈、歌唱、表現に結びつけていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業時に各教員から与えられた課題をよく理解し、各自で復習をし、次の授業に備えること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢および課題の完成度。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

ガイダンスの時に各指導教員より指示がある。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、それぞれの歌曲を選択する。

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・バロック音楽概論 「ルネッサンスから初期バロックへ」 ・ドイツ語の発語と発音(シューベルト 野ばら)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・バロック声楽史 「声楽技術の進化」 ・古典派 ハイドンとモーツアルトの歌曲作品
3	<ul style="list-style-type: none"> ・初期バロック概要 ・モーツアルトとベートーベンの歌曲作品
4	<ul style="list-style-type: none"> ・Caccini, G. "Le Nuove Musiche" ・前期ロマン派 シューベルトの歌曲作品
5	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 Amarilli, mia bella ・連作歌曲作品の詩と音楽(ベートーベン、シューベルト、シューマン)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・装飾音について ・シューマンの歌曲作品
7	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 Dolcissimo sospiro ・前半のまとめ
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ヴィヴァルトコントロール ・メンデルスゾーン、リスト、ワーグナーの歌曲作品
9	<ul style="list-style-type: none"> ・Monteverdi, C. の声楽作品 ・後期ロマン派 ブラームスの歌曲作品 1
10	<ul style="list-style-type: none"> ・中、後期バロック概要 ・ブラームスの歌曲作品 2
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダ・カーポ形式について ・ヴォルフの歌曲作品 1
12	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 Scarlatti, A. 独唱カンタータ ・詩人ゲーテ、メーリケ、アイヒェンドルフとヴォルフの歌曲作品 2
13	<ul style="list-style-type: none"> ・Handel, G.F. の声楽作品 ・シュトラウスの歌曲作品 1
14	<ul style="list-style-type: none"> ・通奏低音実習 ・シュトラウスの歌曲作品 2
15	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 「バロック声楽作品の楽しみ」 ・後半のまとめ

授業計画	
	授業の進度により変更有り。
1	・フランス歌曲歌唱のためのフランス語発音規則の説明及び演習 ・日本歌曲ガイダンス
2	・G. フォーレの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 En prière, Les presents, Chanson d'amour 等 ・山田耕柝の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
3	・G. フォーレの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・山田耕柝の童謡作品について研究と演習
4	・H. デュパルクの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Chanson triste, Lamento 等 ・山田耕柝の童謡作品について研究と演習
5	・H. デュパルクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
6	・E. ショーソンの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 Sérénade italienne, Le temps des lilas 等 ・中田喜直の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
7	・E. ショーソンの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・別宮貞雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
8	・E. シャブリエの歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 L'île heureuse, Villanelle des petits canaux 等 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その1
9	・E. シャブリエの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・團伊玖磨の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習その2
10	・F. プーランクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・柴田南雄の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
11	・F. プーランクの歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・橋本国彦の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
12	・M. ローゼンタル歌曲1. ディクシオン、詩人、作曲家、時代背景等の研究及び演習 La souris d'angleterre, Le vieux chateau du zoo 等 ・平井康三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
13	・M. ローゼンタル歌曲2. 解釈、歌唱法の研究及び演習 ・高田三郎の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
14	・フォーレ、デュパルク、ショーソン作品の総括及び歌唱チェック ・木下牧子の歌曲作品について、詩と音楽についての研究と演習
15	・シャブリエ、プーランク、ローゼンタル作品の総括及び歌唱チェック ・まとめと授業内発表会

科目名	合唱指導法研究 [木3-4]						
代表教員	相澤 直人	授業コード	IE277000	科目コード	IE2770	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

前期は現在、恒例となっているNHK全国学校音楽コンクールの課題曲（全部門）に集中的に取り組み、分析を含めて曲を音楽的に高めていく過程を共有し、学ぶことが中心となる。詩、曲ともに毎年書き下ろされるこの課題曲を、全国の小中高の合唱部と同時期に取り組むことによって、日本の合唱界を支える音楽教育にも興味を拡大し、将来の活動の糧となることを期待する。また、本年度は、通年でドブロゴス作曲のミサを取り上げる。（その他の曲目は未定。受講生のレベルや音色などを加味して決定し、授業内で指示をする。）

授業内では他声部、伴奏楽器との対峙・融和といった、合唱ならではの要素はもちろんだが、音楽そのもの（特に、作曲家が楽譜に書ききれないニュアンスや、最も音楽的であるべきexpressive noteについて）を、作曲家でも合唱指揮者でもある目線から指導する。また、声楽家が合唱の指導（ヴォイストレーニングや指揮／指導）を依頼されるケースは非常に多いため、現場で必要な考え方やスキルなども授業内で積極的に共有し、考えていきたい。

なお、成果発表の場として、前期は6月22日（土）、また後期は12月1日（日）の「合唱の祭典」が決定しているため、各自出演することを了承の上で履修をすること。

2. 授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。演奏会の曲目の反復練習を中心とし、前期・後期の演奏会（「合唱の祭典」）に向けて自身の技術の向上を図り、その経緯を将来の自身の演奏・指導現場に生かせる様にするを最終の目標とする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各曲の音取り、読み込みを必ずしてから講義に臨み、楽譜との個人的な戦い、プライベートな時間、場にならないよう留意すること。また、声楽コースの学生としてのプライドと自覚を持ち、発声練習など、毎回の稽古に必要な事前のウォーミングアップは各自で行ってから臨むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と受講態度、個人の技術、表現者としての意欲を総合して評価をする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

学内カワイの売店「ドミナント」に於いて、以下の楽譜を事前に購入し、備えること。

- ・NHK全国学校音楽コンクール 小学校の部課題曲（女声のみ購入のこと）
- ・NHK全国学校音楽コンクール 中学校の部課題曲 混声
- ・NHK全国学校音楽コンクール 高等学校の部課題曲 混声
- ・Mass by Steve Dobrogosz（ドブロゴス）： Introitus/Kyrie/Gloria/Credo/Sanctus/Agnus Dei

注意

・後期で取り上げる作品は、Dobrogosz（ドブロゴス）作曲の「Mass」の他に追加予定。前期講義内で紹介し、前記売店にて各自購入してもらう予定である。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繰り返しになるが、上述した前期、後期の演奏会に欠席した者の単位は認められないため、スケジュール管理、体調管理など、プロ意識を持って臨むこと。

また、前期及び後期の講義日程（演奏会後の授業分を、演奏会前に振り替えるなど、イレギュラーがある）を初回授業時に説明するので、全員参加のこと。

※上述した前期、後期の演奏会に欠席した者の単位は認められない。

授業計画	
	NHK全国学校音楽コンクール小学校の部・中学校の部・高等学校の部の課題曲を取り上げ演奏する他、時間と相談をしながらドブログスのミサを徐々に扱い始める。
1	ガイダンス。NHK全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）のパート・歌唱部分を確認し、演奏会に向けて講義を進める際の確認事項を説明する。その後に、全曲練習予定。
2	ドブログスにミサを取り組むに当たり、合唱音楽とミサ、ミサの式次第などを説明する
3	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のテキストの理解と音の確認
4	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の作品の流れの展開を把握する
5	音楽稽古（1） リーディング
6	音楽稽古（2） 曲全体のフォルムを構築する
7	音楽稽古（3） 楽譜に書かれないニュアンスなど
8	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の完成と、女声（女子学生）は小学校の部の課題曲の音楽稽古も行う。
9	音楽稽古（4） 詩と音楽の解釈について
10	演奏会に向けての総合練習（1） これまでのポイントの再確認
11	演奏会に向けての総合練習（2） 通し稽古・ピアニストとのトータルアンサンブル
12	前期演奏会に向けての総合練習（3） G.P.
13	前期演奏会当日リハーサル
14	前期演奏会本番（於：シルバーマウンテン）
15	後期に扱う楽曲の事前練習

授業計画	
	後期の講義内容、扱う楽曲については未定。前期講義中にパートバランスや音楽的な内容、いま学生にとって必要と思われることなどを考え、指示する。
1	合唱歌を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（1） リズムのニュアンス
2	合唱歌を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（2） メロディー及びフレーズにニュアンス
3	合唱歌を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（3） ハーモニーのニュアンス
4	合唱歌を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（4） ことばのニュアンス
5	12月1日の演奏会に向けて（楽曲の分析、解説など）
6	12月1日の演奏会に向けての練習（1） 音取りや詩（発音）などの確認
7	12月1日の演奏会に向けての練習（2） ハーモニーを確認しながらのリーディング
8	12月1日の演奏会に向けての練習（3） 全体の流れを把握
9	12月1日の演奏会に向けての練習（4） これまでに学んだ各種ニュアンスの確認
10	12月1日の演奏会に向けての練習（5） ピアノ及び伴奏楽器とのアンサンブルを考える
11	12月1日の演奏会に向けての総合練習（1） これまでのポイントの再確認
12	12月1日の演奏会に向けての総合練習（2） 通し稽古とアンサンブルの精度を整えるための練習
13	12月1日の演奏会に向けての総合練習（3） 一年間の総まとめ
14	後期演奏会前リハーサル
15	後期演奏会本番（於：前田ホール）

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2801A0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- 【予習】 授業における課題の実践準備。
- 【復習】 授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾の演奏技法
3	イタリア式装飾の演奏技法
4	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
5	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
6	シューマン「子供のためのアルバム」から見る美しい音色の選択
7	フレーズの作り方・和声進行の読み取り方～ショパンのワルツを題材に～
8	リストの楽曲における奏法解釈
9	20世紀音楽・多調性の演奏技法～プロコフィエフ《サルカズム》～
10	スペイン音楽におけるリズムの特性
11	ピアニストのための即興講座 (1) 鍵盤楽器を用いる即興演奏の実際と考察
12	ピアニストのための即興講座 (2) 音階と調
13	ピアニストのための即興講座 (3) 調整と和音、様々な和音表記とコードネームの理解
14	ピアニストのための即興講座 (4) カデンツと転調
15	ピアニストのための即興講座 (5) バス（左手）と和音構成音（右手）

授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	ピアニストのための即興講座 (6) 伴奏形と様式の研究
2	ピアニストのための即興講座 (7) 非和声音の体系化
3	ピアニストのための即興講座 (8) より自由な発想による即興と創作プラン (カデンツァ)
4	ピアニストのための即興講座 (9) 調性、拍子を用いない即興演奏
5	ピアニストのための即興講座 (10) 統括と発表
6	バッハの鍵盤作品～モダンピアノによる演奏の可能性～
7	古典派初期の鍵盤作品～クラマーやクレメンティに与えた影響の考察～
8	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》
9	ショパンの和声法～ロマン派初期の作曲様式との共通点・相違点～
10	リストのピアノ曲がもつオーケストラ映像のイメージ 《二つの伝説》
11	ベーラ・バルトークのハンガリー的音楽語法《マイクロコスモス》
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性
15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2801G0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

1年次はプロの演奏家から指導、練習法と本番を通じて心構えや演奏姿勢を学ぶ。

2. 授業概要

年度初めに以下の2項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。

A=特別アンサンブル研究 1. 2 (小編成)

ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。

B=室内オーケストラ研究 1. 2

3. 授業時間外の学習 (予習復習について)

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。

室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング (CDを含む) を責任を持って予習し、練習に臨む事。

4. 成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜 (スコア) を準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法 (履修者への要望等)

A=3~8重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。

B=オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	<p>[前期] A＝特別アンサンブル研究 1. 2 (小編成) 前期 研究発表会 (7月・講堂) B＝室内オーケストラ研究 1. 2 定期演奏会 (7月・前田ホール)</p>
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 三重奏曲の分析
3	特別アンサンブル研究 三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究 四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究 四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究 五重奏曲の楽曲分析
7	特別アンサンブル研究 五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究 六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究 (三重奏曲 研究演奏練習)
10	特別アンサンブル研究 (四重奏曲 研究演奏練習)
11	特別アンサンブル研究 (五重奏曲 研究演奏練習)
12	室内オーケストラ分奏 (序曲 研究演奏練習)
13	室内オーケストラ分奏 (研究発表会前半総合練習)
14	室内オーケストラ分奏 (研究発表会後半総合練習)
15	特別アンサンブル研究 (研究演奏会)

授業計画

	<p>[後期] A＝特別アンサンブル研究 1. 2 (小編成) 後期 アンサンブル研究コンサート (12月・SM) B＝室内オーケストラ研究 1. 2 大学院コンチェルトのタベ (10月・前田ホール) 大学・大学院オペラ管弦楽団 大学院オラトリオ</p>
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析 (フルート)
3	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析 (オーボエ)
4	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析 (クラリネット)
5	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏の分析 (サクソフォン)
6	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (フルート)
7	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (オーボエ)
8	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル (クラリネット)
9	特別アンサンブル研究 金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏 (コンチェルトのタベ) ピアノ協奏曲
11	室内オーケストラ分奏 (コンチェルトのタベ) 弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究 (オラトリオアンサンブル研究コンサート練習)
13	特別アンサンブル研究 (オラトリオアンサンブル研究コンサート演奏会)
14	特別アンサンブル研究 (オペラ研究コンサート練習)
15	特別アンサンブル研究 (オペラ研究コンサート演奏会)

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2801D0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	S1	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

著名なアーティスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

2. 授業概要

世界的に活躍する著名なアーティスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト。楽譜など受講学生が各自で用意する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	[前期]
1	前期オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン(1) ベートーヴェン ヴァイオリンソナタについて研究
3	山本裕康講師によるレッスン(1) ベートーヴェン チェロソナタについて研究
4	大野かおる講師によるレッスン(1) バッハ チェロ組曲について研究
5	須田祥子講師によるレッスン(1) バッハ チェロ組曲についての見解
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン(1) バッハ 無伴奏ソナタについて研究する
7	室内管弦楽団 ベートーヴェン 交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング(基礎)
9	音楽家のための英語(基礎)
10	沼田園子講師によるレッスン(1) バッハ無伴奏 ソナタNO.2
11	井野辺大輔講師によるレッスン(1) シュターミッツ 協奏曲の研究
12	井野辺大輔講師によるレッスン(2) ブラームス 協奏曲の研究
13	古澤巖客員教授による特別レッスン チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲の研究
14	古澤巖客員教授による特別レッスン グラズノフ ヴァイオリン協奏曲の研究
15	安藤裕子講師他によるレッスン(1) ブラームス ソナタの研究

授業計画	
	[後期]
1	後期オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン(1) ブラームス ヴァイオリンソナタの研究
3	山本裕康講師によるレッスン(1) ブラームス チェロソナタの研究
4	大野かおる講師によるレッスン(1) ブラームス ヴィオラソナタの研究
5	須田祥子講師によるレッスン(1) ブラームス ヴィオラソナタの研究
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン(1) バッハ 無伴奏ソナタNO.2について研究する
7	室内管弦楽団 ブラームス 交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング(発展)
9	音楽家のための英語(応用)
10	沼田園子講師によるレッスン(1) バッハ無伴奏 ソナタNO.3
11	井野辺大輔講師によるレッスン(1) バッハ無伴奏 パルティータNO.1の研究
12	井野辺大輔講師によるレッスン(2) バッハ無伴奏 ソナタNO.3
13	フェデリコ アゴスティーニ客員教授特別レッスン グリーグ ヴァイオリンソナタの研究
14	フェデリコ アゴスティーニ客員教授特別レッスン モーツァルト ヴァイオリン協奏曲の研究
15	安藤裕子講師他によるレッスン(1) バルトーク 協奏曲の研究

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1				
代表教員	神谷 百子	授業コード	IE2801E0	科目コード	IE2801
担当教員	伊藤 康英、松本 祐二、クリストファー ハーディ、前田 康徳、黒木 岩寿、井手上 達、三寺 郷美				
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	PI	科目分類	専門選択		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

各種打楽器のオーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、音楽療法の分野での打楽器が持つ可能性、パツハ研究その他、打楽器をどの場所でどのように関連させていくことが出来るかというノウハウ、またその実践方法や、その実践にあたり知っておくとよい知識を学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、演奏、指導、音楽療法など社会の中の多様な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを可能にすることを目標とする。

2. 授業概要

複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	オーケストラスタディ1：オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ2：主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。
3	オーケストラスタディ3：20世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究1：吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究2：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究3：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。
7	バッハ研究1：マリンバなどの鍵盤打楽器で演奏されることも多いバッハの作品のアナリゼ。また、バッハを軸にバロック以前の音楽と楽器、そこから近現代の音楽まで、どのような関連性を見られるか、など、歴史と楽器の成り立ちを検証し、知識を深める。
8	打楽器奏法実習1：各種民族打楽器の基本奏法を学ぶ
9	音楽療法入門1：障害者に対する音楽の提供方法の研究、その中で特に打楽器の持ちうる可能性について考える。
10	音楽療法入門2：色々な障害者のケースと、その人達がどのように音楽と関わることが出来るかを考える。一例として人工内耳を使用する聴覚障害者がどのような形で音楽を体感出来るかのリサーチを取り上げ、考察する。
11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ1：ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて2：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器とエレクトロニクスについて1：PAを使用する音楽について。PA機材についての入門的な知識を得、その使用法を学ぶ。
14	打楽器とエレクトロニクスについて2：PA機材を用いた新しい音の作り方についての研究。
15	打楽器奏法実習2：カスタネットの奏法研究。

授業計画	
	[後期]
1	オーケストラスタディ4：オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ5：実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。
3	オーケストラスタディ6：オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ7：ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ8：シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究4：具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。
7	バッハ研究2：例としてバッハ無伴奏チェロ組曲の中の1曲を取り上げ、打楽器であるマリimbaでこの作品演奏する上でのアプローチの仕方について研究する。
8	打楽器奏法実習3：和太鼓の基本奏法を学ぶ
9	タップダンスワークショップ タップダンスの基礎を体験する。身体でリズム、フレーズを感じ、今後それを楽器の演奏に反映させられるようになることを目的とする。
10	音楽療法入門3：打楽器で表せるリズム、メロディー、ハーモニーと、打つ行為の運動性についてなどの視点から、幼児、高齢者などに対するリハビリとしての音楽の可能性を考える。
11	楽器メンテナンス3：鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス4：金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	打楽器とエレクトロニクス3：電子機材、電子楽器を使用した、これからの時代の音、音楽について考察する。
14	打楽器奏法実習4：カホンの基礎奏法を学ぶ
15	履修学生が将来目指す職業の中で、この授業で学んだ様々な事をどのように活かしていけるかについての発表とディスカッション。1年間の授業の統括とする。

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE2801F0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性を更に深く研究する。それぞれの研究論文の内容も含め、専門的に追求することを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

実習の授業が多いので、予習、復習は、積極的に行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み・・・70%、課題評価・・・30%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	課題を実習しながら、より深く音楽を追求していく。
1	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 電子オルガンのためのクラシックサウンドについて
2	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 電子オルガンのためのポピュラーサウンドについて
3	電子オルガンスタジオエレクトロニクス Computer D. W. A. (Digital Audio Workstation)を使用した音楽制作
4	電子オルガンスタジオエレクトロニクス 欧米のスタジオにおける映画音楽制作考察
5	大衆音楽研究 分数コードやsus2の和音など80年代以降に生まれた新しい響きの和音について解説
6	大衆音楽研究 David Foster の作品の和声進行や転調についての分析
7	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガン アレンジの基礎 (アレンジ手法・構成・ジャンル・リズム・コード進行)
8	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガン アレンジの基礎 (イントロ・エンディング・間奏等)
9	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ コードプログレッション1 (Diatonic Scale Chords)
10	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ コードプログレッション2
11	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアレンジ3 楽曲アナリゼ (虹の彼方に)
12	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアンサンブル4 アレンジ、コードプログレッション
13	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンアンサンブル4 アレンジとコードプログレッション応用編
14	ポピュラー奏法特別研究 作品発表とディスカッション
15	バンドアレンジ研究 課題のアレンジ実習 構成の考え方

授業計画	
1	バンドアレンジ研究 アレンジ曲の演奏
2	バンドアレンジ研究 アレンジ曲のアンサンブルと音色研究
3	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際 基本
4	バンドアレンジ研究 アンサンブル実習とアレンジの確認と実際 応用
5	即興演奏実習 モチーフを使ったクラシックスタイル即興演奏の実際
6	即興演奏実習 クラシックスタイル即興演奏の実際 2
7	即興演奏実習 ポップススタイル即興演奏の実際
8	キーボード研究 (パイプオルガン) パイプオルガンの歴史
9	キーボード研究 (パイプオルガン) 奏法研究
10	キーボード研究 (チェンバロ) 歴史と楽器の種類
11	キーボード研究 (チェンバロ) 通奏低音奏法入門
12	即興演奏実習 モチーフ即興のためのトレーニング
13	即興演奏実習 モチーフ即興のスタイル研究
14	即興演奏実習 モチーフ即興の分析とまとめ
15	電子オルガンの歴史 歴代の電子オルガンを見学

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2801G0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「プロフェッショナル特殊研究3」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	<p>〔前期〕 大学院修士課程 1 年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2 年目の「プロフェッショナル特殊研究 3」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。</p>
1	講師 A レッスン (第 1 クール) ～古典独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師 A レッスン (第 1 クール) ～古典独奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師 A レッスン (第 1 クール) ～古典独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師 A レッスン (第 1 クール) ～古典独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師 A レッスン (第 1 クール) ～古典独奏曲研究 / 研究成果発表と講評
6	講師 B レッスン (第 2 クール) ～古典合奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師 B レッスン (第 2 クール) ～古典合奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師 B レッスン (第 2 クール) ～古典合奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師 B レッスン (第 2 クール) ～古典合奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師 B レッスン (第 2 クール) ～古典合奏曲研究 / 研究成果発表と講評
11	講師 C レッスン (第 3 クール) ～現代邦楽独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師 C レッスン (第 3 クール) ～現代邦楽独唱曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師 C レッスン (第 3 クール) ～現代邦楽独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師 C レッスン (第 3 クール) ～現代邦楽独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師 C レッスン (第 3 クール) ～現代邦楽独奏曲研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	<p>[後期] 講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。</p>
1	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独唱曲研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲研究（または協奏曲）研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究 1						
代表教員	今田 央	授業コード	IE2801H0	科目コード	IE2801	期間	通年
担当教員	金子 浩						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

フラメンコ音楽に特有の各形式、リズム、フラメンコギターの数々の特殊奏法をマスターし、フラメンコギターソロ演奏を習得する。また、その技術をフラメンコのリズム、旋法を取り入れたスペインクラシックギターレパートリーの演奏にも応用させる。ポピュラー音楽への応用も研究する。

2. 授業概要

実際にフラメンコギターを使用して形式ごとのリズム、旋法、各種特殊奏法の習得。講義としてはフラメンコ音楽発生の歴史、時代背景、地理的要因などを考察。フラメンコ舞踊手やフラメンコ歌手の伴奏も体験しフラメンコ芸術の三位一体（歌、踊り、ギター）の重要性を実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

テクニック向上のための基礎練習や受講した楽曲の復習。

4. 成績評価の方法及び基準

授業態度、及び演奏レベル、最終授業において発表を行い、完成度を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

フラメンコの典型であるソレア、ブレリア、アレグリアなどの舞曲から教員が選定した物

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1学年において「フラメンコギター奏法研究」を履修したもの

授業計画	
	フラメンコギターの特奏法、各型式の習得 毎回講義としてフラメンコ発生の歴史、地理的要因等の解説
1	フラメンコギターの特奏法の一つである各種”ラスゲアード”の解説、及びクラシックギターとの音の出し方（タッチ）の違いを学ぶ。
2	様々なラスゲアード奏法を実践する。
3	ラスゲアード奏法の練習法を指導する。
4	フラメンコの形式の一つ”ソレア”（3拍子系のリズム）を解説し理解させる。
5	”ソレア”の簡単なフレーズを習得させる。
6	”ソレア”という形式を実際の演奏を通じ研究する。
7	”ソレア”から派生したいくつかの形式の解説、およびそれぞれのフレーズを習得させる。
8	フラメンコの形式の一つ”タンゴ”（2拍子系）の解説を解説する。
9	”タンゴ”における簡単なフレーズを習得する。
10	過去の演奏を聴き”タンゴ”のより深い理解を求める。
11	”タンゴ”から派生した他の2拍子系の形式の解説する。
12	”タンゴ”のリズムによる楽曲を解説する。
13	”タンゴ”のリズムによる楽曲を実践する。
14	上記に属さない他の形式の解説とフレーズの習得
15	前期まとめの発表演奏を行う。

授業計画	
	前期で培った技術、知識を基にフラメンコギターソロの演奏を研究していく。機会があればフラメンコにおける三位一体を体験する。
1	クラシックギターのレパートリーにおけるフラメンコの影響を考察する。
2	スペイン音楽の中のフラメンコの影響を考察する。
3	ラテン、ポピュラー等、現代の軽音楽へのフラメンコの影響を考察する。
4	クラシックギターのレパートリーの中でのフラメンコ奏法の実践を試みる。
5	ポピュラー音楽の中でいかにフラメンコ奏法を活用するかを考察する。
6	イサーク・アルベニスの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
7	エンリケ・グラナドスの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
8	マヌエル・デ・ファリヤの楽曲の中でのフラメンコの影響を考察する。
9	マヌエル・デ・ファリヤの生涯と作品について考察する。
10	マヌエル・デ・ファリヤのクラシックギター曲をリストアップする。
11	ホアキン・ロドリゴのアランフェス協奏曲を研究する。
12	アランフェス協奏曲におけるラスゲアード奏法を研究する。
13	トゥリーナのフラメンコを取り入れた楽曲を研究する。
14	トゥリーナの他の楽曲を研究する。
15	最終発表演奏を行う。

科目名	プロフェッショナル特殊研究 2						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2802A0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- 【予習】 授業における課題の実践準備。
- 【復習】 授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	各分野の教授陣による指導を通して、多角的に音楽を考察し実践する。
1	ピアノの特質
2	フランス式装飾の演奏技法
3	イタリア式装飾の演奏技法
4	古典派における奏法研究～ピアノソナタを題材に～
5	ロマン派における奏法研究～キャラクターピースを題材に～
6	シューマン「子供のためのアルバム」から見る美しい音色の選択
7	フレーズの作り方・和声進行の読み取り方～ショパンのワルツを題材に～
8	リストの楽曲における奏法解釈
9	20世紀音楽・多調性の演奏技法～プロコフィエフ《サルカズム》～
10	スペイン音楽におけるリズムの特性
11	ピアニストのための即興講座 (1) 鍵盤楽器を用いる即興演奏の実際と考察
12	ピアニストのための即興講座 (2) 音階と調
13	ピアニストのための即興講座 (3) 調整と和音、様々な和音表記とコードネームの理解
14	ピアニストのための即興講座 (4) カデンツと転調
15	ピアニストのための即興講座 (5) バス（左手）と和音構成音（右手）

授業計画	
	幅広い視野から音楽を捉え演奏表現の拡大を図る。
1	ピアニストのための即興講座 (6) 伴奏形と様式の研究
2	ピアニストのための即興講座 (7) 非和声音の体系化
3	ピアニストのための即興講座 (8) より自由な発想による即興と創作プラン (カデンツァ)
4	ピアニストのための即興講座 (9) 調性、拍子を用いない即興演奏
5	ピアニストのための即興講座 (10) 統括と発表
6	バッハの鍵盤作品～モダンピアノによる演奏の可能性～
7	古典派初期の鍵盤作品～クラマーやクレメンティに与えた影響の考察～
8	シューベルトの歌曲とピアノ曲の関連性《さすらい人幻想曲》
9	ショパンの和声法～ロマン派初期の作曲様式との共通点・相違点～
10	リストのピアノ曲がもつオーケストラ映像のイメージ 《二つの伝説》
11	ベーラ・パルトークのハンガリー的音楽語法《マイクロコスモス》
12	楽曲に合わせた練習法の考察～指使いによる演奏効果～
13	楽曲のテクニカルな問題の解決法～フィンガートレーニング～
14	演奏表現における分析と暗譜の相互性
15	創作への導入～作曲家の立場で音楽を見つめる～

科目名	プロフェッショナル特殊研究 2						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	IE2802B0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	OR	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽家として自立するために、学部で習得した事を基礎に学生一人ひとりが自身の専門性、研究課題を設定、追求する事を主題とする。また、修了後の高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目標とする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを基に幅広い音楽観を築き自己の専門性を深く追求していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- 【予習】 授業における課題の実践準備。
- 【復習】 授業における成果を確実に身につけるための研鑽を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
1	体幹トレーニング この講座の主旨、流れについての説明
2	体幹トレーニング 楽器それぞれについての特徴を理解するために簡単なディスカッション
3	体幹トレーニング（姿勢について） 筋肉のマッピング（大まかな）の説明、特にブレスを司る腹筋、骨盤底筋を中心に役割と楽器に関わる関係を学ぶ
4	体幹トレーニング（姿勢について） 男女の差や起立時と着席時の差も演奏時にどのように関係してくるか考える。ピアノ、歌、弦、管、打楽器のそれぞれの楽器により姿勢の保ち方が違うことを理解し、姿勢の問題点に特化して何がなかをを考える。
5	体幹トレーニング（呼吸について） 呼吸筋についてさらに深く考える
6	体幹トレーニング（呼吸について） ピアノやストリングスでもブレスの必要性を学び、他楽器の理解を深めるとともに姿勢と呼吸について学ぶ
7	体幹トレーニング（呼吸筋の鍛え方） 姿勢を保つための呼吸筋の鍛え方を実践で学ぶ
8	体幹トレーニング（呼吸筋の鍛え方） ピラティス（インナーマッスルを鍛える）を取り入れ姿勢やブレスのための筋肉トレーニングを行う。【持っている人はヨガマット持参、バスタオル持参してください】
9	体幹トレーニング（管楽器・歌の呼吸） トレーニングのおさらいをしつつ、息を使う楽器の仕組みについて学ぶ
10	体幹トレーニング（管楽器・歌の呼吸） 体と楽器の関係、仕組みをもう一度理解し、呼吸筋を使って実際に音を出しながらその役割を理解する。他の楽器を理解することでそれぞれの専門の理解もともに深める。【持っている人はヨガマット持参、バスタオル持参してください】
11	音楽家のための英語（前期課題 導入）
12	音楽家のための英語（前期課題 基本）
13	音楽家のための英語（前期課題 応用）
14	音楽家のための英語（前期課題 発展）
15	音楽家のための英語（前期課題 確認）

授業計画	
1	音楽家のための英語（後期課題 導入）
2	音楽家のための英語（後期課題 基本）
3	音楽家のための英語（後期課題 応用）
4	音楽家のための英語（後期課題 発展）
5	音楽家のための英語（後期課題 確認）
6	体幹トレーニング（ピアノを弾くとき（座って奏でる楽器含む）の姿勢） 起立時と着席時の違いを理解した上で、ピアニストの姿勢についてより理解を深める
7	体幹トレーニング（ピアノを弾くとき（座って奏でる楽器含む）の姿勢） 座って奏でる楽器も同じく、より音に良い影響がある姿勢の鍛え方を探す
8	体幹トレーニング（打楽器、弦楽器の姿勢） 楽器としてシンメトリに構えないものもある楽器の理解をする
9	体幹トレーニング（打楽器、弦楽器の姿勢） ディスカッションで出た問題点を考えつつ、Vln. Vla. また Vc. Cb. は特に偏った筋肉を支えるだけの筋肉を必要とすることを理解し鍛え方を考える。呼吸を直接的に伴わない楽器でも呼吸、呼吸筋が関係することも理解する
10	体幹トレーニング（歌い手の見地からのプレスについて） 体そのものが楽器である歌い手から見た楽器の捉え方について理解する
11	体幹トレーニング（歌い手の見地からのプレスについて） 歌のための楽器の理解をすることでそれぞれの楽器の捉え方やプレスについて理解する。それと同時に歌うための体の仕組みを知ることによって共演の仕方やそれぞれの関わり方について学ぶ
12	体幹トレーニング（歌い手の見地からの表現（言葉について）） 歌には言葉が伴うが、楽器には具体的な言葉がない分、表現、体の使い方、パフォーマンスにより表現の幅も変わってくる。どんな可能性があるかを考え、そのための体の使い方について考え理解する
13	体幹トレーニング（総復習） それぞれの楽器を理解することで個人の専門の楽器についてさらに理解したこと、ピラティスなどのトレーニングでどのような効果が出たかなど発表する
14	体幹トレーニング（総復習）【持っている人はヨガマット持参、パスタオル持参してください】
15	音楽家のための英語 総復習

科目名	プロフェッショナル特殊研究2						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2802G0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

2年次はさらに高度なオーケストラスタディや演奏法を研究する。

2. 授業概要

年度初めに以下の2項目でアンケートをとり、インスペクターを中心に授業計画を立てる。

A=特別アンサンブル研究1. 2 (小編成)

ピアノ・弦・打楽器等ともアンサンブル研究をおこなう。

B=室内オーケストラ研究1. 2

3. 授業時間外の学習 (予習復習について)

室内楽に於いては、各自、パート譜及びスコアリーディングを責任を持って予習する事。そして緻密で技術的、音楽的なアンサンブルの練習が必要。担当教員からの指示を復習して次回のレッスンに臨む事。

室内オーケストラに於いては特に各自、パート譜及びスコアリーディング (CDを含む) を責任を持って予習し、練習に臨む事。

4. 成績評価の方法及び基準

練習と演奏会の参加姿勢と演奏内容で評価。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

演奏曲の総譜 (スコア) を準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法 (履修者への要望等)

A=3~8重奏が望ましい。不足楽器に関しては大学院演奏要員などを当てる。積極的な授業参加。

B=オーケストラ団員としての積極的な授業参加。

授業計画	
	<p>[前期]</p> <p>A=特別アンサンブル研究 1. 2 (小編成)</p> <p>前期 研究発表会 (7月・講堂)</p> <p>後期 アンサンブル研究コンサート (12月・講堂)</p> <p>B=室内オーケストラ研究 1. 2</p> <p>定期演奏会 (7月・前田ホール)</p> <p>大学院コンチェルトのタベ (10月・前田ホール)</p>
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 三重奏曲の分析
3	特別アンサンブル研究 三重奏曲の演奏解釈
4	特別アンサンブル研究 四重奏曲の分析
5	特別アンサンブル研究 四重奏曲の演奏法解釈
6	特別アンサンブル研究 五重奏曲の楽曲分析
7	特別アンサンブル研究 五重奏曲の演奏法解釈
8	特別アンサンブル研究 六重奏以上の編成楽曲の分析
9	特別アンサンブル研究 (三重奏曲 研究演奏練習)
10	特別アンサンブル研究 (四重奏曲 研究演奏練習)
11	特別アンサンブル研究 (五重奏曲 研究演奏練習)
12	室内オーケストラ分奏 (序曲 研究演奏練習)
13	室内オーケストラ分奏 (研究発表会前半総合練習)
14	室内オーケストラ分奏 (研究発表会後半総合練習)
15	特別アンサンブル研究 (研究演奏会)

授業計画	
	<p>[後期] A=特別アンサンブル研究 1. 2 (小編成) 後期 アンサンブル研究コンサート (12月・講堂) B=室内オーケストラ研究 1. 2 大学院コンチェルトのタベ (10月・前田ホール) 学部・大学院オペラ管弦楽団 大学院オラトリオ</p>
1	ガイダンス
2	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析(フルート)
3	特別アンサンブル研究 1. 2 ピアノ三重奏曲の分析(オーボエ)
4	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析(クラリネット)
5	特別アンサンブル研究 ピアノ三重奏曲の分析(サクソフォン)
6	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル(フルート)
7	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル(オーボエ)
8	特別アンサンブル研究 弦楽器とのアンサンブル(クラリネット)
9	特別アンサンブル研究 金管楽器特殊編成
10	室内オーケストラ分奏(コンチェルトのタベ)ピアノ協奏曲
11	室内オーケストラ分奏(コンチェルトのタベ)弦楽器協奏曲
12	特別アンサンブル研究(オラトリオアンサンブル研究コンサート練習)
13	特別アンサンブル研究(アンサンブル研究コンサート演奏会)
14	特別アンサンブル研究(オペラ研究コンサート練習)
15	特別アンサンブル研究(オペラ研究コンサート演奏会)

科目名	プロフェッショナル特殊研究2				
代表教員	神谷 百子	授業コード	IE2802E0	科目コード	IE2802
担当教員	伊藤 康英、松本 祐二、クリストファー ハーディ、前田 康徳、黒木 岩寿、井手上 達、三寺 郷美				
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	PI	科目分類	専門選択		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

各種打楽器のオーケストラ、吹奏楽の中での演奏法、楽器の歴史、楽器メンテナンス方法、音楽療法の分野での打楽器が持つ可能性、パツハ研究その他、打楽器をどの場所でどのように関連させていくことが出来るかというノウハウ、またその実践方法や、その実践にあたり知っておくとよい知識を学ぶ。様々な視点から打楽器について学習することにより、大学院を修了後、演奏、指導、音楽療法など社会の中の多様な場での打楽器を活かした活動に繋げていくことを可能にすることを目標とする。

2. 授業概要

複数担当教員がそれぞれ複数回の授業でそれぞれの専門的な知識と経験に基づいた講座、演習指導を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

受講学生は各担当教員の事前の指示による授業内容の予習、演習の場合は事前練習を行うことが望ましい。授業後にはその内容を自分がきちんと理解出来ているかという確認、また、特に演習授業の場合は授業受講後に課題習得のための練習を行うことを推奨する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢、演習課題の消化と実践演奏技量などを考慮し決定する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト、楽譜など受講学生がそれぞれ準備する。著作物の取り扱いについては使用方法に問題がないかそのつど確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	オーケストラスタディ1：オーケストラの歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
2	オーケストラスタディ2：主に古典、ロマン派の時代の具体的な楽曲（モーツァルト、ベートーヴェン、マーラーなどの交響曲他）を取り上げ、その中で演奏される各種打楽器の奏法、音色の解釈などを実演を交えながら学習する。
3	オーケストラスタディ3：20世紀以降の楽曲における打楽器群の奏法や音色についての学習。また、現代作品での特殊奏法などについて、楽曲の音源を聴きながら確認と実演を伴う学習を行う。
4	吹奏楽打楽器研究1：吹奏楽の歴史を学びながら、その中での打楽器の位置づけと、担ってきた役割について学習する。
5	吹奏楽打楽器研究2：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、リズムについて考察する。
6	吹奏楽打楽器研究3：吹奏楽曲の中で演奏される打楽器パートから、特に鍵盤打楽器が担うメロディー、ハーモニーについて考察する。
7	バッハ研究1：マリンバなどの鍵盤打楽器で演奏されることも多いバッハの作品のアナリゼ。また、バッハを軸にバロック以前の音楽と楽器、そこから近現代の音楽まで、どのような関連性を見られるか、など、歴史と楽器の成り立ちを検証し、知識を深める。
8	打楽器奏法実習1：各種民族打楽器の基本奏法を学ぶ
9	音楽療法入門1：障害者に対する音楽の提供方法の研究、その中で特に打楽器の持ちうる可能性について考える。
10	音楽療法入門2：色々な障害者のケースと、その人達がどのように音楽と関わることが出来るかを考える。一例として人工内耳を使用する聴覚障害者がどのような形で音楽を体感出来るかのリサーチを取り上げ、考察する。
11	楽器のメンテナンス方法を学ぶ1：ティンパニのメンテナンスについて。
12	打楽器のメンテナンスについて2：小太鼓、大太鼓など、膜質楽器のメンテナンスについて。
13	打楽器とエレクトロニクスについて1：PAを使用する音楽について。PA機材についての入門的な知識を得、その使用法を学ぶ。
14	打楽器とエレクトロニクスについて2：PA機材を用いた新しい音の作り方についての研究。
15	打楽器奏法実習2：カスタネットの奏法研究。

授業計画	
	[後期]
1	オーケストラスタディ4：オーケストラ奏者を目指す上で必要な事柄を学ぶ。オーディションに向けての心構え、練習方法について。
2	オーケストラスタディ5：実際にオーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの演奏のポイント、注意すべき点などを学習する。この回では特にスネアドラムのパートに焦点をあてる。
3	オーケストラスタディ6：オーケストラオーディションで多く取り上げられるレパートリーの中から、シンバと、トライアングル、タンバリンなどをはじめとする小物楽器のパートに焦点をあてて学習する。
4	オーケストラスタディ7：ティンパニのレパートリーの学習。
5	オーケストラスタディ8：シロフォン、グロッケンシュピールなどの鍵盤打楽器パートの学習。
6	吹奏楽打楽器研究4：具体的な例として吹奏楽曲「ぐるりよざ」を取り上げ、曲の中で演奏される打楽器パートの効果的な奏法を学ぶ。また、スコアを見ながら打楽器パートと他楽器のパートがどのように絡んでいるか、それによる各所でのバランスの取り方などを確認。
7	バッハ研究2：例としてバッハ無伴奏チェロ組曲の中の1曲を取り上げ、打楽器であるマリimbaでこの作品演奏する上でのアプローチの仕方について研究する。
8	打楽器奏法実習3：和太鼓の基本奏法を学ぶ
9	タップダンスワークショップ タップダンスの基礎を体験する。身体でリズム、フレーズを感じ、今後それを楽器の演奏に反映させられるようになることを目的とする。
10	音楽療法入門3：打楽器で表せるリズム、メロディー、ハーモニーと、打つ行為の運動性についてなどの視点から、幼児、高齢者などに対するリハビリとしての音楽の可能性を考える。
11	楽器メンテナンス3：鍵盤打楽器のメンテナンスについて学習する。
12	楽器メンテナンス4：金属打楽器、小物打楽器のメンテナンスについて学習する。
13	打楽器とエレクトロニクス3：電子機材、電子楽器を使用した、これからの時代の音、音楽について考察する。
14	打楽器奏法実習4：カホンの基礎奏法を学ぶ
15	履修学生が将来目指す職業の中で、この授業で学んだ様々な事をどのように活かしていけるかについての発表とディスカッション。1年間の授業の統括とする。

科目名	プロフェッショナル特殊研究2						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE2802F0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性を更に深く研究する。それぞれの研究論文の内容も含め、専門的に追求することを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

実習の授業が多いので、予習、復習は、積極的に行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み・・・70%、課題評価・・・30%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	課題を実習しながら、より深く音楽を追求していく。
1	キーボード研究 【チェンバロ】チェンバロの歴史と楽器の種類
2	キーボード研究 【チェンバロ】チェンバロのための作品について
3	キーボード研究 【チェンバロ】チェンバロの奏法
4	キーボード研究 【チェンバロ】アンサンブルやオーケストラの中でのチェンバロ
5	キーボード研究 【パイプオルガン】パイプオルガンの歴史
6	キーボード研究 【パイプオルガン】ペダル奏法
7	キーボード研究 【パイプオルガン】ペダル奏法（フレーズの表現）
8	キーボード研究 【パイプオルガン】パイプオルガン作品研究と奏法
9	キーボード研究 【ハモンドオルガン】ハモンドオルガンの歴史
10	キーボード研究 【ハモンドオルガン】ハモンドオルガン作品研究と奏法
11	キーボード研究 【電子キーボード】電子楽器の歴史
12	キーボード研究 【電子キーボード】サンプリングテクノロジー
13	キーボード研究 【ジャズピアノ】基本的なアドリブとリズム
14	キーボード研究 【ジャズピアノ】ハーモニーとコンピング
15	大衆音楽研究 「Try Unite!」の楽曲分析を通して、モーダルインターチェンジコードの使用法を解説

授業計画	
1	大衆音楽研究 Pat Methenyの作品分析
2	伴奏法研究（アコースティック楽器とのデュオについて） 選曲のポイントとアレンジのポイント
3	伴奏法研究（アコースティック楽器とのデュオについて） アコースティック楽器との演奏の場合の、音色のポイント
4	伴奏法研究（声楽やアコースティック楽器の伴奏の場合） オーケストラ作品に書かれていない作品の伴奏の場合、アレンジや音色のポイント
5	伴奏法研究 実際の楽器や声楽との試演、発表
6	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンの音色研究（合成音色の考察）
7	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンの音色研究（定位とリズム音色の考察）
8	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンのヴォイスング（コード進行）
9	ポピュラー奏法特別研究 電子オルガンの楽曲研究（アレンジの考察と発表）
10	打楽器概論 打楽器の種類、演奏法の実習
11	打楽器概論 電子オルガンアレンジの際の、打楽器のアイデア
12	打楽器概論 電子オルガンアレンジの際の、打楽器のアイデア（個別作品に対して）
13	バンドアレンジ ジャズのアレンジのスタイルについて
14	バンドアレンジ アレンジ実習
15	電子オルガンの歴史 歴代の電子オルガンを見学

科目名	プロフェッショナル特殊研究2						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2802G0	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	GH	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「プロフェッショナル特殊研究4」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
14	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
15	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 導入編～研究に向けての概説
2	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
4	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
5	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 導入編～研究に向けての概説
7	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 課題作品演奏研究実践・・・問題点の洗い出し
9	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 実践ブラッシュアップ・・・問題点の克服
10	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の研究 / 研究成果発表と講評
11	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第一段階・・・問題点の洗い出し
14	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 演奏実践第二段階・・・問題点の克服
15	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の研究 / 研究成果発表と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究 2						
代表教員	竹内 永和	授業コード	IE2802HO	科目コード	IE2802	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	1 学年において古楽器演奏方（リュート奏法）を履修し単位を取得したも者						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現在、クラシックギター奏者には19世紀に確立したクラシックギターのためのオリジナル楽曲のみならず、16世紀から現代の世界ミュージックに到るまでの幅広い演奏技術と作品解釈が求められている。本講座はこうした状況に対し、リュートやバロックギターなど16世紀から18世紀に用いられた古楽器の演奏方を実践、研究するものである。

2. 授業概要

リュートやバロックギターの奏法をオリジナル楽器を用いて実践することにより、ルネサンスやバロックの音楽の解釈やオリジナル奏法の有効性を追求する。最終的には発表会や実技試験、演奏会などでもオリジナル楽器の演奏ができるよう指導する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

テクニック向上のための基礎練習や受講した楽曲の復習、次回の講座の課題曲の研究。

4. 成績評価の方法及び基準

授業態度、及び演奏レベル、最終授業において発表を行い、完成度を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

ルイス・ミラン「エル・マエストロ」
 ルイス・ド・ナルバエス「デルフィンの6部の譜本」
 ジョン・ダウランド「リュート曲全集」
 フランチェスコ・デ・ミラノ「リュート曲全集」
 ロベール・ド・ヴィゼー「王に捧げるギター曲集」
 レオポルト・シルビオス・ヴァイス「バロックリュート曲集」

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1 学年において古楽器演奏法（リュート奏法）を履修した者

授業計画	
	16世紀から18世紀における撥弦楽器の歴史を考察する。
1	16世紀スペインのビウエラ音楽の作品と作曲者の研究
2	ルイス・ミランの「エル・マエストロ」における楽曲とタブラチュアの考察
3	ルイス・ミラン「6つのパヴァーヌ」演奏指導と解釈
4	ルイス・ド・ナルバエス「デルフィンの6部の譜本」の背景と作品の考察
5	ルイス・ド・ナルバエス「皇帝の歌」の原曲と奏法解釈の考察
6	ルイス・ド・ナルバエス「牛を見張れによるディファレンシ阿斯」の意義と演奏法研究
7	アロンソ・ムダーラ「ルドヴィコのハーブを模したファンタジー」の意義と演奏法研究
8	ジョン・ダウランドの作品とイギリスのリユート音楽、および歴史的背景の考察
9	ジョン・ダウランド「涙のパヴァーヌ」の演奏法と作品解釈
10	ジョン・ダウランド「カエルのガリアルダ」の演奏法と作品解釈
11	ジョン・ダウランド「ファンタジー」の演奏法と作品解釈
12	フランチェスコ・ミラノの作品とイタリアのリユート音楽の考察
13	フランチェスコ・ミラノ「リチェルカーレ」の演奏法と作品解釈
14	前期まとめとしての発表曲の選定と演奏法の指導
15	前期まとめの発表演奏と講評

授業計画	
	後期授業の展望：バロック時代の撥弦楽器の歴史と作品、楽器について
1	フランスバロックの楽器、作品、演奏法についての考察
2	ロベール・ド・ヴィゼー「王に捧げるギター曲集」より組曲二短調の楽曲構成と演奏法の解説
3	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲二短調」よりプレリュード、アルマンドの演奏法と解釈、実践
4	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲二短調」よりサラバンド、メヌエットの演奏法と解釈、実践
5	ロベール・ド・ヴィゼー「組曲二短調」よりガヴォット、ブーレ、ジグの演奏法と解釈、実践
6	ドイツバロックの楽器、作品、演奏法についての考察
7	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「ファンタジー」の演奏法と作品解釈
8	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「パッサカリア」の演奏法と作品解釈
9	レオポルト・シルビオス・ヴァイス「シャコンヌ」の演奏法と作品解釈
10	ホアキン・トゥリーナのクラシックギター曲をリストアップする。
11	ヨハン・セバスティアン・バッハのリュート作品についての考察
12	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第1番BWV996」の演奏法と作品解釈
13	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第2番BWV997」の演奏法と作品解釈
14	ヨハン・セバスティアン・バッハ「リュート組曲第3番BWV995」の演奏法と作品解釈
15	最終発表演奏と講評

科目名	プロフェッショナル特殊研究3						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2803D0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	S1	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

著名なアーティスト達の公開レッスンを通して演奏水準を高める。
オーケストラの経験を通して幅広い音楽性を身に着ける。

2. 授業概要

世界的に活躍する著名なアーティスト達の公開レッスン及び外部招聘演奏家による特別レッスンを行う。
ピアニストとして田中麻紀講師を迎えている。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

しっかりと練習をした上で講座を受けてほしい。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する積極的な取り組み姿勢。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定がある場合は、その指定のテキスト。楽譜など受講学生が各自で用意する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

聴講生も楽譜を持参すること。

授業計画	
	[前期]
1	前期オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン(1) ベートーヴェン ヴァイオリンソナタについて研究
3	山本裕康講師によるレッスン(1) ベートーヴェン チェロソナタについて研究
4	大野かおる講師によるレッスン(1) バッハ チェロ組曲について研究
5	須田祥子講師によるレッスン(1) バッハ チェロ組曲についての見解
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン(1) バッハ 無伴奏ソナタについて研究する
7	室内管弦楽団 ベートーヴェン 交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング(基礎)
9	音楽家のための英語(基礎)
10	沼田園子講師によるレッスン(1) バッハ無伴奏 ソナタNO.2
11	井野辺大輔講師によるレッスン(1) シュターミッツ 協奏曲の研究
12	井野辺大輔講師によるレッスン(2) ブラームス 協奏曲の研究
13	古澤巖客員教授による特別レッスン チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲の研究
14	古澤巖客員教授による特別レッスン グラズノフ ヴァイオリン協奏曲の研究
15	安藤裕子講師他によるレッスン(1) ブラームス ソナタの研究

授業計画	
	[後期]
1	後期オリエンテーション
2	川田知子講師によるレッスン(1) ブラームス ヴァイオリンソナタの研究
3	山本裕康講師によるレッスン(1) ブラームス チェロソナタの研究
4	大野かおる講師によるレッスン(1) ブラームス ヴィオラソナタの研究
5	須田祥子講師によるレッスン(1) ブラームス ヴィオラソナタの研究
6	ナムユン・キム客員教授によるレッスン(1) バッハ 無伴奏ソナタNO.2について研究する
7	室内管弦楽団 ブラームス 交響曲について
8	音楽家のための体幹トレーニング(発展)
9	音楽家のための英語(応用)
10	沼田園子講師によるレッスン(1) バッハ無伴奏 ソナタNO.3
11	井野辺大輔講師によるレッスン(1) バッハ無伴奏 パルティータNO.1の研究
12	井野辺大輔講師によるレッスン(2) バッハ無伴奏 ソナタNO.3
13	フェデリコ アゴスティーニ客員教授特別レッスン グリーグ ヴァイオリンソナタの研究
14	フェデリコ アゴスティーニ客員教授特別レッスン モーツァルト ヴァイオリン協奏曲の研究
15	安藤裕子講師他によるレッスン(1) バルトーク 協奏曲の研究

科目名	プロフェッショナル特殊研究3						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2803G0	科目コード	IE2803	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもち、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業末ジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスン講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程2年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。1年目の「プロフェッショナル特殊研究1」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。「プロフェッショナル特殊研究1」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	大学院修士課程2年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。1年目の「プロフェッショナル特殊研究1」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。
1	講師Aレッスン（第1クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Aレッスン（第1クール）～古典独奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Aレッスン（第1クール）～古典独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Aレッスン（第1クール）～古典独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Aレッスン（第1クール）～古典独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Bレッスン（第2クール）～古典合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Bレッスン（第2クール）～古典合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Bレッスン（第2クール）～古典合奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Bレッスン（第2クール）～古典合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Bレッスン（第2クール）～古典合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Cレッスン（第3クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Cレッスン（第3クール）～現代邦楽独唱曲応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師Cレッスン（第3クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Cレッスン（第3クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
15	講師Cレッスン（第3クール）～現代邦楽独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1) 導入編～作品背景徹底研究、2) 楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Dレッスン（第4クール）～現代邦楽合奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独唱曲応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Eレッスン（第5クール）～現代音楽作品独奏曲応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 譜楽譜徹底研究
13	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
15	講師Fレッスン（第6クール）～現代音楽作品合奏曲（または協奏曲）応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	プロフェッショナル特殊研究 4						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2804G0	科目コード	IE2804	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面での奏法を研究し、その成果を実践する。実践を通じて、奏法の実際の効果を認識すると共に、日本の音楽の活かし方を考えていく。最終的には、自分なりの方法論を見出して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもち、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員のみならず、他専攻や他コースの教員や、必要に応じて学外ゲスト講師によるレッスンも交えて、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、ひとりの教員の指導を5回で1クールとして、1) 導入編～研究に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

各レッスンゲスト講師の評価と担当教員の総合的判断により成績評価を行う。
総合的判断の基本線は下記の通り。
・研究への姿勢＝25% ・実践への取り組み＝25% ・演奏技量に反映された成果＝50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程2年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。1年目の「プロフェッショナル特殊研究2」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。「プロフェッショナル特殊研究2」を履修していることが望ましい。

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1) 導入編～作品背景徹底研究、2) 楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Aレッスン（第1クール）～現代邦楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評
6	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Bレッスン（第2クール）～現代音楽作品応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
12	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
13	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要問題点の克服
15	講師Cレッスン（第3クール）～洋楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

授業計画	
	講師による指導、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。 1) 導入編～作品背景徹底研究、2) 楽譜徹底研究、3) 課題作品研究、4) 実践ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評～総括、というサイクルを基本としていく。
1	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
2	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 楽譜徹底研究
3	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
4	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
5	講師Dレッスン（第4クール）～ジャズ即興演奏応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
6	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 導入編～作品背景徹底研究
7	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 楽譜徹底研究
8	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・改善必要点の洗い出し
9	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 実践ブラッシュアップ・・・改善必要点の克服
10	講師Eレッスン（第5クール）～民族楽器との合奏の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括
11	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 導入編～研究に向けての概説
12	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 機材設置の基礎と実践
13	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第一段階・・・改善必要点の洗い出し
14	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 演奏実践第二段階・・・改善必要点の克服
15	講師Fレッスン（第6クール）～エレクトロニクスとの協働の応用研究 / 研究成果発表と講評～総括

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE281100	科目コード	IE2811	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

スコアリーディングにより、オーケストラ作品を課題として取り上げ、音楽表現の方法やアンサンブルテクニックを学ぶ。(クラシック)
電子オルガンによるポピュラー作品のアンサンブルを取り上げる。バンドの中でのキーボードとしての役割なども学び、経験する。(ポピュラー)
電子オルガン2台又は3台によるアンサンブル、指揮とともに、又はバンドのメンバーとともに演奏することにより、音楽を立体的に感じられるようになることを到達目標にする。集大成として、演奏会で本番を行う。

2. 授業概要

指揮者と共に電子オルガン2台又は3台によるアンサンブル実習(クラシック)
電子オルガンによるアンサンブル、ドラムなどバンドメンバーとの共演によるアンサンブル実習(ポピュラー)

3. 授業時間外の学習(予習復習について)

曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について、下調べをしておくこと。参考音源なども聞いておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点(演奏の準備状況(評価の50%))
楽曲に対する理解力、表現力(評価の50%)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法(履修者への要望等)

アンサンブルのため、極力、欠席をしないこと。

授業計画	
1	ガイダンス【クラシック】授業概要、目標設定
2	クラシックアンサンブル①選曲並びに課題研究
3	クラシックアンサンブルの実習②2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習 基本
4	クラシックアンサンブルの実習③2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習 応用
5	クラシックアンサンブルの実習④パート毎の音色研究
6	クラシックアンサンブルの実習⑤2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
7	クラシックアンサンブル実習⑥2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定 基本
8	クラシックアンサンブル実習⑦2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定 応用
9	クラシックアンサンブル実習⑧ 楽器と奏法の関係について 基本
10	クラシックアンサンブル実習⑨ 楽器と奏法の関係について 応用
11	クラシックアンサンブル実習⑩ 曲全体のまとめ方と表現について
12	ポピュラーアンサンブル実習①アンサンブル概要並びに選曲
13	ポピュラーアンサンブル実習②バンドスタイルの形態の研究
14	ポピュラーアンサンブル実習③課題曲のアレンジ分析
15	ポピュラーアンサンブル実習④課題のアレンジ分析と音出し

授業計画

1	ポピュラーアンサンブル実習⑤エレクトリックベース奏法研究とアレンジ
2	ポピュラーアンサンブル実習⑥エレクトリックギターの奏法研究とアレンジ
3	ポピュラーアンサンブル実習⑦ドラムの奏法研究とアレンジ
4	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習
5	クラシックアンサンブル実習 演奏会課題曲の楽曲分析
6	クラシックアンサンブル実習 2台又は3台のアンサンブルのためのパート分け研究
7	クラシックアンサンブル実習 演奏会用課題曲のアンサンブル音出し
8	クラシックアンサンブル実習 演奏会用課題曲の音出しとバランス研究
9	クラシックアンサンブル実習 ソリストとの合わせ
10	クラシックアンサンブル実習 ソリストとの合わせ ホールでのバランスや音作り
11	スコアリーディング研究 課題曲の譜読み
12	スコアリーディング研究 譜読みと分析
13	スコアリーディング研究 音色研究
14	スコアリーディング研究 フレーズの解釈と表現
15	スコアリーディング研究 本番でのバランス作り、リバーブなどの設定研究

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE281200	科目コード	IE2812	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

スコアリーディングにより、オーケストラ作品を課題として取り上げ、音楽表現の方法やアンサンブルテクニックを学ぶ。(クラシック)
電子オルガンによるポピュラー作品のアンサンブルを取り上げる。バンドの中でのキーボードとしての役割なども学び、経験する。(ポピュラー)
電子オルガン2台又は3台によるアンサンブル、指揮とともに、又はバンドのメンバーとともに演奏することにより、音楽を立体的に感じられるようになることを到達目標にする。集大成として、演奏会で本番を行う。

2. 授業概要

指揮者と共に電子オルガン2台又は3台によるアンサンブル実習(クラシック)
電子オルガンによるアンサンブル、ドラムなどバンドメンバーとの共演によるアンサンブル実習(ポピュラー)

3. 授業時間外の学習(予習復習について)

曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について、下調べをしておくこと。参考音源なども聞いておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点(演奏の準備状況(評価の50%))
楽曲に対する理解力、表現力(評価の50%)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法(履修者への要望等)

アンサンブルのため、極力、欠席をしないこと。

授業計画	
	クラシックアンサンブルに関して、前期は、秋に行われる管楽器とのコンチェルトを課題曲にし、その準備を中心に進める。
1	ガイダンス【クラシック】授業概要、目標設定
2	クラシックアンサンブル①選曲並びに課題研究
3	クラシックアンサンブルの実習②2台又は3台など複数楽器でのアンサンブルのパート分け実習
4	クラシックアンサンブルの実習③2台又は3台など複数楽器でのアンサンブル。管楽器（木管）の譜読みと奏法研究
5	クラシックアンサンブルの実習④金管楽器の譜読みと奏法研究
6	クラシックアンサンブルの実習⑤弦楽器の譜読みと奏法研究
7	クラシックアンサンブル実習⑥2台又は3台でのアンサンブルに於ける音色研究
8	クラシックアンサンブル実習⑦2台又は3台でのアンサンブルに於けるバランス設定
9	クラシックアンサンブル実習⑧ ソロ部分の音楽研究
10	クラシックアンサンブル実習⑨ 指揮合わせ
11	クラシックアンサンブル実習⑩ 曲全体のまとめ方と表現について
12	ポピュラーアンサンブル実習①アンサンブル概要並びに選曲
13	ポピュラーアンサンブル実習②バンドスタイルの形態の研究
14	ポピュラーアンサンブル実習③課題曲のアレンジ分析
15	ポピュラーアンサンブル実習④課題のアレンジ分析と音出し

授業計画	
	クラシックアンサンブルに関して、後期は、冬に行われる弦楽器のコンチェルトを課題曲にし、その準備を中心に進める。
1	ポピュラーアンサンブル実習⑤エレクトリックベース奏法研究とアレンジ
2	ポピュラーアンサンブル実習⑥エレクトリックギターの奏法研究とアレンジ
3	ポピュラーアンサンブル実習⑦ドラムの奏法研究とアレンジ
4	ポピュラーアンサンブル実習⑧バンドスタイルでのアンサンブル実習
5	クラシックアンサンブル実習 ソリスト(フルート・オーボエ)との合わせ
6	クラシックアンサンブル実習 ソリスト(クラリネット・サクソ)との合わせ
7	クラシックアンサンブル実習 ソリスト(金管楽器)との合わせ
8	管楽器コンチェルトのリハーサルに於けるサウンド作り
9	クラシックアンサンブル実習 弦楽器コンチェルトとのパート分け
10	クラシックアンサンブル実習 譜読み(木管楽器の譜読みと奏法研究)
11	クラシックアンサンブル実習 譜読み(金管楽器の譜読みと奏法研究)
12	クラシックアンサンブル実習 譜読み(弦楽器の譜読みと奏法研究)
13	スコアリーディング研究 音色研究
14	ソリストと共に指揮合わせ
15	スコアリーディング研究 本番でのバランス作り、リバーブなどの設定研究

科目名	作曲・編曲法 1						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE282100	科目コード	IE2821	期間	通年
担当教員	大竹 くみ、三宅 康弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

電子オルガンは、楽器を演奏し、レジストレーションを作るだけでなく、作曲・編曲能力も求められる楽器である。つまり、音楽家としての総合的な力を求められているのである。

2. 授業概要

本授業では、三宅康弘講師による「電子オルガン作品分析」で、日本及びオランダの電子オルガンのオリジナル作品を分析し、楽器の奏法や機能に着目した作曲法について研究する。また、大竹くみ講師による「作曲・編曲演習」では、さまざまなスタイルの作品を書けるように、オーケストレーションを含む編曲法などの実習をする。そしてそれらを総合させ、電子オルガンオリジナル曲を作曲し、発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

実際の作品を分析、実習を行う授業のため、予習、復習は積極的に行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、研究過程、作品提出を総合的に考慮して評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

既存の電子オルガン音楽に満足することなく、大学院生として、新たな電子オルガンの世界を切り開いていく人材となることを期待したい。

授業計画	
1	日本の電子オルガンオリジナル作品の概要
2	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品a)
3	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品b)
4	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品c)
5	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品d)
6	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品e)
7	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品f)
8	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品g)
9	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品h)
10	小規模の電子オルガンオリジナル作品の分析(作品i)
11	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究(作品a)
12	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究(作品b)
13	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究(作品c)
14	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究(作品d)
15	オリジナル作品の音源から、演奏法の研究(作品e)

授業計画	
1	ガイダンス（今までに書いた自作曲、編曲作品を持参）「故郷」を混声四部合唱に編曲
2	変奏曲の分析1（きらきら星変奏曲等）と実施 「讚美歌」の旋律を同声2部合唱に編曲
3	変奏曲の分析2（パガニーニのテーマ等）と実施 「黒いひとみの」を同声2部合唱に編曲
4	変奏曲の分析4(Bachのシャコンヌ等) と実施 「トロイカ」を同声2部合唱に編曲
5	変奏曲の発表 「みんなで歌えば」を同声2部合唱に編曲
6	ソナタ形式について（ソナチネの分析） 「雨の庭」を同声3部合唱に編曲
7	ピアノソナタの分析1（ベートーベンの作品）と実施 「キャンプの夜」を同声3部合唱に編曲
8	ピアノソナタの分析2（モーツァルトの作品）と実施 「追憶」を同声3部合唱に編曲
9	ソナタの主題制作、発展 「故郷」を混声4部合唱に編曲
10	ソナチネ作品の個別指導
11	ソナチネ作品の個別指導並びに合唱編曲の発表1
12	合唱編曲の発表2
13	変奏曲、ソナタ形式の総括
14	授業内発表A（自分の作品分析と演奏）前半
15	授業内発表B（自分の作品分析と演奏）後半

科目名	作曲・編曲法2						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	IE282200	科目コード	IE2822	期間	通年
担当教員	大竹 くみ、三宅 康弘						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

電子オルガンは、楽器を演奏し、レジストレーションを作るだけでなく、作曲・編曲能力も求められる楽器である。つまり、音楽家としての総合的な力を求められているのである。

2. 授業概要

本授業では、三宅康弘講師による「電子オルガン作品分析」で、日本及びオランダの電子オルガンのオリジナル作品を分析し、楽器の奏法や機能に着目した作曲法について研究する。また、大竹くみ講師による「作曲・編曲演習」では、さまざまなスタイルの作品を書けるように、オーケストレーションを含む編曲法などの実習をする。そしてそれらを総合させ、電子オルガンオリジナル曲を作曲し、発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

実際の作品を分析、実習を行う授業のため、予習、復習は積極的に行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、研究過程、作品提出を総合的に考慮して評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

既存の電子オルガン音楽に満足することなく、大学院生として、新たな電子オルガンの世界を切り開いていく人材となることを期待したい。

授業計画	
1	世界の電子オルガンオリジナル作品の概要
2	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品A） （様式を中心に）
3	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品B） （形式を中心に）
4	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品C） （語法を中心に）
5	大規模の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品D） （和声を中心に）
6	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品E） （音型を中心に）
7	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品F） （ラインを中心に）
8	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品G） （音域を中心に）
9	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品H） （奏法を中心に）
10	現代の電子オルガンオリジナル作品の分析（作品I） （3段鍵盤を中心に）
11	現代の電子オルガンオリジナル作品から音色研究（アコースティックなサウンド）
12	現代の電子オルガンオリジナル作品の音色研究（電子音を使ったサウンド）
13	現代作品の演奏研究、個別チェック（音色）
14	現代作品の演奏研究、個別チェック（解釈）
15	まとめと発表

授業計画	
1	ガイダンス（小品を持参） 「旅愁」を同声2部合唱に編曲
2	オリジナル作品を他の編成に編曲1 「旅愁」を同声3部合唱に編曲
3	オリジナル作品を他の編成に編曲2 「旅愁」を混声4部合唱に編曲
4	オリジナル作品を他の編成に編曲3 「峠の我が家」を同声2部合唱に編曲
5	編成を変えて書いたオリジナル作品の発表 「峠の我が家」を同声3部合唱に編曲
6	オーケストレーションについて 「峠の我が家」を混声4部合唱に編曲
7	オリジナル作品（自作）をオーケストレーションする1 （アウトラインを考える）
8	オリジナル作品（自作）をオーケストレーションする2 （楽器群ごとに整理）
9	オリジナル作品（自作）をオーケストレーションする3 （2管編成に）
10	オリジナル作品（自作）をオーケストレーションする4 （2管編成）個別チェック
11	オーケストレーションしたオリジナル作品（自作）の作品と演奏の個別チェック
12	オーケストレーションしたオリジナル作品（自作）をアンサンブルで音出し
13	オリジナル作品（自作）の演奏のための音色研究
14	授業内発表（自分の作品分析と演奏）
15	作曲・編曲についての総括

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2841A0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

室内楽、声楽曲伴奏、等の各自の希望するアンサンブルを通して他楽器の音色、機能を知り、自身の音色感、他楽器とのバランス、フレーズ感等を学ぶことを目標とする。また修了後には、どのような編成にも対応できるアンサンブルピアニストとして活躍できる表現法・奏法の確立をする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを受け、多角的に音楽を捉え幅広い音楽観を築く事を研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各授業における成果をアンサンブルを通して実践確認する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果による評価

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による指示に基づき各自準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	オペラ伴奏、歌曲伴奏を通して、歌手とのより専門性の高いアンサンブルを研究実践する
1	指揮者によるオペラ伴奏法（1）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
2	指揮者によるオペラ伴奏法（2）～歌い手をオーケストラが支える役割～
3	指揮者によるオペラ伴奏法（3）～弦楽器パートのピアノ奏法について～
4	指揮者によるオペラ伴奏法（4）～管楽器パートのピアノ奏法について～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（5）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～
6	コレペティトールによるオペラ研究（1）～オペラににおけるコレペティトウアの役割～
7	コレペティトールによるオペラ研究（2）～オーケストラスコアにおける奏法解釈～
8	コレペティトールによるオペラ研究（3）～歌詞と音楽、演技と音楽の連動～
9	コレペティトールによるオペラ研究（4）～コレペティトールにおける歌唱指導～
10	コレペティトールによるオペラ研究（5）～コレペティトールにおける指揮者としての役割～
11	歌曲伴奏法（1）～歌詞とメロディーの連動性～
12	歌曲伴奏法（2）～歌曲とピアノ独奏曲の相違点～
13	歌曲伴奏法（3）～歌曲から考察するピアノ奏法～
14	歌曲伴奏法（4）～歌詞とフレージングの連動性～
15	歌曲伴奏法（5）～呼吸とアーティキュレーション～

授業計画	
	室内楽、バレエ伴奏等、様々なアンサンブルのジャンルを多角的な視野から、伴奏者・アンサンブルピアニストとしての技術・表現を研究実践する。
1	2台ピアノ奏法研究（1）～独奏との相違点・音の聴き方・音楽の作り方～
2	2台ピアノ奏法研究（2）～オーケストラやピアノ以外の楽器を想定した音色の研究～
3	室内楽研究（1）～室内楽におけるピアニストの役割～
4	室内楽研究（2）～ベートーヴェンの大公トリオにおける奏法解釈～
5	室内楽研究（3）メンデルスゾーンのピアノトリオから見るピアニストのアンサンブルテクニック～
6	バレエ伴奏法（1）～バレエレッスンにおけるピアノ伴奏の役割～
7	バレエ伴奏法（2）～ブリエ・バットマン・タンデュからグラン・バットマンまでの奏法研究～
8	バレエ伴奏法（3）～アダージョからグラン・ワルツまで、より躍動的にダンサーの動きを誘えるような演奏とは～
9	バレエ伴奏法（4）～ダンサーとのバレエレッスン実践～
10	バレエ伴奏法（5）～ヴァリエーションについて映像からの考察～
11	バレエ伴奏法（6）～ダンサーの踊りに合わせたヴァリエーション曲の実践～
12	バレエ伴奏法（7）～モチーフを使った即興演奏や変奏～
13	バレエ伴奏法（8）～アンシェヌマンに合わせた即興演奏～
14	バレエ伴奏法（9）～バレエ伴奏をする上で重要なバレエ作品の考察と実践～
15	ミュージックプロダクション実習～レコーディングにおける奏法表現の可能性～

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	IE2841B0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	OR	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現代のオルガニストには、教会で会衆を先導しながら即興を交えて伴奏する、通奏低音で室内楽の伴奏をする、コンサートホールの大オルガンでモニターや鏡に映る指揮者を見ながらオーケストラや合唱と共演するなど、多種多様なシチュエーションでタイプの異なる技術と知識が必要とされる。本講座では様々な演奏形態の楽曲を実践し、その経験の中からそれぞれの技術を修得すること、そしてアンサンブルの楽しさを味わうことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員指導のもと、演奏実習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で良いアンサンブル演習ができるよう、しっかりと準備をすること。また授業での指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50% 成果発表演奏会50%

平常点は毎週の授業における取り組み方、また成果発表演奏会への取り組み方とその演奏で評価します。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「ヘンデルの数字付き低音課題に基づく一通奏低音奏法」デヴィッド・レッドベター著／多田逸朗訳（全音楽譜出版）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>〔前期〕 まずは通奏低音の基礎知識を学び、基本技術の繰り返し練習を行う。その上で実際の楽曲の伴奏を考え、ソリストと一緒にアンサンブル演習を行う。</p>
1	ガイダンス、授業の進め方 通奏低音の概念について
2	通奏低音①：基本形和音の演習
3	通奏低音②：第1転回形 6の和音の演習
4	通奏低音③：第2転回形 4 6の和音の演習
5	通奏低音④：7の和音 基本形の演習
6	通奏低音⑤：7の和音 第1転回形 5 6の和音の演習
7	通奏低音⑥：7の和音 第2転回形 3 4の和音の演習
8	通奏低音⑦：7の和音 第3転回形 2の和音の演習
9	通奏低音⑧：繋留の和音の演習
10	G. ヘンデル リコーダー・ソナタの演習① 数字を読み、伴奏部分を完成させる
11	G. ヘンデル リコーダー・ソナタの演習②：楽曲分析、ソリストとのアンサンブル
12	G. ヘンデル リコーダー・ソナタの演習③：表現の工夫、仕上げの演奏
13	G. P. テレマン 英雄的行進曲の演習①：伴奏部分の確認
14	G. P. テレマン 英雄的行進曲の演習②：楽曲分析、ソリストとのアンサンブル
15	G. P. テレマン 英雄的行進曲の演習③：表現の工夫、仕上げの演奏

授業計画	
	<p>〔前期〕 様々な楽曲を通して、色々な楽器、歌とのアンサンブルの経験を重ねる。</p>
1	J. S. バッハ カンタータの演習①：数字を読む
2	J. S. バッハ カンタータの演習②：伴奏部分を完成させる
3	J. S. バッハ カンタータの演習③：ソリストとのアンサンブル
4	J. S. バッハ カンタータの演習④：表現の工夫、仕上げの演奏
5	W. A. モーツァルト 教会ソナタの演習①：楽曲分析、オルガンソロ部分の練習
6	W. A. モーツァルト 教会ソナタの演習②：室内楽との合わせ
7	W. A. モーツァルト 教会ソナタの演習③：表現の工夫、仕上げの演奏
8	J. G. ラインベルガー ヴァイオリンとオルガンの楽曲の演習①：伴奏部分の練習
9	J. G. ラインベルガー ヴァイオリンとオルガンの楽曲の演習②：ソリストとのアンサンブル
10	J. G. ラインベルガー ヴァイオリンとオルガンの楽曲の演習③：表現の工夫、仕上げの演奏
11	G. ヘンデル メサイアより「ハレルヤコーラス」①：オルガンパートの練習
12	G. ヘンデル メサイアより「ハレルヤコーラス」②：オーケストラ、合唱との合わせ
13	G. ヘンデル メサイアより「ハレルヤコーラス」③：表現の工夫、仕上げの演奏
14	成果発表演奏会の準備、楽曲の分析と表現の工夫
15	成果発表演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を発表する。

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2841G0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚、優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	[前期] 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究 (ヘンデル)
2	アンサンブル研究 (バッハ)
3	アンサンブル研究 (モーツァルト)
4	アンサンブル研究 (ベートーヴェン)
5	アンサンブル研究 (ハイドン)
6	アンサンブル研究 (シューマン)
7	アンサンブル研究 (ブラームス)
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	[後期] 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究 (ドビュッシー)
2	アンサンブル研究 (フォーレ)
3	アンサンブル研究 (ラヴェル)
4	アンサンブル研究 (フランセ)
5	アンサンブル研究 (ミヨー)
6	アンサンブル研究 (試験曲の分析)
7	アンサンブル研究 (試験曲演奏法指導)
8	アンサンブル研究 (試験曲リハーサル)
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2841D0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	S1	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

三重奏から八重奏が望ましい。
大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	[前期]
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	[後期]
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。
3	音楽の全体像をつかむ。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。
5	難しいパッセージの徹底練習。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究1 [火4-5]						
代表教員	山澤 洋之	授業コード	IE2841E0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

打楽器アンサンブルに関する知識・能力を養い、より専門的な知識に基づき打楽器アンサンブルについて理解し、高度なアンサンブルを演奏する事ができるようになる。

2. 授業概要

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察することにより打楽器アンサンブルについてより深い表現・演奏ができるようになる。また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する事が出来る。
積極的な作曲活動も視野に入れる楽曲を作成できるようになる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習はもちろんの事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい
双方の予習復習に120分程度を想定している

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含み、演奏指導中に適宜質問を行いその解答や演奏習熟度によって判断される）100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Ostinato Pianissimo/Henry Cowell
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を必要に応じて配布

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践
3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トゥッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）
7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	研究楽曲 1 楽曲の構造内容の理解
11	研究楽曲 2 構造に即した表現
12	研究楽曲 3 打楽器的なアプローチによる演奏への理解
13	研究楽曲 4 全体構造及び表現に即した奏法への追及
14	研究楽曲 5 これまでの理解に基づく表現及び演奏の総合的な表現へのアプローチ
15	前期まとめ 演奏の試演と問題の抽出を行い後期への課題とする

授業計画	
	[後期] ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。
1	後期ガイダンス
2	選曲とプログラミング
3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）
7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	演奏会楽曲研究（具大的な表現・奏法の研究に着手）
11	演奏会楽曲研究（楽曲ごとの演奏表現の洗練化）
12	演奏会楽曲研究（曲ごとの関連性を研究し、演奏会全体の構造を理解する）
13	演奏会楽曲研究（全体的な構造を踏まえ、うえでの均整的な総合表現）
14	演奏会楽曲研究（演奏会楽曲の試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。）
15	後期まとめ 演奏会楽曲の再試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2841G0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

2. 授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。

総合的判断の基本線は下記の通り。

・ 演習への姿勢=25% ・ 演奏への取り組み=25% ・ 演奏実績及びその成果=50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	アンサンブル曲A / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲A / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲A / 課題作品研究
4	アンサンブル曲A / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲A / 演奏発表と講評
6	アドリブ演奏法 / 導入編～演習に向けての概説
7	アドリブ演奏法 / アドリブと不確定性・偶然性
8	アドリブ演奏法 / 独奏におけるアドリブ
9	アドリブ演奏法 / アンサンブルにおけるアドリブ
10	アドリブ演奏法 / アドリブ演奏発表と講評
11	アンサンブル曲B / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲B / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲B / 課題作品研究
14	アンサンブル曲B / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲B / 演奏発表と講評

授業計画

1	アンサンブル曲C / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲C / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲C / 課題作品研究
4	アンサンブル曲C / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲C / 演奏発表と講評
6	アンサンブル曲D / 導入編～演習に向けての概説
7	アンサンブル曲D / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	アンサンブル曲D / 課題作品研究
9	アンサンブル曲D / 演奏の仕上げ
10	アンサンブル曲D / 演奏発表と講評
11	アンサンブル曲E / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲E / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲E / 課題作品研究
14	アンサンブル曲E / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲E / 演奏発表と講評

科目名	アンサンブル研究 1						
代表教員	原 善伸	授業コード	IE2841H0	科目コード	IE2841	期間	通年
担当教員	柿原 順子、児嶋 絢子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

クラシックギターによる重奏、合奏や他楽器(マンドリン、リコーダー)との二重奏によって、アンサンブル能力、初見力を養い、ギター奏者として自分の役割を果たし協調する人格を培うことを目標とする。年2回のクラシックギターコース演奏会に出演する。

2. 授業概要

クラシックギターによる二重奏、三重奏、四重奏、及び合奏をはじめ、音域や表現力を高める目的を持ってアルトギター、バスギターなどの合奏用ギター（大学に常備）を用いたアンサンブル、また同じ撥弦楽器であるマンドリン、演奏機会の多いリコーダーとの二重奏、合奏を実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各自パートの個人練習はもちろん、演奏会に向けて必要に応じて自主的なパート、合奏練習をする。

4. 成績評価の方法及び基準

授業態度と演奏会の評価から総合的に判断。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布（バロック時代のJ.S. バッハ、A. ヴィヴァルディ。ロマン派のF. カルリ、F. ソル。近代のF. トローパの編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	<p>〔前期〕 ギターアンサンブルに必要な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。</p>
1	<p>ガイダンス マンドリンとギターの違い、アンサンブルについて</p>
2	<p>マンドリンとギターのアンサンブルのための基礎練習</p>
3	<p>マンドリンとギターアンサンブルのレパートリー紹介</p>
4	<p>マンドリンとギターによるバロック時代の楽曲紹介</p>
5	<p>マンドリンとギターによるバロック時代の楽曲練習</p>
6	<p>マンドリンとギターによるイタリアバロック時代の楽曲練習</p>
7	<p>古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の紹介</p>
8	<p>古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習</p>
9	<p>古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習 演奏会形式による小発表会</p>
10	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の選定</p>
11	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習</p>
12	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習 指揮付き</p>
13	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲のリハーサル</p>
14	<p>前期クラシックギター演奏会の評価と反省</p>
15	<p>マンドリンとクラシックギターのアンサンブルについてまとめ</p>

授業計画	
	〔後期〕 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス リコーダーとギターのアンサンブルの課題と目標設定
2	バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の紹介
3	バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の練習
4	バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の練習 演奏会形式の小発表
5	ロマン派のリコーダーとギターのアンサンブル曲の紹介
6	ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習
7	ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 小発表会形式による演奏会
8	ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 発表会形式による小発表会
9	近・現代のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の紹介と練習
10	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 バロック時代曲
12	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 近、現代曲
13	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	IE2842A0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

室内楽、声楽曲伴奏、等の各自の希望するアンサンブルを通して他楽器の音色、機能を知り、自身の音色感、他楽器とのバランス、フレーズ感等を学ぶことを目標とする。また修了後には、どのような編成にも対応できるアンサンブルピアニストとして活躍できる表現法・奏法の確立をする。

2. 授業概要

様々な分野の教授陣からのアドバイスを受け、多角的に音楽を捉え幅広い音楽観を築く事を研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各授業における成果をアンサンブルを通して実践確認する。

4. 成績評価の方法及び基準

授業における研究成果による評価

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員による指示に基づき各自準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

目標を明確に設定し、その課題を積極的に研鑽すること。

授業計画	
	オペラ伴奏、歌曲伴奏を通して、歌手とのより専門性の高いアンサンブルを研究実践する
1	指揮者によるオペラ伴奏法（1）～指揮者からの視点でオーケストラパートを紐解く～
2	指揮者によるオペラ伴奏法（2）～歌い手をオーケストラが支える役割～
3	指揮者によるオペラ伴奏法（3）～弦楽器パートのピアノ奏法について～
4	指揮者によるオペラ伴奏法（4）～管楽器パートのピアノ奏法について～
5	指揮者によるオペラ伴奏法（5）～指揮者とコレペティトールの連携による効果～
6	コレペティトールによるオペラ研究（1）～オペラににおけるコレペティトウアの役割～
7	コレペティトールによるオペラ研究（2）～オーケストラスコアにおける奏法解釈～
8	コレペティトールによるオペラ研究（3）～歌詞と音楽、演技と音楽の連動～
9	コレペティトールによるオペラ研究（4）～コレペティトールにおける歌唱指導～
10	コレペティトールによるオペラ研究（5）～コレペティトールにおける指揮者としての役割～
11	歌曲伴奏法（1）～歌詞とメロディーの連動性～
12	歌曲伴奏法（2）～歌曲とピアノ独奏曲の相違点～
13	歌曲伴奏法（3）～歌曲から考察するピアノ奏法～
14	歌曲伴奏法（4）～歌詞とフレージングの連動性～
15	歌曲伴奏法（5）～呼吸とアーティキュレーション～

授業計画	
	室内楽、バレエ伴奏等、様々なアンサンブルのジャンルを多角的な視野から、伴奏者・アンサンブルピアニストとしての技術・表現を研究実践する。
1	2台ピアノ奏法研究（1）～独奏との相違点・音の聴き方・音楽の作り方～
2	2台ピアノ奏法研究（2）～オーケストラやピアノ以外の楽器を想定した音色の研究～
3	室内楽研究（1）～室内楽におけるピアニストの役割～
4	室内楽研究（2）～ベートーヴェンの大公トリオにおける奏法解釈～
5	室内楽研究（3）メンデルスゾーンのピアノトリオから見るピアニストのアンサンブルテクニック～
6	バレエ伴奏法（1）～バレエレッスンにおけるピアノ伴奏の役割～
7	バレエ伴奏法（2）～ブリエ・バットマン・タンデュからグラン・バットマンまでの奏法研究～
8	バレエ伴奏法（3）～アダージョからグラン・ワルツまで、より躍動的にダンサーの動きを誘えるような演奏とは～
9	バレエ伴奏法（4）～ダンサーとのバレエレッスン実践～
10	バレエ伴奏法（5）～ヴァリエーションについて映像からの考察～
11	バレエ伴奏法（6）～ダンサーの踊りに合わせたヴァリエーション曲の実践～
12	バレエ伴奏法（7）～モチーフを使った即興演奏や変奏～
13	バレエ伴奏法（8）～アンシェヌマンに合わせた即興演奏～
14	バレエ伴奏法（9）～バレエ伴奏をする上で重要なバレエ作品の考察と実践～
15	ミュージックプロダクション実習～レコーディングにおける奏法表現の可能性～

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	IE2842B0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	OR	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

現代のオルガニストには、教会で会衆を先導しながら即興を交えて伴奏する、通奏低音で室内楽の伴奏をする、コンサートホールの大オルガンでモニターや鏡に映る指揮者を見ながらオーケストラや合唱と共演するなど、多種多様なシチュエーションでタイプの異なる技術と知識が必要とされる。本講座では様々な演奏形態の楽曲を実践し、その経験の中からそれぞれの技術を修得すること、そしてアンサンブルの楽しさを味わうことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員指導のもと、演奏実習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で良いアンサンブル演習ができるよう、しっかりと準備をすること。また授業での指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50% 成果発表演奏会50%

平常点は毎週の授業における取り組み方、また成果発表演奏会への取り組み方とその演奏で評価します。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「ヘンデルの数字付き低音課題に基づく一通奏低音奏法」デヴィッド・レッドベター著／多田逸朗訳（全音楽譜出版）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>〔前期〕 まずは通奏低音の基礎知識を学び、基本技術の繰り返し練習を行う。その上で実際の楽曲の伴奏を考え、ソリストと一緒にアンサンブル演習を行う。</p>
1	ガイダンス、授業の進め方 通奏低音の概念について
2	通奏低音①：基本形和音の演習
3	通奏低音②：第1転回形 6の和音の演習
4	通奏低音③：第2転回形 4 6の和音の演習
5	通奏低音④：7の和音 基本形の演習
6	通奏低音⑤：7の和音 第1転回形 5 6の和音の演習
7	通奏低音⑥：7の和音 第2転回形 3 4の和音の演習
8	通奏低音⑦：7の和音 第3転回形 2の和音の演習
9	通奏低音⑧：繋留の和音の演習
10	G. ヘンデル リコーダー・ソナタの演習① 数字を読み、伴奏部分を完成させる
11	G. ヘンデル リコーダー・ソナタの演習②：楽曲分析、ソリストとのアンサンブル
12	G. ヘンデル リコーダー・ソナタの演習③：表現の工夫、仕上げの演奏
13	G. P. テレマン 英雄的行進曲の演習①：伴奏部分の確認
14	G. P. テレマン 英雄的行進曲の演習②：楽曲分析、ソリストとのアンサンブル
15	G. P. テレマン 英雄的行進曲の演習③：表現の工夫、仕上げの演奏

授業計画	
	<p>〔前期〕 様々な楽曲を通して、色々な楽器、歌とのアンサンブルの経験を重ねる。</p>
1	J. S. バッハ カンタータの演習①：数字を読む
2	J. S. バッハ カンタータの演習②：伴奏部分を完成させる
3	J. S. バッハ カンタータの演習③：ソリストとのアンサンブル
4	J. S. バッハ カンタータの演習④：表現の工夫、仕上げの演奏
5	W. A. モーツァルト 教会ソナタの演習①：楽曲分析、オルガンソロ部分の練習
6	W. A. モーツァルト 教会ソナタの演習②：室内楽との合わせ
7	W. A. モーツァルト 教会ソナタの演習③：表現の工夫、仕上げの演奏
8	J. G. ラインベルガー ヴァイオリンとオルガンの楽曲の演習①：伴奏部分の練習
9	J. G. ラインベルガー ヴァイオリンとオルガンの楽曲の演習②：ソリストとのアンサンブル
10	J. G. ラインベルガー ヴァイオリンとオルガンの楽曲の演習③：表現の工夫、仕上げの演奏
11	G. ヘンデル メサイアより「ハレルヤコーラス」①：オルガンパートの練習
12	G. ヘンデル メサイアより「ハレルヤコーラス」②：オーケストラ、合唱との合わせ
13	G. ヘンデル メサイアより「ハレルヤコーラス」③：表現の工夫、仕上げの演奏
14	成果発表演奏会の準備、楽曲の分析と表現の工夫
15	成果発表演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を発表する。

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2842G0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

同属または異なる発音形態の異種楽器とのアンサンブルを通年で研究する。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て曲を選ぶ。授業回数が前後期15回と少ないので十分な予習・練習が必要である。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

年度末試験により評価する。尚優秀グループは前田ホールでの大学院室内楽演奏会に出演

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各グループによる準備

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内楽研究として履修登録する。履修決定後、担当教員と授業計画を立てる。
不足楽器については、学部生、卒業生等を当てる。積極的な練習を必要とする。

授業計画	
	[前期] 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究 (ヘンデル)
2	アンサンブル研究 (バッハ)
3	アンサンブル研究 (モーツァルト)
4	アンサンブル研究 (ベートーヴェン)
5	アンサンブル研究 (ハイドン)
6	アンサンブル研究 (シューマン)
7	アンサンブル研究 (ブラームス)
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	[後期] 担当教員による授業計画
1	アンサンブル研究 (ドビュッシー)
2	アンサンブル研究 (フォーレ)
3	アンサンブル研究 (ラヴェル)
4	アンサンブル研究 (フランセ)
5	アンサンブル研究 (近、現代)
6	アンサンブル研究 (試験曲の分析)
7	アンサンブル研究 (試験曲演奏法指導)
8	アンサンブル研究 (試験曲リハーサル)
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2842D0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	S1	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏をする上で大切な事は、他の楽器の音も聴けることである。
アンサンブルを通して、お互いの技術の向上はもちろんのこと音楽に対する考え方を高める。

2. 授業概要

各グループで年間スケジュールを立て、曲を選ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲を研究し、授業前に練習を積むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

各担当教員の判断による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意（パート譜、スコア）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

三重奏から八重奏が望ましい。
大学院生でメンバーが集まらない時は、学部生、卒業生等に選択の幅を広げてメンバーを集めてもよい。

授業計画	
	[前期]
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	[後期]
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。
3	音楽の全体像をつかむ。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。
5	難しいパッセージの徹底練習。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイデアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	アンサンブル研究2 [火4-5]						
代表教員	山澤 洋之	授業コード	IE2842E0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

打楽器アンサンブルに関する知識・能力を養い、より専門的な知識に基づき打楽器アンサンブルについて理解し、高度なアンサンブルを演奏する事ができるようになる。

2. 授業概要

打楽器アンサンブルの黎明期より現代までの重要なアンサンブルを実演を交え取り組み、楽曲分析・演奏からそのアンサンブルがその後にもたらした影響を考察することにより打楽器アンサンブルについてより深い表現・演奏ができるようになる。また、現代打楽器アンサンブルの重要なレパートリーを学習し、理解する事が出来る。
積極的な作曲活動も視野に入れる楽曲を作成できるようになる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

合奏への実技的部分の練習はもちろんの事
取り上げる楽曲への分析、歴史的背景等の予習が望ましい
双方の予習復習に120分程度を想定している

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（演奏内容・楽曲分析内容も含み、演奏指導中に適宜質問を行いその解答や演奏習熟度によって判断される）100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

Music for Pieces of Wood/S.Reich
Ostinato Pianissimo/Henry Cowell
October Mountain/Alan Hovhaness
新作/山澤洋之
他を必要に応じて配布

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 ※歴史的な作品を主に取り上げる。
1	ガイダンス
2	基本的なアンサンブルの実践
3	楽曲研究（打楽器黎明期の作品）
4	楽曲研究（チャベス、トゥッカータを境にした作品）
5	楽曲研究（実験音楽）
6	楽曲研究（ミニマルの登場）
7	楽曲研究（日本における打楽器アンサンブル黎明期の作品）
8	楽曲研究（日本における独自進化した作品群）
9	楽曲研究（新しい作品）
10	研究楽曲 1 楽曲の構造内容の理解
11	研究楽曲 2 構造に即した表現
12	研究楽曲 3 打楽器的なアプローチによる演奏への理解
13	研究楽曲 4 全体構造及び表現に即した奏法への追及
14	研究楽曲 5 これまでの理解に基づく表現及び演奏の総合的な表現へのアプローチ
15	前期まとめ 演奏の試演と問題の抽出を行い後期への課題とする

授業計画	
	<p>[後期] ※年度末に実施されるアンサンブルコンサートに向けての実践。</p>
1	後期ガイダンス
2	選曲とプログラミング
3	楽曲制作（新しい打楽器作品への取り組み）
4	楽曲制作（実際の音と記譜について）
5	演奏会楽曲研究（古典派の作品から）
6	演奏会楽曲研究（学生作品）
7	演奏会楽曲研究（新しい作品）
8	演奏会楽曲研究（実験的な作品、またはシアターピース）
9	演奏会楽曲研究（大規模な編成の作品）
10	演奏会楽曲研究（具大的な表現・奏法の研究に着手）
11	演奏会楽曲研究（楽曲ごとの演奏表現の洗練化）
12	演奏会楽曲研究（曲ごとの関連性を研究し、演奏会全体の構造を理解する）
13	演奏会楽曲研究（全体的な構造を踏まえたうえでの均整的な総合表現）
14	演奏会楽曲研究（演奏会楽曲の試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。）
15	後期まとめ 演奏会楽曲の再試演を行い、課題の抽出・解決を目指す。

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2842G0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

様々な作曲家の合奏作品を演奏する実習を通じて、邦楽器によるアンサンブルの技術を高めていく。プロとして現場で通用する高度な領域への到達が目標となる。

2. 授業概要

GH学部生との合同で授業を進めていく。様々な作曲家の様々な作品を取り上げて、アンサンブルの演習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の視聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。場合によっては、複数の学生による自主的なパート練習も必要となる。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏実績に応じて、総合的に判断する。

総合的判断の基本線は下記の通り。

・ 演習への姿勢=25% ・ 演奏への取り組み=25% ・ 演奏実績及びその成果=50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作権に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
1	アンサンブル曲A / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲A / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲A / 課題作品研究
4	アンサンブル曲A / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲A / 演奏発表と講評
6	アドリブ演奏法 / 導入編～演習に向けての概説
7	アドリブ演奏法 / アドリブと不確定性・偶然性
8	アドリブ演奏法 / 独奏におけるアドリブ
9	アドリブ演奏法 / アンサンブルにおけるアドリブ
10	アドリブ演奏法 / アドリブ演奏発表と講評
11	アンサンブル曲B / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲B / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲B / 課題作品研究
14	アンサンブル曲B / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲B / 演奏発表と講評

授業計画	
1	アンサンブル曲C / 導入編～演習に向けての概説
2	アンサンブル曲C / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	アンサンブル曲C / 課題作品研究
4	アンサンブル曲C / 演奏の仕上げ
5	アンサンブル曲C / 演奏発表と講評
6	アンサンブル曲D / 導入編～演習に向けての概説
7	アンサンブル曲D / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	アンサンブル曲D / 課題作品研究
9	アンサンブル曲D / 演奏の仕上げ
10	アンサンブル曲D / 演奏発表と講評
11	アンサンブル曲E / 導入編～演習に向けての概説
12	アンサンブル曲E / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	アンサンブル曲E / 課題作品研究
14	アンサンブル曲E / 演奏の仕上げ
15	アンサンブル曲E / 演奏発表と講評

科目名	アンサンブル研究 2						
代表教員	原 善伸	授業コード	IE2842H0	科目コード	IE2842	期間	通年
担当教員	柿原 順子、児嶋 絢子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

クラシックギターによる重奏、合奏や他楽器(マンドリン、リコーダー)との二重奏によって、アンサンブル能力、初見力を養い、ギター奏者として自分の役割を果たし協調する人格を培うことを目標とする。年2回のクラシックギターコース演奏会に出演する。

2. 授業概要

クラシックギターによる二重奏、三重奏、四重奏、及び合奏をはじめ、音域や表現力を高める目的を持ってアルトギター、バスギターなどの合奏用ギター（大学に常備）を用いたアンサンブル、また同じ撥弦楽器であるマンドリン、演奏機会の多いリコーダーとの二重奏、合奏を実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各自パートの個人練習はもちろん、演奏会に向けて必要に応じて自主的なパート、合奏練習をする。

4. 成績評価の方法及び基準

授業態度と演奏会の評価から総合的に判断。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布（バロック時代のJ.S. バッハ、A. ヴィヴァルディ。ロマン派のF. カルリ、F. ソル。近代のF. トローパの編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	<p>〔前期〕 ギターアンサンブルに必要な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。</p>
1	<p>ガイダンス マンドリンとギターの違い、アンサンブルについて</p>
2	<p>マンドリンとギターのアンサンブルのための基礎練習</p>
3	<p>マンドリンとギターアンサンブルのレパートリー紹介</p>
4	<p>マンドリンとギターによるバロック時代の楽曲紹介</p>
5	<p>マンドリンとギターによるバロック時代の楽曲練習</p>
6	<p>マンドリンとギターによるイタリアバロック時代の楽曲練習</p>
7	<p>古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の紹介</p>
8	<p>古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習</p>
9	<p>古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習 演奏会形式による小発表会</p>
10	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の選定</p>
11	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習</p>
12	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習 指揮付き</p>
13	<p>前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲のリハーサル</p>
14	<p>前期クラシックギター演奏会の評価と反省</p>
15	<p>マンドリンとクラシックギターのアンサンブルについてまとめ</p>

授業計画	
	〔後期〕 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス リコーダーとギターのアンサンブルの課題と目標設定
2	バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の紹介
3	バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の練習
4	バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の練習 演奏会形式の小発表
5	ロマン派のリコーダーとギターのアンサンブル曲の紹介
6	ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習
7	ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 小発表会形式による演奏会
8	ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 発表会形式による小発表会
9	近・現代のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の紹介と練習
10	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 バロック時代曲
12	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 近、現代曲
13	後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	現代曲の奏法と研究1 (後) [水2]						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE285100	科目コード	IE2851	期間	半期(後期)
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究する。

2. 授業概要

講義には第一線で活躍するゲスト演奏家を招聘し、履修生も現代音楽作品を演奏し特殊奏法や作品について研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と練習を必ず行う

4. 成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・インターネット
CD・DVD・YouTube

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

国内外コンクール参加、研究演奏・修士演奏や学内リサイタルシリーズ等、必ず演奏経験を行う。

授業計画	
	[半期] (後期) 注1: 11～12月開催の冬の音楽祭に行われる可能性あり
1	現代曲とは ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義
3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて
7	トランペットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について
11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	研究演奏発表会① 前半
14	研究演奏発表会② 後半 注1
15	まとめとレポート提出

授業計画

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	現代曲の奏法と研究2 (後) [水2]						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE285200	科目コード	IE2852	期間	半期(後期)
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

演奏家の視点から現代音楽作品の解釈と特殊奏法について深く研究する。

2. 授業概要

講義には第一線で活躍するゲスト演奏家を招聘し、履修生も現代音楽作品を演奏し特殊奏法や作品について研究する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と練習を必ず行う

4. 成績評価の方法及び基準

演奏姿勢、演奏内容とレポート提出

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・インターネット
CD・DVD・YouTube

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

国内外コンクール参加、研究演奏・修士演奏や学内リサイタルシリーズ等、必ず演奏経験を行う。

授業計画	
	[半期] (後期) 注1: 11～12月開催の冬の音楽祭に行われる可能性あり
1	現代曲とは ガイダンスと授業説明
2	現代音楽の定義
3	フルートについて
4	オーボエについて
5	現代楽器と古楽器演奏法との相違点
6	サクソフォンについて
7	トランペットについて
8	ホルンについて
9	トロンボーンについて
10	室内楽における現代曲について
11	オーケストラにおける現代曲について
12	現代音楽の現状
13	研究演奏発表会① 前半
14	研究演奏発表会② 後半 注1
15	まとめとレポート提出

授業計画

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究 1				
代表教員	古川 玄一郎	授業コード	IE286100	科目コード	IE2861
担当教員		期間	通年		
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	PI	科目分類	専門選択		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

作曲家たちは打楽器に何を求めたのか。
表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察し、譜面の読みを深くする。

2. 授業概要

19世紀なかごろより急速に発展し様々なかたちで音楽作品に用いられてきた打楽器だが、その特徴のひとつとして楽器のヴァリエーションが膨大なことが挙げられる。
奏法は各打楽器によりそれぞれ異なり、さらに撥類を組み合わせることによって音色の可能性は無限の広がりをみせる。当然表現媒体として打楽器をチョイスする作曲家は多く、彼らははこれまでにない新しい響きをもとめ従来の奏法からは大きく逸れた、いわゆる特殊奏法を考案してきた。
この講義は19世紀初頭から現代に至るまでの打楽器芸術の遷移とそれらの表現方法を、毎回テーマに即した作品と作曲家にフォーカスし研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ①20世紀までの音楽史を理解しておくこと。
- ②取り上げる作品を聴き、譜面に目を通すこと。
- ③取り上げる作品の特殊奏法、記譜法を理解しておくこと。
(トータルの学習想定時間は90分程度)

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢（平常点）50%、レポート50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

- ①「新版打楽器事典」網代景介・岡田知之共著（音楽之友社）
- ②授業内で適宜配布するプリントや譜例

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス
2	オーケストラに導入される非楽音 「交響曲第6番」(G. マラー)、 「パリのアメリカ人」(G. ガーシュイン)、 「パレード」(E. サティ)
3	室内楽① 「兵士の物語」(I. ストラヴィンスキー)、 「バレエ・メカニック」(G. アンタイル)、 「2台ピアノと打楽器のためのソナタ」(B. パルトーク)、 「夏の夜の音楽」(G. クラム)、 「linea」(L. ベリオ)
4	室内楽②(打楽器アンサンブル) 「鼻」(D. ショスタコーヴィチ)、 「イオニザシオン」(E. ヴァーレーズ)、 「2組のティンパニのためのマーチ」(フィリドール兄弟) 他
5	J. ケージ① (プリペアドピアノ考案~4' 33")
6	J. ケージ② (打楽器アンサンブル作品を中心に)
7	具体音と大衆音楽 「L. アンダーソン、S. ジョプリン」(タイプライター、サンドペーパーバレエ、シンコペイテッドクロック、ピアノラグタイム)
8	図形楽譜 「ツイクルス」(K. シュトックハウゼン)、 「デンマークの王様」(M. フェルドマン)、 「サッファ」(I. クセナキス) 他
9	武満徹 「ムナーリバイムナーリ」「四季」「カシオペア」「雨の樹」「From me flows what you call Time」
10	引用 「動物の謝肉祭」(C. サンサーンス)、 「干からびた胎児」(E. サティ)、 「The Well-Tempered Percussion」(P. ノアゴー)
11	ティンパニー=エフェクター 「イーチン」(P. ノアゴー)、 「冬」(武満徹)、 「ワイルドガーデン」(E. コベツキ) 他
12	弓で弾く打楽器 「グラウンド」(副士則夫)、 「変化する共鳴の長さ」(鷲見音衛門文広)、 「ナゲキバトのソネット」(C. ディーン)、 「イーチン」(P. ノアゴー)
13	クラスター 「REEL」(L. ハリソン)、 「TheTides of Manaunaun」(H. カウエル)、 「シリカ」(副士則夫) 他
14	プリペアドピアノ 「かくて大地は再び身を結ばん」(J. ケージ)、 「エオリアンハーブ」(H. カウエル)、 「デュオローグ」(西村朗) 他
15	前期まとめ、レポート

授業計画	
	[後期]
1	S. ライヒ①(初期テープ作品～木片の音楽まで)
2	S. ライヒ②(Six Marimba～現在まで)
3	ライヒへのオマージュと変容「Überlagerung und Verschiebung」(K. オーベルマイヤー)、「手拍子の音楽変奏曲」(G. コッチェ)、CD「Reich :Rimixed」より
4	パガニーニへのオマージュと変容「24のカプリース」(N. パガニーニ)、「パガニーニパーソナル」(一柳慧)、「パガニーニジャズ」(F. サイ)
5	フルクサスとコンセプチュアルアート(D. チュードア、小杉武久、J. マチューナス、N. J. パイク、J. ブレクト)
6	テキストを伴う作品「トゥシェ」(V. グロヴォカール)、「リヴィングルームミュージック」「18の春を迎えた陽気な未亡人」(J. ケージ)、「To The Earth」(F. ジェフスキ)、「橋を渡って」(高橋悠治)
7	静的な打楽器(J. グリゼイ、M. フェルドマン他)
8	エレクトロニクス「ムーヴィングエア」「フェイビアンセオリー」(N. ウェストレイク)、「テマツカル」(J. アルバレット)他
9	シアターミュージック「aphasia」(M. アップルバウム)、「これはボールではない」(A. エスベレ他)、「Silence Must be!」(T. D. メイ)、「アラーム」他
10	玩具とスーパーボール 「グラウンド」「赤道のゼフィルス」「海流」「リスコントロ」「カップル」(副士則夫)、「波」(P. ノアゴー)、「モノヴァランス」(池辺晋一郎)他
11	声 「ロゴサンティ」(J. ウッド)、「雨の向こう側で」(池辺晋一郎)、「赤道のゼフィルス」(副士則夫)
12	マルチメディア 「6つの日本庭園」(K. サーリアホ)他
13	協奏曲 「コンチェルト」(D. ミヨー)、「コンチェルト」(A. ジョリヴェ)、「アフロコンチェルト」(石井真木)、「クロモスフィア」(副士則夫)、「ジティマルヤ」(武満徹)他
14	コラージュ 「The Beatles1962-1970」(J. ケージ)他
15	一年間のまとめ、総合レポート

科目名	打楽器の変遷と奏法の研究 2						
代表教員	古川 玄一郎	授業コード	IE286200	科目コード	IE2862	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲家たちは打楽器に何を求めたのか。
表現素材としての打楽器のあり方を演奏者の視座より考察し、譜面の読みを深くする。

2. 授業概要

19世紀なかごろより急速に発展し様々なかたちで音楽作品に用いられてきた打楽器だが、その特徴のひとつとして楽器のヴァリエーションが膨大なことが挙げられる。
奏法は各打楽器によりそれぞれ異なり、さらに撥類を組み合わせることによって音色の可能性は無限の広がりをみせる。当然表現媒体として打楽器をチョイスする作曲家は多く、彼らははこれまでにない新しい響きをもとめ従来の奏法からは大きく逸れた、いわゆる特殊奏法を考案してきた。
この講義は19世紀初頭から現代に至るまでの打楽器芸術の遷移とそれらの表現方法を、毎回テーマに即した作品と作曲家にフォーカスし研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ①20世紀までの音楽史を理解しておくこと。
- ②取り上げる作品を聴き、譜面に目を通すこと。
- ③取り上げる作品の特殊奏法、記譜法を理解しておくこと。
（トータルの学習想定時間は90分程度）

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する参加姿勢（平常点）50%、レポート50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

- ①「新版打楽器事典」網代景介・岡田知之共著（音楽之友社）
- ②授業内で適宜配布するプリントや譜例

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

諸芸術に対する深い理解と愛情を持つ履修者を望む。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス
2	オーケストラに導入される非楽音 「交響曲第6番」(G. マラー)、 「パリのアメリカ人」(G. ガーシュイン)、 「パレード」(E. サティ)
3	室内楽① 「兵士の物語」(I. ストラヴィンスキー)、 「バレエ・メカニック」(G. アンタイル)、 「2台ピアノと打楽器のためのソナタ」(B. パルトーク)、 「夏の夜の音楽」(G. クラム)、 「linea」(L. ベリオ)
4	室内楽②(打楽器アンサンブル) 「鼻」(D. ショスタコーヴィチ)、 「イオニザシオン」(E. ヴァーレーズ)、 「2組のティンパニのためのマーチ」(フィリドール兄弟) 他
5	J. ケージ① (プリペアドピアノ考案~4' 33")
6	J. ケージ② (打楽器アンサンブル作品を中心に)
7	具体音と大衆音楽 「L. アンダーソン、S. ジョプリン」(タイプライター、サンドペーパーバレエ、シンコペイテッドクロック、ピアノラグタイム)
8	図形楽譜 「ツィクルス」(K. シュトックハウゼン)、 「デンマークの王様」(M. フェルドマン)、 「サッファ」(I. クセナキス) 他
9	武満徹 「ムナーリバイムナーリ」「四季」「カシオペア」「雨の樹」「From me flows what you call Time」
10	引用 「動物の謝肉祭」(C. サンサーンス)、 「干からびた胎児」(E. サティ)、 「The Well-Tempered Percussion」(P. ノアゴー)
11	ティンパニー=エフェクター 「イーチン」(P. ノアゴー)、 「冬」(武満徹)、 「ワイルドガーデン」(E. コベツキ) 他
12	弓で弾く打楽器 「グラウンド」(副士則夫)、 「変化する共鳴の長さ」(鷲見音衛門文広)、 「ナゲキバトのソネット」(C. ディーン)、 「イーチン」(P. ノアゴー)
13	クラスター 「REEL」(L. ハリソン)、 「TheTides of Manaunaun」(H. カウエル)、 「シリカ」(副士則夫) 他
14	プリペアドピアノ 「かくて大地は再び身を結ばん」(J. ケージ)、 「エオリアンハーブ」(H. カウエル)、 「デュオローグ」(西村朗) 他
15	前期まとめ、レポート

授業計画	
	[後期]
1	S. ライヒ①(初期テープ作品～木片の音楽まで)
2	S. ライヒ②(Six Marimba～現在まで)
3	ライヒへのオマージュと変容「Überlagerung und Verschiebung」(K. オーベルマイヤー)、「手拍子の音楽変奏曲」(G. コッチェ)、CD「Reich :Rimixed」より
4	パガニーニへのオマージュと変容「24のカプリース」(N. パガニーニ)、「パガニーニパーソナル」(一柳慧)、「パガニーニジャズ」(F. サイ)
5	フルクサスとコンセプチュアルアート(D. チュードア、小杉武久、J. マチューナス、N. J. パイク、J. ブレクト)
6	テキストを伴う作品「トゥシェ」(V. グロヴォカール)、「リヴィングルームミュージック」「18の春を迎えた陽気な未亡人」(J. ケージ)、「To The Earth」(F. ジェフスキ)、「橋を渡って」(高橋悠治)
7	静的な打楽器(J. グリゼイ、M. フェルドマン他)
8	エレクトロニクス「ムーヴィングエア」「フェイビアンセオリー」(N. ウェストレイク)、「テマツカル」(J. アルバレット)他
9	シアターミュージック「aphasia」(M. アップルバウム)、「これはボールではない」(A. エスベレ他)、「Silence Must be!」(T. D. メイ)、「アラーム」他
10	玩具とスーパーボール 「グラウンド」「赤道のゼフィルス」「海流」「リスコントロ」「カップル」(副士則夫)、「波」(P. ノアゴー)、「モノヴァランス」(池辺晋一郎)他
11	声 「ロゴサンティ」(J. ウッド)、「雨の向こう側で」(池辺晋一郎)、「赤道のゼフィルス」(副士則夫)
12	マルチメディア 「6つの日本庭園」(K. サーリアホ)他
13	協奏曲 「コンチェルト」(D. ミヨー)、「コンチェルト」(A. ジョリヴェ)、「アフロコンチェルト」(石井真木)、「クロモスフィア」(副士則夫)、「ジティマルヤ」(武満徹)他
14	コラージュ 「The Beatles1962-1970」(J. ケージ)他
15	一年間のまとめ、総合レポート

科目名	コンチェルト研究 1						
代表教員	江崎 昌子	授業コード	IE287100	科目コード	IE2871	期間	通年
担当教員	北島 公彦、外山 啓介、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーデションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

2. 授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多めに推奨する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる

4. 成績評価の方法及び基準

コンチェルト研究演奏会における成果発表、また平常点（受講態度、授業への取り組み方）により評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）
3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（ソロパートのタッチやベダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーディングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）
7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）
15	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）

授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて)
3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究)
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ)
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ)
7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ)
9	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ)
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ)
12	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて)
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習
15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	コンチェルト研究 2						
代表教員	江崎 昌子	授業コード	IE287200	科目コード	IE2872	期間	通年
担当教員	北島 公彦、外山 啓介、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

オーケストラの華である協奏曲のスタイルをソロとオーケストラが共にどのように音楽を作っているかを分析し、実際に電子オルガンとの協演を通して協奏曲における演奏技術を学ぶ。協奏曲のソリストとしての役割、指揮者とオーケストラのとの息の合わせ方を学ぶため、また卒業後にコンチェルトオーディションなどにおけるピアノ伴奏者として活躍できる高度で専門的な技術を身につけるため、ソロパートのみならずオーケストラパートをピアノ伴奏版としても習得し、オーケストラの響きをイメージしながらピアノで伴奏する際の注意点や工夫なども課題とする。

2. 授業概要

電子オルガンとのコンチェルト研究演奏会で演奏する曲を各自選択し（学生の希望による）ソロ、オーケストラパートのピアノ伴奏の両方を学び仕上げる。コンチェルト研究演奏会の前に二台ピアノにおける試演会も行う。試演会ではソロで出演するほかピアノ伴奏パートとして出演することも多めに推奨する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員のレッスンによる

4. 成績評価の方法及び基準

コンチェルト研究演奏会における成果発表、また平常点（受講態度、授業への取り組み方）により評価する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	コンチェルトの歴史とピアノ協奏曲の発展
2	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の研究（ソロパートを中心に、バロック時代のソロパートの在り方について学ぶ）
3	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、協奏曲としての役割について）
4	バロックの鍵盤楽器のための協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（ソロパートのタッチやベダリング、ソロパートの入り方、オーケストラとのやりとりについて）
6	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートのスコアリーディングとともに、ピアノ伴奏として演奏する際の響きの作り方について学ぶ）
7	古典（モーツァルト）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（ソロパートを中心に、モーツァルトの協奏曲との比較）
9	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの各楽器に相応しいタッチや響きの作り方をピアノで実演する）
10	古典（ベートーヴェン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、古典からの流れとロマン派の協奏曲の発展を学ぶ。）
12	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートを中心に、オーケストラの響きをイメージしながらピアノ伴奏としてどのような表現が必要かを学ぶ）
13	ロマン派（シューマン）のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（ソロパートを中心に、ショパンの協奏曲の特徴、ショパンが意図した響き、及び協奏曲に反映された舞曲的なリズムについて学ぶ）
15	ロマン派（ショパン）のピアノ協奏曲の研究（オーケストラパートとソロを含め、ナショナルエディション版による協奏曲独奏版の演奏方法を学ぶ）

授業計画	
1	ロマン派(ショパン)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
2	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、テンポの変化やカデンツについて)
3	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における、オーケストラの各楽器に最もふさわしい音色の研究)
4	ロマン派(グリーグ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
5	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、オーケストラとのバランス、ピアノの楽器の発展に伴う協奏曲の在り方について学ぶ)
6	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ラフマニノフの協奏曲の特徴を学ぶ)
7	近現代(ラフマニノフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
8	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心に、後期ロマン派からの転換について、響きや表現の変化、及びスタイルの違いを学ぶ)
9	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、スコアリーディングとともにピアノ伴奏における諸問題について学ぶ)
10	近現代(ラヴェル)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
11	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(ソロパートを中心にプロコフィエフのタッチや表現について学ぶ)
12	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の研究(オーケストラパートを中心に、ソロパートとオーケストラの各楽器の役割、バランスについて)
13	近現代(プロコフィエフ)のピアノ協奏曲の二台ピアノ版によるアンサンブル演習
14	指揮者による協奏曲演奏会演習
15	指揮者と電子オルガンによる演奏会演習

科目名	オルガンの様式と奏法の研究2						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	IE287400	科目コード	IE2874	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	OR	科目分類	専門選択				
前提科目							
教員免許状							

1. 主題・到達目標

パイプオルガンの起源は紀元前3世紀まで遡ることができるが、初期のオルガンは機能や用途が現代のものとは大きく異なっていた。やがてヨーロッパに渡り、10世紀頃からキリスト教会で用いられるようになると飛躍的に発達していった。そして国や地域、時代ごとに独自の特性を持つ楽器が製作され、更にその個性豊かな楽器から多種多様なオルガン作品が生まれたのである。

本講座ではまずオルガンの歴史と構造を学び、その上で各地域、時代のオルガンと楽曲の特性を学んでいく。そしてその知識が、実際の演奏に反映できるようになることが最終的な目標である。またオルガニストにとって大切な技術の1つである音色作り=レジストレーションの基礎を学び、実践に応用できる力を身につけることも重要な目標である。

2. 授業概要

前期はオルガンの歴史と構造、そしてレジストレーションの基礎を学んでいく。そして後期は各国、各地域のオルガンの特徴や、日本のオルガンの現状を学ぶ。また首都圏にある様々なタイプのオルガンを見学し、その特色を見聞する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

オルガニストにとって必須の事柄を学ぶ授業なので、授業時間外にも自分で本を読んで予習し、また知識を実際の演奏に活かせるように定着させること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50%、レポート50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「オルガン音楽のふるさと」NHKオルガン研究会 NHK出版
「オルガンのすべて」 ハンス・クロッツ著 藤野薫訳 パックスヴィジョン社

参考書・参考資料等は授業内で、適宜資料を配布する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画

1	ガイダンス、授業の進め方
2	オルガンの歴史について(1) 起源から中世まで
3	オルガンの歴史について(2) 13世紀～15世紀
4	オルガンの構造について(1) 概要、音が出るしくみ
5	オルガンの構造について(2) パイプの発音原理
6	オルガンの構造について(3) フルパイプの種類
7	オルガンの構造について(4) リードパイプの種類
8	オルガンの構造について(5) 送風装置
9	オルガンの構造について(6) 鍵盤とアクション
10	オルガンの構造について(7) 風箱について
11	レジストレーションについて(1) 基礎、ストップの種類と重ね方
12	レジストレーションについて(2) ドイツのオルガンのストップとレジストレーションの実際
13	レジストレーションについて(3) フランスのオルガンのストップとレジストレーションの実際
14	レジストレーションについて(4) イタリア、スペインなどのストップとレジストレーションの実際
15	オルガンの歴史と構造、レジストレーションについてのレポートとまとめ

授業計画

1	イタリアのオルガンについて
2	スペインのオルガンについて
3	オランダ、北ドイツのオルガンについて A. シュニットガーなど
4	中部ドイツのオルガンについて G. ジルバーマンなど
5	南ドイツ、オーストリアのオルガンについて
6	バッハが演奏したオルガンについて
7	ドイツロマン派のオルガンについて ラーデガスト、ザウアーなど
8	フランス古典のオルガンについて(1) クリコなどパリ型のオルガン
9	フランス古典のオルガンについて(2) A. ジルバーマン、ドン・ペドスなど
10	フランスロマン派のオルガンについて カヴァイエ・コルなど
11	イギリスのオルガンについて
12	オルガンの近代化、ユニバーサル化
13	日本のオルガンの歴史
14	日本のオルガンの現状
15	各地のオルガンについてのレポートとまとめ

科目名	音楽教育特殊研究 1 [金3]						
代表教員	董 芳勝	授業コード	IE288100	科目コード	IE2881	期間	通年
担当教員	佐藤 昌弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：子どもへの理解を礎とする音楽教育

到達目標：主題についての学術的な根拠を理解し、教育課程の内容の検証をした上、授業実践例を分析し、それらの成果により授業事例を構想する。

2. 授業概要

学校の音楽教育では、子どもたちが音（音楽）と遊ぶところから始まる。音（音楽）との遊びを通じ、子どもたちに音（音楽）がいかに生活に密着しているかを感じさせ、さらには音（音楽）への関心を広げさせることにより、子どもの音楽への想いや願い、すなわち音楽への志向性が育まれていく。したがって、学校の音楽教育において豊かな人間性を育むには、子どもたちの音楽への志向性をどのように高めていくのが肝要となる。この視点に立って、本講座ではデューイやリーマーの教育論・芸術論を礎とし、子どもの主体的活動による音楽学習の可能性を追求する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備しておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

レポート（評価の35%） 課題への対応（評価の35%） 授業への参加姿勢（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画

	<p>【前期】 おもに小学校児童を対象とし、子どもの目線から、音（音楽）と遊ぶことを通して、音（音楽）への関心の広がり内面の志向性におよぶ体験をする。その一方で、以下の視点による学校の音楽授業の在り方を探り、音楽科の授業づくりの基礎を学ぶ。</p> <p>1) 実践的視点：小学校の音楽科の目標や内容等の検討 2) 人間教育の視点：音楽科教育の価値と問題点の検討 3) 国際化の視点：日本と世界の音楽科教育の動向の把握</p>
1	前期ガイダンス
2	音楽教育の歴史
3	音楽教育の哲学理論についての検証
4	音楽教育の哲学理論の応用実践
5	音楽科の目標
6	音楽科の指導内容と評価
7	音楽科の教材研究
8	音楽科における実践と指導 ①歌唱活動
9	音楽科における実践と指導 ②器楽活動
10	音楽科における実践と指導 ③創作活動
11	音楽科における実践と指導 ④鑑賞活動
12	音楽科の伝統音楽をテーマとした実践と指導
13	「子ども理解」による音楽授業づくりの指導案作成
14	「子ども理解」による音楽授業づくりの実践
15	前期のまとめ

授業計画	
	<p>【後期】 おもにに中高等学校の生徒を対象として、以下の事項から音楽教育を考察する。 1) 日中両国の中学校の音楽科の目標や内容の比較・検討 2) 感性と知性の統合を実践的な観点から明らかにしていく デューイの「オキュベーション」概念 これらを踏まえ、音楽科の各活動領域に当てはめて指導方法を構想し、それらの授業の実演や検証を行う。</p>
1	後期ガイダンス
2	中学校の音楽科教育の目標
3	中学校の音楽科教育の指導内容と評価
4	高等学校の芸術科音楽教育の目標
5	高等学校の芸術科音楽科教育の指導内容と評価
6	日中の音楽科教育の目標・内容の現状分析
7	日中の音楽科教育の目標・内容の比較検討
8	日中の音楽科教育の指導要領の比較
9	日中の音楽科教育の授業実践の比較
10	日中の音楽科教員育成の比較
11	デューイの「オキュベーション」概念
12	デューイの「オキュベーション」概念による授業づくり
13	デューイの「オキュベーション」概念による授業の検証
14	教員養成における音楽科教育の課題
15	後期のまとめ

科目名	音楽教育特殊研究2 [金3]				
代表教員	董 芳勝	授業コード	IE288200	科目コード	IE2882
担当教員	佐藤 昌弘				
授業形態	演習	配当学年	1		
対象コース	MP	科目分類	専門選択		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

主題：子どもへの理解を礎とする音楽教育

到達目標：主題についての学術的な根拠を理解し、教育課程の内容の検証をした上、授業実践例を分析し、それらの成果により授業事例を構想する。

2. 授業概要

学校の音楽教育では、子どもたちが音（音楽）と遊ぶところから始まる。音（音楽）との遊びを通じ、子どもたちに音（音楽）がいかに生活に密着しているかを気づかせ、さらには音（音楽）への関心を広げさせることにより、子どもの音楽への想いや願い、すなわち音楽への志向性が育まれていく。したがって、学校の音楽教育において豊かな人間性を育むには、子どもたちの音楽への志向性をどのように高めていくのが肝要となる。この視点に立って、本講座ではデューイやリーマーの教育論・芸術論を礎とし、子どもの主体的活動による音楽学習の可能性を追求する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と演習を交えて行い、また学外における実践の見学も計画しているので、それぞれの内容に応じ、また担当講師の指示に従い、準備しておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

レポート（評価の35%） 課題への対応（評価の35%） 授業への参加姿勢（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	<p>【前期】</p> <p>おもに小学校児童を対象とし、子どもの目線から、音（音楽）と遊ぶことを通して、音（音楽）への関心の広がり内面の志向性におよぶ体験をする。その一方で、以下の視点による学校の音楽授業の在り方を探り、音楽科の授業づくりの基礎を学ぶ。</p> <p>1) 実践的視点：小学校の音楽科の目標や内容等の検討 2) 人間教育の視点：音楽科教育の価値と問題点の検討 3) 国際化の視点：日本と世界の音楽科教育の動向の把握</p>
1	前期ガイダンス
2	音楽教育の歴史
3	音楽教育の哲学理論についての検証
4	音楽教育の哲学理論の応用実践
5	音楽科の目標
6	音楽科の指導内容と評価
7	音楽科の教材研究
8	音楽科における実践と指導 ①歌唱活動
9	音楽科における実践と指導 ②器楽活動
10	音楽科における実践と指導 ③創作活動
11	音楽科における実践と指導 ④鑑賞活動
12	音楽科の伝統音楽をテーマとした実践と指導
13	「子ども理解」による音楽授業づくりの指導案作成
14	「子ども理解」による音楽授業づくりの実践
15	前期のまとめ

授業計画	
	<p>【後期】</p> <p>おもにに中高等学校の生徒を対象として、以下の事項から音楽教育を考察する。</p> <p>1) 日中両国の中学校の音楽科の目標や内容の比較・検討</p> <p>2) 感性と知性の統合を実践的な観点から明らかにしていく</p> <p>デューイの「オキュペーション」概念</p> <p>これらを踏まえ、音楽科の各活動領域に当てはめて指導方法を構想し、それらの授業の実演や検証を行う。</p>
1	後期ガイダンス
2	中学校の音楽科教育の目標
3	中学校の音楽科教育の指導内容と評価
4	高等学校の芸術科音楽教育の目標
5	高等学校の芸術科音楽科教育の指導内容と評価
6	日中の音楽科教育の目標・内容の現状分析
7	日中の音楽科教育の目標・内容の比較検討
8	日中の音楽科教育の指導要領の比較
9	日中の音楽科教育の授業実践の比較
10	日中の音楽科教員育成の比較
11	デューイの「オキュペーション」概念
12	デューイの「オキュペーション」概念による授業づくり
13	デューイの「オキュペーション」概念による授業の検証
14	教員養成における音楽科教育の課題
15	後期のまとめ

科目名	音楽教育特殊研究 3						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE288300	科目コード	IE2883	期間	通年
担当教員	金井 公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：カリキュラム・デザインにおける理念と内容

到達目標：学校教育や民間教育における様々な音楽学習のカリキュラムについて、カリキュラム・デザインにおける理念とその内容を、具体例をもって分析・理解し、その問題点を抽出する。

2. 授業概要

カリキュラムは学習指導要領など制度的な教育課程が代表的であるが、広くは指導する側が学習者に与える学習経験の総体ということができ、様々な教育の場のカリキュラムは存在する。本授業では学校教育における音楽科・特別活動、大学院における専門教育、民間における教育というそれぞれ異なる教育を取り上げ、受講生の個々の研究テーマと関連させて、それぞれのカリキュラム・デザインの理念と特徴および内容（教材等）を分析・理解し、その課題について現代社会における問題点を視野に入れつつ考察する。また個別のテーマに応じて日本と中国の例を取り上げ、比較検討を行う。なおテーマに応じて学内外の講師による集中講義を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、受講生の発表も随時行うため、シラバスに準じて、担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

期末レポート（35%） 課題への対応（35%） 授業への参加姿勢（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】様々な音楽学習の場におけるカリキュラム
1	ガイダンス
2	1 カリキュラム、カリキュラム・デザインとは
3	2-1 音楽科—日本の場合
4	2-2 音楽科—ICT活用の歴史
5	2-3 音楽科—ICT活用の問題
6	3-1 特別活動—日本における特別活動の意義
7	3-2 特別活動—その理念：吹奏楽クラブの場合
8	3-3 特別活動—その内容：吹奏楽クラブの場合
9	4-1 民間教育—日中における年少者に対するピアノ指導
10	4-2 民間教育—ピアノ指導へのリトミック導入の理念
11	4-3 民間教育—リトミック活用のピアノ指導の実際
12	5-1 専門教育—日中における伝統音楽の取扱い
13	5-2 専門教育—日中の大学教育における伝統音楽
14	5-3 専門教育—日中の大学教育における箏の演奏指導
15	前期総括

授業計画	
	【後期】様々な場におけるカリキュラムの問題点
1	2-1 音楽科におけるICT活用—カリキュラム改善の課題
2	2-2 音楽科におけるICT活用—eポートフォリオの活用
3	2-3 音楽科におけるICT活用—カリキュラム・デザインにおける理念の構築
4	3-1 吹奏楽クラブのカリキュラム—その特徴と問題点
5	3-2 吹奏楽クラブのカリキュラム—カリキュラムの改善
6	3-3 吹奏楽クラブのカリキュラム—中国における吹奏楽指導者養成への示唆
7	4-1 年少者に対するピアノ指導—カリキュラムにおけるリトミックの位置付け
8	4-2 年少者に対するピアノ指導—リトミック活用の有効性
9	4-3 年少者に対するピアノ指導—中国におけるピアノ指導のリトミック導入
10	5-1 専門教育における箏の指導—カリキュラムにおける職業教育としての側面
11	5-2 専門教育における箏の指導—日本の箏学習のカリキュラム・デザインにおける問題点
12	5-3 専門教育における箏の指導—中国の古箏学習のカリキュラム・デザインにおける問題点
13	6-1 学校教育におけるカリキュラム・デザインの課題
14	6-2 演奏教育におけるカリキュラム・デザインの課題
15	後期総括

科目名	音楽教育特殊研究 4						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	IE288400	科目コード	IE2884	期間	通年
担当教員	金井 公美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

主題：カリキュラム・デザインにおける理念と内容

到達目標：学校教育や民間教育における様々な音楽学習のカリキュラムについて、カリキュラム・デザインにおける理念とその内容を、具体例をもって分析・理解し、その問題点を抽出する。

2. 授業概要

カリキュラムは学習指導要領など制度的な教育課程が代表的であるが、広くは指導する側が学習者に与える学習経験の総体ということができ、様々な教育の場のカリキュラムは存在する。本授業では学校教育における音楽科・特別活動、大学院における専門教育、民間における教育というそれぞれ異なる教育を取り上げ、受講生の個々の研究テーマと関連させて、それぞれのカリキュラム・デザインの理念と特徴および内容（教材等）を分析・理解し、その課題について現代社会における問題点を視野に入れつつ考察する。また個別のテーマに応じて日本と中国の例を取り上げ、比較検討を行う。なおテーマに応じて学内外の講師による集中講義を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業は講義と実習を交えて行い、受講生の発表も随時行うため、シラバスに準じて、担当講師の指示に従い、準備をしておくこと。復習については、内容が多岐にわたるので、毎時の配付資料等をファイルし、授業内容をまとめておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

期末レポート（35%） 課題への対応（35%） 授業への参加姿勢（30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

常時使うテキストはないが、参考文献は前期第1回授業の際、およびその後の授業時に内容に応じて指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】様々な音楽学習の場におけるカリキュラム
1	ガイダンス
2	1 カリキュラム、カリキュラム・デザインとは
3	2-1 音楽科—日本の場合
4	2-2 音楽科—ICT活用の歴史
5	2-3 音楽科—ICT活用の問題
6	3-1 特別活動—日本における特別活動の意義
7	3-2 特別活動—その理念：吹奏楽クラブの場合
8	3-3 特別活動—その内容：吹奏楽クラブの場合
9	4-1 民間教育—日中における年少者に対するピアノ指導
10	4-2 民間教育—ピアノ指導へのリトミック導入の理念
11	4-3 民間教育—リトミック活用のピアノ指導の実際
12	5-1 専門教育—日中における伝統音楽の取扱い
13	5-2 専門教育—日中の大学教育における伝統音楽
14	5-3 専門教育—日中の大学教育における箏の演奏指導
15	前期総括

授業計画	
	【後期】様々な場におけるカリキュラムの問題点
1	2-1 音楽科におけるICT活用—カリキュラム改善の課題
2	2-2 音楽科におけるICT活用—eポートフォリオの活用
3	2-3 音楽科におけるICT活用—カリキュラム・デザインにおける理念の構築
4	3-1 吹奏楽クラブのカリキュラム—その特徴と問題点
5	3-2 吹奏楽クラブのカリキュラム—カリキュラムの改善
6	3-3 吹奏楽クラブのカリキュラム—中国における吹奏楽指導者養成への示唆
7	4-1 年少者に対するピアノ指導—カリキュラムにおけるリトミックの位置付け
8	4-2 年少者に対するピアノ指導—リトミック活用の有効性
9	4-3 年少者に対するピアノ指導—中国におけるピアノ指導のリトミック導入
10	5-1 専門教育における箏の指導—カリキュラムにおける職業教育としての側面
11	5-2 専門教育における箏の指導—日本の箏学習のカリキュラム・デザインにおける問題点
12	5-3 専門教育における箏の指導—中国の古箏学習のカリキュラム・デザインにおける問題点
13	6-1 学校教育におけるカリキュラム・デザインの課題
14	6-2 演奏教育におけるカリキュラム・デザインの課題
15	後期総括

科目名	合奏指導法研究 1 (前) [水2]						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2885G0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

2. 授業概要

学部開設合奏授業（オーケストラ・吹奏楽・アンサンブルなど）に参加（見学を含む）して授業内容をレポート提出する。（半期に1回担当教員へ）
外部プロ演奏団体はプログラムのコピー、中学高校吹奏楽、オーケストラ指導の場合は指導参加日時等と指導の教員の印鑑を必要とする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う

4. 成績評価の方法及び基準

レポートを中心に指導内容による

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サクソオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）・洗足学園ニューフィルハーモニー・学外プロオーケストラ等。（中学・高校・大学等一般吹奏楽バンド指導やエキストラ出演も含む）

授業計画

	注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること。 座学は前期半期予定
1	合奏指導法ガイダンス（前期）
2	フルートオーケストラ（同族）岩花先生
3	ブリティッシュ・ブラス 福田先生
4	オーケストラ指導について 指揮法① 松元先生
5	吹奏楽指導について 指揮法②松元先生
6	吹奏楽研究 池上先生
7	管楽器編曲方法①概要 松下先生
8	オーケストラ研究 辻先生
9	サクソオーケストラ（同族）岩本先生
10	管楽器編曲法②楽器学と使用法 松下先生
11	管楽器編曲法③編曲実践（実際の編曲楽譜例） 松下先生
12	管楽器編曲法④編曲実践と演奏 松下先生
13	管楽器編曲法⑤実際に編曲した楽曲の演奏研究 松下先生
14	管楽器編曲法⑥ 編曲作品講評と修正 松下先生
15	合奏指導法研究まとめ 渡部先生

授業計画	
	[後期] 幅広い指導活動を体験しレポートにて報告する。後期は座学は無い
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2885D0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	S1	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとおり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

2. 授業概要

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上りも学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい
演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。
応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	〔前期〕古澤巖先生から学ぶ マリーノのコンチェルト サンサースン死の舞踏 シチリアーナ、リンピダ モーツァルト作品 他
1	ガイダンス（前期授業説明） 前期課題曲の作曲家について学ぶ
2	マリーノのコンチェルト 譜読み
3	マリーノのコンチェルト パート分奏
4	マリーノのコンチェルト 全体合奏
5	サンサースン死の舞踏とシチリアーナの譜読み
6	サンサースン死の舞踏とシチリアーナ パート分奏
7	サンサースン死の舞踏とシチリアーナ 全体合奏
8	モーツァルト作品の譜読み
9	モーツァルト作品 パート分奏
10	モーツァルト作品 全体合奏
11	前期課題曲前半の通し練習
12	前期課題曲後半の通し練習
13	前期課題曲全体の通し練習
14	前期演奏会リハーサル最終確認
15	前期演奏会

授業計画	
	<p>[後期] フェデリコ アゴスティーニ先生から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイドンのヴァイオリン協奏曲ハ長調 ・シューベルト ・ラター組曲 ・ブリテン シンプルシンフォニー
1	ガイダンス（後期授業説明） 後期課題曲の作曲家について学ぶ
2	ハイドン協奏曲 譜読み
3	ハイドン協奏曲 パート分奏
4	ハイドン協奏曲 全体合奏
5	シューベルト 譜読み
6	シューベルト パート分奏
7	シューベルト 全体合奏
8	ラター組曲 譜読み
9	ブリテン 譜読み
10	ラター組曲とブリテン パート分奏
11	ラター組曲とブリテン 全体合奏
12	後期課題曲全体の通し練習
13	後期課題曲ハイドン、シューベルト 通し練習
14	後期課題曲ラター、ブリテン 通し練習
15	後期演奏会

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	神谷 百子	授業コード	IE2885E0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学部生対象の「打楽器アンサンブル」の授業に出席し、授業担当教員による授業を補佐する中で、授業を計画する上で必要な準備、指導法を学ぶ。またそれらを通して、合奏授業を指導する上で必要な、楽曲の表現解釈、楽器の演奏技法、打楽器の求められる表現法などを学ぶ。また、年間複数回実際に授業内での指導にあたり、将来の教員、指導者などのキャリアに活かすことの出来る実践経験を積む。

2. 授業概要

音楽学部の「打楽器アンサンブル」授業に出席し、授業で取り上げる演奏曲の指導方法を研究し、担当教員の補佐をする。また、授業開催に必要な事前準備の補佐をすることにより授業開催に必要なプロセスを学ぶだけでなく、年間で複数回実際に授業内での指導を体験し、その指導法に対する授業担当教員のアドバイスを受ける。後期には「打楽器アンサンブル」の授業の成果発表演奏会に向けての指導の補佐、また、演奏会を開催する上で必要な準備、当日の進行などについても担当教員をサポートしながら体験、学習する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる楽曲については、事前研究しておくこと。見学した授業での担当教員の指導法、履修学生のそれに対する対応や反応など気がついたことを授業後に自分であらためて確認することが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する事前準備や指導方法の工夫など、授業に取り組む姿勢、実践指導のレベル、また年度末に小作文(またはレポート)を提出、その全て考慮して判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各授業ごとに担当教員の指示を得て、使用楽譜を確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	授業ガイダンス。 「打楽器アンサンブル」前期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の配布を行う。
2	「打楽器アンサンブル」履修学生が楽曲の全体合奏に臨む前の各パートを研究する それぞれのパートの難易度の高い部分を確認し、履修学生に対してその箇所がなぜ難しいかを説明し、練習方法を示唆する。
3	前回の授業で確認した各パートを、履修学生が消化し、その結果演奏に成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
4	2,3を経て、各箇所を取り上げて、合奏してみる。個人パートを1人で練習することから、複数人数が加わって同じ箇所を演奏することで発生する課題を見つけ、それに対する効果的な解決策、複数人数での練習方法を検証する。
5	2,3,4を経て、授業履修学生の成長した点、より発展が望まれる点を確認し、それをふまえて授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。
6	取り上げている楽曲の全体合奏に臨む。複数の受講学生による合奏の中で起こり得る演奏レベル差、準備レベル差などによる問題に対する解決策を考える。
7	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
8	授業担当教員同席のもと、1人で合奏指導を行う。 授業終了後に指導教員と今日行った指導のプラス点、マイナス点について考え、今後より良い指導の方法を見つけていくヒントとする。
9	担当教員による授業、アンサンブル指導をサポートする中で、前週に自分が行った指導方法との違いを考察する。自分の行った指導に於いて改善出来る点を見つけ、今後の参考とする。
10	担当教員の行う指導をアシストする。 履修学生によるアンサンブル演奏（合奏）を仕上げに導いていく上で、注意すべき点を考える。演奏面だけではなく、楽器セッティングについてもスムーズなセッティング方法など確認する。
11	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
12	打楽器アンサンブルレパートリーについての担当教員による講義。合奏を指導する上で、演奏面だけではなく知識を広げる。
13	世界のプロフェッショナル打楽器アンサンブルについての担当教員による講義。指導する上で必要な演奏面以外の知識を広げる。
14	前期授業発表会に向けて、履修学生の合奏の仕上げをチェックする。楽曲の大きな流れを確認した後、細部の合奏バランスなどが良い状態であるかを確認し、合奏の完成度を高める。
15	前期で取り上げた楽曲の発表会のサポートと前期授業の統括。

授業計画	
	[後期]
1	授業ガイダンス。 「打楽器アンサンブル」後期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の授業履修学生への配布を行う。
2	前期授業で学んだことを確認しながら履修学生のサポート指導を行う。学生個々のレベルに応じた効果的な指導方法を研究する。
3	後期学部生打楽器アンサンブル授業成果発表演奏会で取り上げる楽曲を、指導教員のもと学習する。学生に指導を行う前に準備しておくべき楽曲のアナリゼ、曲の中で想定されるアンサンブル難易度の高いところなどを確認し、楽曲への理解を深める。
4	打楽器アンサンブル後期授業成果発表会に向けての指導補佐を行う。
5	前回とは異なる楽曲の指導補佐を行う。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。その際、前期で学習したことをふまえ、個々の学生が直面している問題点が何かを確認し、以降の指導補佐の参考にする。
6	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 合奏時には全体のアンサンブルバランスをチェックをするなど、演奏の完成度を高めるためにはどういったことに注意・指導すべきかを確認する。また、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
7	授業担当教員同席のもと、1人でアンサンブルの指導を行う。ここまでで学んだことをふまえ、前期授業での指導体験よりもクオリティの高い指導を目指す。
8	授業担当教員同席のもと、実際にアンサンブルの指導を行う。
9	前回授業での指導体験を検証する。前期に行った指導体験よりも「良かった点」は何かを確認、また、より改善出来る点は何かを考え、今後の参考とする。
10	あらためて指導教員の行う指導の補佐を行う。前々回の授業で行った1人でのアンサンブル指導体験、それを自己で検証したことをふまえ、よりの確な指導と円滑な授業の進め方について考え、実践する。
11	アンサンブルの演奏の完成度を高めるために注目すべき、個々の演奏者が出す音の音色、全体のバランスに注目して指導補佐を行う。
12	授業成果発表会で取り上げる楽曲それぞれの仕上げを意識した指導補佐。より細かく、演奏上で改善すべき点が何かを考え、それをどう効果的に演奏者に伝えることが出来るか、実践し、その結果を確認する。
13	「打楽器アンサンブル」授業成果発表演奏会開催にあたり、演奏会当日の円滑なゲネプロ進行などについて、担当教員の指導の下、授業履修学部生が計画することの補佐を行う。合奏指導としても成果を表す目標となる「演奏会」を開催するにあたって、演奏指導以外にも必要な部分について学習する。
14	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
15	終日ゲネプロを含む「打楽器アンサンブル」演奏会、に立ちあい、担当教員の最終指導と演奏する学生をサポートする。その中で、実際の演奏会だけではなく、事前の仕込み、ゲネプロ、終演後の片づけなど、合奏演奏会を開催の一連の流れを学ぶ。後期授業の統括。

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2885G0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

2. 授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏会の企画や計画立案の内容、実施実績を総合的に判断し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、十分に配慮すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画

1	コンサート運営研究1 / ガイダンス
2	コンサート運営研究2 / GH関連イベントの事例研究
3	コンサート運営研究3 / 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究4 / 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究5 / 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究6 / 仮想自主リサイタル予算作成
7	コンサート運営研究7 / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	e-cafeコンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	e-cafeコンサート準備 / 直前広報展開
10	e-cafeコンサート準備 / タイムテーブル策定等
11	e-cafeコンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等
15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画

1	後期ガイダンス / 役割分担等決定
2	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
3	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
4	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
5	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等
6	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
7	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	邦楽ミュージカル準備 / 音響・照明打合せ
9	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
10	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
11	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等
15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	原 善伸	授業コード	IE2885H0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員	小林 徹						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

アンサンブルの指導的立場に立って演奏することができ、同時に指揮をして合奏指導ができるようになること。

2. 授業概要

ギター合奏授業の中心となって演奏し、講師指導により指揮を実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われている楽曲の譜読み、分析

4. 成績評価の方法及び基準

学部授業に対する貢献度と演奏会での評価

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布（バロック時代のJ.S. バッハ、A. ヴィヴァルディ。ロマン派のF. カルリ、F. ソル。近代のF. トローパの編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	<p>〔前期〕 ギターアンサンブルに必要な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。</p>
1	ガイダンス ギター重奏、合奏について
2	ギター重奏、合奏のための基礎練習
3	ギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	ギターアンサンブルによる バロック時代の楽曲紹介
5	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習
6	ギターアンサンブルによるイギリスバロック時代の楽曲練習
7	古典派時代のギターアンサンブル曲の紹介
8	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習1
9	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習指揮付き
10	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習
12	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 演奏会形式による発表練習
13	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	後期に向けた夏休み中の課題 演奏曲の配布

授業計画	
	〔後期〕 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス 後期のギターアンサンブルの課題と目標設定
2	ロマン派のギターアンサンブル曲の紹介
3	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. カルリの作品
4	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. ソルの作品
5	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 発表会形式による小発表会
6	近代のギターアンサンブル曲の紹介
7	近代のギターアンサンブル曲の練習
8	現代のギターアンサンブル曲の紹介
9	現代のギターアンサンブル曲の練習
10	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 ロマン派
12	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 現代曲
13	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	合奏指導法研究 1						
代表教員	石井 喜久子	授業コード	IE2885J0	科目コード	IE2885	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

近年学校教育では打楽器指導が非常に重要視され、また生涯学習でも注目されている。音楽を学習するうえで児童が最も親しみやすいものはリズムである。指導者が児童・生徒に音楽の楽しさ・面白さを伝えるため、様々な工夫をしなければならないのは当然のことであり、打楽器はそれに応えうる楽器と言える。打楽器は、(1) 他の楽器と比較し、奏法が容易である、(2) 発音に至る過程が視覚的に認知できるため、リズム・テンポの学習に適す、(3) 民族打楽器を含めその種類の多様性、豊富さから音色に無限の可能性を有する、などの特徴を持つ。本科目では、音楽の学習ツールとして打楽器を導入し、これからの音楽教育を考える。

2. 授業概要

- (1) 各種打楽器の奏法研究
- (2) リズムに対する技能的訓練
- (3) 打楽器アンサンブル（打楽器を含む編成のアンサンブル）を軸とした合奏法研究

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業で取り上げられる内容について、図書館などを利用して調べておくこと。実際に楽器を演奏することもあるので、奏法や楽譜は、必ず予習復習をすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）と平常点（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト 授業の中で紹介

スティックコントロール (George La Wrence Stone)
 ロックトラップ (Schinstine)
 ステップアンドクラブ (Nils Rohwer)
 Four Comments Latin Hand Instruments (Larry Snider)
 南アフリカの印象 ZULU WELCOME (Siegfried Fink)

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で参加すること。

授業計画	
	[前期]
1	オリエンテーション 打楽器の定義
2	打楽器の種類 音源による分類
3	打楽器の種類 素材による分類
4	打楽器の種類 奏法による分類
5	拍子リズムについて 拍子・リズムの基礎
6	拍子リズムについて 音符と休符
7	拍子リズムについて 様々なリズムの考察
8	拍子リズムについて ボディーパーカッションを用いて
9	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓 楽器のしくみと奏法
10	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓特殊奏法（ロールetc・・・）
11	代表的な打楽器の基本奏法 ティンパニ
12	代表的な打楽器の基本奏法 大太鼓
13	代表的な打楽器の基本奏法 シンバル
14	代表的な打楽器の基本奏法 小物打楽器
15	代表的な打楽器の基本奏法 擬音打楽器

授業計画	
	[後期]
1	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 膜質打楽器
2	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 鍵盤打楽器
3	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 擬音楽器
4	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 ボディーパーカッション
5	打楽器を中心とする教材開発 基本的なリズムを用いて
6	打楽器を中心とする教材開発 リコーダー・鍵盤ハーモニカとのアンサンブルや合奏
7	打楽器を中心とする教材開発 和太鼓
8	世界の打楽器 中南米
9	世界の打楽器 アフリカ
10	初等教育における打楽器指導
11	中等教育における打楽器指導
12	打楽器アンサンブル作品についてのディスカッション
13	研究発表会
14	振り返り
15	まとめ 生涯学習と打楽器

科目名	合奏指導法研究2 (前) [水2]						
代表教員	渡部 亨	授業コード	IE2886C0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

合奏指導に関わる研修を通じて、音楽能力、指導力を身につけ且つ実践的な指導法のノウハウを研究する。

2. 授業概要

学部開設合奏授業（オーケストラ・吹奏楽・アンサンブルなど）に参加（見学を含む）して授業内容をレポート提出する。（半期に1回担当教員へ）
外部プロ演奏団体はプログラムのコピー、中学高校吹奏楽、オーケストラ指導の場合は指導参加日時等と指導の教員の印鑑を必要とする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜・文献研究やCD・DVD等での資料収集と指導練習を必ず行う

4. 成績評価の方法及び基準

レポートを中心に指導内容による

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）やCD等の音源。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的な実践参加を望む。特に学部開設授業オーケストラ・吹奏楽・アンサンブル系（フルートオーケストラ・サクソオーケストラ・金管バンド・ファンファーレバンド）・洗足学園ニューフィルハーモニー・学外プロオーケストラ等。（中学・高校・大学等一般吹奏楽バンド指導やエキストラ出演も含む）

授業計画

	注：各自で研究内容をレポート提出するが演奏会プログラム等を添付すること。 座学は前期半期予定
1	合奏指導法ガイダンス（前期）
2	フルートオーケストラ（同族）岩花先生
3	ブリティッシュ・ブラス 福田先生
4	オーケストラ指導について 指揮法① 松元先生
5	吹奏楽指導について 指揮法②松元先生
6	吹奏楽研究 池上先生
7	管楽器編曲方法①概要 松下先生
8	オーケストラ研究 辻先生
9	サクソオーケストラ（同族）岩本先生
10	管楽器編曲法②楽器学と使用法 松下先生
11	管楽器編曲法③編曲実践（実際の編曲楽譜例） 松下先生
12	管楽器編曲法④編曲実践と演奏 松下先生
13	管楽器編曲法⑤実際に編曲した楽曲の演奏研究 松下先生
14	管楽器編曲法⑥ 編曲作品講評と修正 松下先生
15	合奏指導法研究まとめ 渡部先生

授業計画	
	[後期] 幅広い指導活動を体験しレポートにて報告する。後期は座学は無い
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	IE2886D0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	S1	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとおり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

2. 授業概要

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上りも学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい
演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。
応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	〔前期〕古澤巖先生から学ぶ マリーノのコンチェルト サンサースン死の舞踏 シチリアーナ、リンピダ モーツァルト作品 他
1	ガイダンス（前期授業説明） 前期課題曲の作曲家について学ぶ
2	マリーノのコンチェルト 譜読み
3	マリーノのコンチェルト パート分奏
4	マリーノのコンチェルト 全体合奏
5	サンサースン死の舞踏とシチリアーナの譜読み
6	サンサースン死の舞踏とシチリアーナ パート分奏
7	サンサースン死の舞踏とシチリアーナ 全体合奏
8	モーツァルト作品の譜読み
9	モーツァルト作品 パート分奏
10	モーツァルト作品 全体合奏
11	前期課題曲前半の通し練習
12	前期課題曲後半の通し練習
13	前期課題曲全体の通し練習
14	前期演奏会リハーサル最終確認
15	前期演奏会

授業計画	
	<p>[後期] フェデリコ アゴスティーニ先生から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイドンのヴァイオリン協奏曲ハ長調 ・シューベルト ・ラター組曲 ・ブリテン シンプルシンフォニー
1	ガイダンス（後期授業説明） 後期課題曲の作曲家について学ぶ
2	ハイドン協奏曲 譜読み
3	ハイドン協奏曲 パート分奏
4	ハイドン協奏曲 全体合奏
5	シューベルト 譜読み
6	シューベルト パート分奏
7	シューベルト 全体合奏
8	ラター組曲 譜読み
9	ブリテン 譜読み
10	ラター組曲とブリテン パート分奏
11	ラター組曲とブリテン 全体合奏
12	後期課題曲全体の通し練習
13	後期課題曲ハイドン、シューベルト 通し練習
14	後期課題曲ラター、ブリテン 通し練習
15	後期演奏会

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	神谷 百子	授業コード	IE2886E0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PI	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学部生対象の「打楽器アンサンブル」の授業に出席し、授業担当教員による授業を補佐する中で、授業を計画する上で必要な準備、指導法を学ぶ。またそれらを通して、合奏授業を指導する上で必要な、楽曲の表現解釈、楽器の演奏技法、打楽器の求められる表現法などを学ぶ。また、年間複数回実際に授業内での指導にあたり、将来の教員、指導者などのキャリアに活かすことの出来る実践経験を積む。

2. 授業概要

音楽学部の「打楽器アンサンブル」授業に出席し、授業で取り上げる演奏曲の指導方法を研究し、担当教員の補佐をする。また、授業開催に必要な事前準備の補佐をすることにより授業開催に必要なプロセスを学ぶだけでなく、年間で複数回実際に授業内での指導を体験し、その指導法に対する授業担当教員のアドバイスを受ける。後期には「打楽器アンサンブル」の授業の成果発表演奏会に向けての指導の補佐、また、演奏会を開催する上で必要な準備、当日の進行などについても担当教員をサポートしながら体験、学習する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる楽曲については、事前研究しておくこと。見学した授業での担当教員の指導法、履修学生のそれに対する対応や反応など気がついたことを授業後に自分であらためて確認することが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

授業に対する事前準備や指導方法の工夫など、授業に取り組む姿勢、実践指導のレベル、また年度末に小作文(またはレポート)を提出、その全て考慮して判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各授業ごとに担当教員の指示を得て、使用楽譜を確認する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	授業ガイダンス。 「打楽器アンサンブル」前期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の配布を行う。
2	「打楽器アンサンブル」履修学生が楽曲の全体合奏に臨む前の各パートを研究する それぞれのパートの難易度の高い部分を確認し、履修学生に対してその箇所がなぜ難しいかを説明し、練習方法を示唆する。
3	前回の授業で確認した各パートを、履修学生が消化し、その結果演奏に成長が見られたかどうかを確認。また、成長が見られなかった場合はその理由を考える。
4	2,3を経て、各箇所を取り上げて、合奏してみる。個人パートを1人で練習することから、複数人数が加わって同じ箇所を演奏することで発生する課題を見つけ、それに対する効果的な解決策、複数人数での練習方法を検証する。
5	2,3,4を経て、授業履修学生の成長した点、より発展が望まれる点を確認し、それをふまえて授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。
6	取り上げている楽曲の全体合奏に臨む。複数の受講学生による合奏の中で起こり得る演奏レベル差、準備レベル差などによる問題に対する解決策を考える。
7	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 担当教員が個人指導をしている時に全体のアンサンブルバランスなどのチェックをするなど、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
8	授業担当教員同席のもと、1人で合奏指導を行う。 授業終了後に指導教員と今日行った指導のプラス点、マイナス点について考え、今後より良い指導の方法を見つけていくヒントとする。
9	担当教員による授業、アンサンブル指導をサポートする中で、前週に自分が行った指導方法との違いを考察する。自分の行った指導に於いて改善出来る点を見つけ、今後の参考とする。
10	担当教員の行う指導をアシストする。 履修学生によるアンサンブル演奏（合奏）を仕上げに導いていく上で、注意すべき点を考える。演奏面だけではなく、楽器セッティングについてもスムーズなセッティング方法など確認する。
11	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
12	打楽器アンサンブルレパートリーについての担当教員による講義。合奏を指導する上で、演奏面だけではなく知識を広げる。
13	世界のプロフェッショナル打楽器アンサンブルについての担当教員による講義。指導する上で必要な演奏面以外の知識を広げる。
14	前期授業発表会に向けて、履修学生の合奏の仕上げをチェックする。楽曲の大きな流れを確認した後、細部の合奏バランスなどが良い状態であるかを確認し、合奏の完成度を高める。
15	前期で取り上げた楽曲の発表会のサポートと前期授業の統括。

授業計画	
	[後期]
1	授業ガイダンス。 「打楽器アンサンブル」後期授業のおおまかな計画と、授業の進め方の履修学生への説明。また、使用楽譜の授業履修学生への配布を行う。
2	前期授業で学んだことを確認しながら履修学生のサポート指導を行う。学生個々のレベルに応じた効果的な指導方法を研究する。
3	後期学部生打楽器アンサンブル授業成果発表演奏会で取り上げる楽曲を、指導教員のもと学習する。学生に指導を行う前に準備しておくべき楽曲のアナリゼ、曲の中で想定されるアンサンブル難易度の高いところなどを確認し、楽曲への理解を深める。
4	打楽器アンサンブル後期授業成果発表会に向けての指導補佐を行う。
5	前回とは異なる楽曲の指導補佐を行う。担当教員のアンサンブル指導の中、他のアンサンブルメンバーよりも演奏がやりにくそうな学生のサポートを行う。その際、前期で学習したことをふまえ、個々の学生が直面している問題点が何かを確認し、以降の指導補佐の参考にする。
6	授業内で担当教員の行う指導をアシストする。 合奏時には全体のアンサンブルバランスをチェックをするなど、演奏の完成度を高めるためにはどういったことに注意・指導すべきかを確認する。また、授業を効率的且つ円滑に進める方法を考える。
7	授業担当教員同席のもと、1人でアンサンブルの指導を行う。ここまでで学んだことをふまえ、前期授業での指導体験よりもクオリティの高い指導を目指す。
8	授業担当教員同席のもと、実際にアンサンブルの指導を行う。
9	前回授業での指導体験を検証する。前期に行った指導体験よりも「良かった点」は何かを確認、また、より改善出来る点は何かを考え、今後の参考とする。
10	あらためて指導教員の行う指導の補佐を行う。前々回の授業で行った1人でのアンサンブル指導体験、それを自己で検証したことをふまえ、よりの確かな指導と円滑な授業の進め方について考え、実践する。
11	アンサンブルの演奏の完成度を高めるために注目すべき、個々の演奏者が出す音の音色、全体のバランスに注目して指導補佐を行う。
12	授業成果発表会で取り上げる楽曲それぞれの仕上げを意識した指導補佐。より細かく、演奏上で改善すべき点が何かを考え、それをどう効果的に演奏者に伝えることが出来るか、実践し、その結果を確認する。
13	「打楽器アンサンブル」授業成果発表演奏会開催にあたり、演奏会当日の円滑なゲネプロ進行などについて、担当教員の指導の下、授業履修学部生が計画することの補佐を行う。合奏指導としても成果を表す目標となる「演奏会」を開催するにあたって、演奏指導以外にも必要な部分について学習する。
14	履修学生アンサンブルの現時点での完成を確認。 授業担当教員とここに至るまでの指導法について検証、確認を行う。
15	終日ゲネプロを含む「打楽器アンサンブル」演奏会、に立ちあい、担当教員の最終指導と演奏する学生をサポートする。その中で、実際の演奏会だけではなく、事前の仕込み、ゲネプロ、終演後の片づけなど、合奏演奏会を開催の一連の流れを学ぶ。後期授業の統括。

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	IE2886G0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	WA	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学では多くのコンサートがあり、GHコースの講師や学生のみならず、他コースの学生や外部の奏者との共演の機会もある。自らが優れた演奏をするだけでなく、コンサート本番にむけての全体準備やスケジュール計画の作成、パート練習や合奏練習における後輩への助言、指導等、院生としてリーダーの役割も果たさなければならない。演奏家として将来、指導的立場になることを目指し、実践の場でリーダーとしての研鑽を積む。

2. 授業概要

学内外の演奏会およびそのための準備や練習を演習の機会とする。また、担当責任者としてコンサートの企画立案も行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

レジュメ、チラシ、プログラム作成やスケジュール管理などを行う。

4. 成績評価の方法及び基準

演奏会の企画や計画立案の内容、実施実績を総合的に判断し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

過去のコンサートの資料（チラシ、プログラム、レジュメなど）
楽譜等の管理については、著作物としての認識を強く持ち、十分に配慮すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画

1	コンサート運営研究1 / ガイダンス
2	コンサート運営研究2 / GH関連イベントの事例研究
3	コンサート運営研究3 / 本学各種イベントの事例研究
4	コンサート運営研究4 / 学部イベント等の事例研究
5	コンサート運営研究5 / 仮想自主リサイタル構想立案
6	コンサート運営研究6 / 仮想自主リサイタル予算作成
7	コンサート運営研究7 / 仮想自主リサイタル企画案完成
8	e-cafeコンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
9	e-cafeコンサート準備 / 直前広報展開
10	e-cafeコンサート準備 / タイムテーブル作成等
11	e-cafeコンサート準備 / 最終チェック
12	「和のいろは」コンサート準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	「和のいろは」コンサート準備 / 直前広報展開
14	「和のいろは」コンサート準備 / タイムテーブル作成等
15	「和のいろは」コンサート準備 / 最終チェック

授業計画	
1	後期ガイダンス / 役割分担策定等
2	冬の音楽祭準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
3	冬の音楽祭準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
4	冬の音楽祭準備 / 直前広報展開
5	冬の音楽祭準備 / タイムテーブル作成等
6	冬の音楽祭準備 / 最終チェック
7	邦楽ミュージカル準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
8	邦楽ミュージカル準備 / 音楽祭全体とのすり合わせ
9	邦楽ミュージカル準備 / 直前広報展開
10	邦楽ミュージカル準備 / タイムテーブル作成等
11	邦楽ミュージカル準備 / 最終チェック
12	定期演奏会準備 / 曲目・演奏者等の情報確定
13	定期演奏会準備 / 直前広報展開
14	定期演奏会準備 / タイムテーブル作成等
15	定期演奏会準備 / 最終チェック

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	原 善伸	授業コード	IE2886H0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員	小林 徹						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

アンサンブルの指導的立場に立って演奏することができ、同時に指揮をして合奏指導ができるようになること。

2. 授業概要

ギター合奏授業の中心となって演奏し、講師指導により指揮を実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行われている楽曲の譜読み、分析

4. 成績評価の方法及び基準

学部授業に対する貢献度と演奏会での評価

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布（バロック時代のJ.S. バッハ、A. ヴィヴァルディ。ロマン派のF. カルリ、F. ソル。近代のF. トローパの編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	<p>〔前期〕 ギターアンサンブルに必要な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。</p>
1	ガイダンス ギター重奏、合奏について
2	ギター重奏、合奏のための基礎練習
3	ギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	ギターアンサンブルによる バロック時代の楽曲紹介
5	ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習
6	ギターアンサンブルによるイギリスバロック時代の楽曲練習
7	古典派時代のギターアンサンブル曲の紹介
8	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習1
9	古典派時代のギターアンサンブル曲の練習指揮付き
10	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習
12	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 演奏会形式による発表練習
13	前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	後期に向けた夏休み中の課題 演奏曲の配布

授業計画	
	〔後期〕 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	ガイダンス 後期のギターアンサンブルの課題と目標設定
2	ロマン派のギターアンサンブル曲の紹介
3	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. カルリの作品
4	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. ソルの作品
5	ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 発表会形式による小発表会
6	近代のギターアンサンブル曲の紹介
7	近代のギターアンサンブル曲の練習
8	現代のギターアンサンブル曲の紹介
9	現代のギターアンサンブル曲の練習
10	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定
11	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 ロマン派
12	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 現代曲
13	後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル
14	前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	合奏指導法研究 2						
代表教員	石井 喜久子	授業コード	IE2886J0	科目コード	IE2886	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

近年学校教育では打楽器指導が非常に重要視され、また生涯学習でも注目されている。音楽を学習するうえで児童が最も親しみやすいものはリズムである。指導者が児童・生徒に音楽の楽しさ・面白さを伝えるため、様々な工夫をしなければならないのは当然のことであり、打楽器はそれに応えうる楽器と言える。打楽器は、(1) 他の楽器と比較し、奏法が容易である、(2) 発音に至る過程が視覚的に認知できるため、リズム・テンポの学習に適す、(3) 民族打楽器を含めその種類の多様性、豊富さから音色に無限の可能性を有する、などの特徴を持つ。本科目では、音楽の学習ツールとして打楽器を導入し、これからの音楽教育を考える。

2. 授業概要

- (1) 各種打楽器の奏法研究
- (2) リズムに対する技能的訓練
- (3) 打楽器アンサンブル（打楽器を含む編成のアンサンブル）を軸とした合奏法研究

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業で取り上げられる内容について、図書館などを利用して調べておくこと。実際に楽器を演奏することもあるので、奏法や楽譜は、必ず予習復習をすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）と平常点（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト 授業の中で紹介

スティックコントロール (George La Wrence Stone)
 ロックトラップ (Schinstine)
 ステップアンドクラブ (Nils Rohwer)
 Four Comments Latin Hand Instruments (Larry Snider)
 南アフリカの印象 ZULU WELCOME (Siegfried Fink)

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で参加すること。

授業計画	
	[前期]
1	オリエンテーション 打楽器の定義
2	打楽器の種類 音源による分類
3	打楽器の種類 素材による分類
4	打楽器の種類 奏法による分類
5	拍子リズムについて 拍子・リズムの基礎
6	拍子リズムについて 音符と休符
7	拍子リズムについて 様々なリズムの考察
8	拍子リズムについて ボディーパーカッションを用いて
9	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓 楽器のしくみと奏法
10	代表的な打楽器の基本奏法 小太鼓特殊奏法（ロールetc・・・）
11	代表的な打楽器の基本奏法 ティンパニ
12	代表的な打楽器の基本奏法 大太鼓
13	代表的な打楽器の基本奏法 シンバル
14	代表的な打楽器の基本奏法 小物打楽器
15	代表的な打楽器の基本奏法 擬音打楽器

授業計画	
	[後期]
1	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 膜質打楽器
2	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 鍵盤打楽器
3	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 擬音楽器
4	シンプルなアンサンブル作品の考察と実践 ボディーパーカッション
5	打楽器を中心とする教材開発 基本的なリズムを用いて
6	打楽器を中心とする教材開発 リコーダー・鍵盤ハーモニカとのアンサンブルや合奏
7	打楽器を中心とする教材開発 和太鼓
8	世界の打楽器 中南米
9	世界の打楽器 アフリカ
10	初等教育における打楽器指導
11	中等教育における打楽器指導
12	打楽器アンサンブル作品についてのディスカッション
13	研究発表会
14	振り返り
15	まとめ 生涯学習と打楽器

科目名	オルガン研究 [水2]						
代表教員	萩野 由美子	授業コード	IE289000	科目コード	IE2890	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

同じ鍵盤楽器のグループの中であって、ピアノは弦をハンマーで打つ言わば打楽器、チェンバロは弦をはじく撥弦楽器、そしてオルガンは唯一笛を鳴らす管楽器です。同じく鍵盤を指で操る楽器でありながら、その発音原理は異種なもので、当然タッチや奏法も大きく異なります。オルガンの音の特徴は「減衰しない」ということ。そのため1つ1つの音の行方を意識し、いかに音を終わらせるかが鍵になります。オルガンに触れることにより、指先の感覚の大切さを再認識することができるでしょう。本講座では、オルガンに触れ、ピアノとは違う鍵盤へのアプローチを経験することによって、ピアノのタッチを見直すことを目標とします。オルガンは、なかなか演奏することができない楽器。是非学生時代に、オルガンと出会って下さい。

2. 授業概要

まずは「管楽器の集合体」「指で笛を鳴らす」楽器、オルガンを目と耳と手と足、全身で体感する。そして、J.S. バッハをはじめバロック時代の作曲家の楽曲を題材に、タッチやアーティキュレーションを学ぶ。また、C. フランクなどのロマン派の作曲家の楽曲を題材に、ダンパーペダルに頼らないレガート奏法を体験する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（練習での目標到達度合い、及びレポート）（評価の50%）
授業時の演習姿勢と内容（（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

課題の楽譜や資料は、授業内で配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・出席率が2分の1以下の場合、単位取得資格を失います。
- ・基本的に演習形式の授業のため、各自練習して授業に臨むこと。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎1 (タッチ)
3	奏法の基礎2 (レジストレーション)
4	奏法の基礎3 (アーティキレーション)
5	奏法の基礎4 (レガート奏法)
6	バロック時代の楽曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
7	バロック時代の楽曲(2)形式、和声を中心に
8	バロック時代の楽曲(3)奏法を中心に
9	バロック時代の楽曲(4)表現法、レジストレーションを中心に
10	バロック時代の楽曲(5)仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(1)足鍵盤の奏法
12	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(2)形式、和声を中心に
13	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(3)奏法を中心に
14	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(4)表現法、レジストレーションを中心に
15	足鍵盤付きバロック時代の楽曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	[後期]
1	J. S. バッハの楽曲(1)時代背景、様式を中心に
2	J. S. バッハの楽曲(2)形式、和声を中心に
3	J. S. バッハの楽曲(3)奏法を中心に
4	J. S. バッハの楽曲(4)表現法、レジストレーションを中心に
5	J. S. バッハの楽曲(5)表現の掘り下げ
6	J. S. バッハの楽曲(6)仕上げとまとめ
7	ロマン派の楽曲(1)時代背景、様式を中心に
8	ロマン派の楽曲(2)形式、和声を中心に
9	ロマン派の楽曲(3)奏法を中心に
10	ロマン派の楽曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
11	ロマン派の楽曲(5)仕上げとまとめ
12	課題曲を学ぶ(1)形式、和声、奏法を中心に
13	課題曲を学ぶ(2)レジストレーション、表現法を中心に
14	課題曲を学ぶ(3)表現の掘り下げ
15	演奏会形式での発表、まとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	作品研究法 [月4]Aクラス						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE3070A0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全 (MT・MU除く)	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学の大学院生は2年次に副論文執筆が義務づけられています。当講座では音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、具体的な論文の執筆に必要な知識や技術を身に付け、副論文の執筆に備えます。

2. 授業概要

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術や方法を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）、大学院研究・修了演奏会の曲目解説の指導も行います。なお、後期の講義で取り上げる研究論文や音楽作品は変更する場合があります。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習、復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、これを通して学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	〔前期〕 論文執筆の基礎的な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示：小論文
2	音楽学について～音楽学とは何か、音楽学の歴史
3	音楽学について～音楽学の歴史的分野
4	音楽学について～非歴史的分野、音楽社会学、音楽心理学、民族音楽学、楽器学など
5	小論文の返却・添削など
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方
7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録（WV）の読み方～バッハ、ヘンデル
10	欧文の作品目録（WV）の読み方～シューマン、ブラームスなど
11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～例）沼野雄司1999「C. ドビュッシーの《海》研究序説～第1曲を中心に」東京音楽大学研究紀要
13	学術論文を読む～例）大崎滋生2008「ベートーヴェン伝説は今後どこまで維持できるか？～《シンフォニア・エロイカ》の成立伝説を例にして」桐朋学園大学研究紀要34
14	学術論文を読む～例）松田聡2016「モーツァルトと《セビーリヤの理髪師》 《やさしい春はもうにこやかに笑いかける》に関する一考察」大分大学研究紀要
15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示

授業計画	
	[後期] 各自研究テーマを決め、論文を執筆します。
1	夏休みの課題の添削
2	後期課題について、研究テーマの選択
3	論文執筆のプロセス、課題の提示
4	2年生の中間発表を聴講
5	資料集めと文献表の作成、課題の提示
6	音楽作品の曲目解説の書き方（大学院演奏会のプログラムノート執筆の指導）
7	資料の分類と整理法、論文構成法について
8	引用・注釈、情報源の示し方
9	音楽学関連の講義 バッハ《ロ短調ミサ曲》～概説
10	音楽学関連の講義、バッハ《ロ短調ミサ曲》各曲の詳細
11	音楽学関連の講義 バッハ《ロ短調ミサ曲》各曲の詳細、第2部以後
12	音楽学関連の講義：言葉と音楽の関係～韻律論（ドイツ詩）
13	音楽学関連講義：言葉と音楽～フランス語その他の言語
14	後期課題の個人指導
15	後期課題の個人指導、当講座のまとめ

科目名	作品研究法 [金2]Bクラス						
代表教員	那須田 務	授業コード	IE3070B0	科目コード	IE3070	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全 (MT・MU除く)	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

本学の大学院生は2年次に副論文の提出が義務づけられています。当講座では音楽学の専門的な論文を含む文章の読解力や文章力を養うと同時に、論文の執筆に必要な知識や技術を身に付け、副論文の執筆に備えます。

2. 授業概要

音楽学研究や論文執筆の基礎的な技術を学びます。具体的には以下の通りです。音楽学の学問分野についての概説、レファレンス資料の紹介と欧文の文献（作品目録など）の読み方、文献資料の客観的で批判的な扱い方、学術論文の精読、論文執筆の方法論（構成、書式、引用や注釈、研究方法など）、大学院研究・修了演奏会の曲目解説の指導も行います。また、後期には実際に論文を執筆してもらいます。なお、後期の講義で取り上げる研究論文や音楽作品は変更する場合があります。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

当講座では論文執筆の基礎的な能力を養うために様々な課題（予習復習）を設けています。授業時間外での作業も必要になりますが、こうして学んだ事柄は、実際の執筆に役立つことでしょう。具体的な課題はその都度提示します。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点50%と課題の提出物50%の平均点で評価します。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業の際に指示します。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論（和声・対位法・楽曲分析）や音楽史などの基礎的な知識を持つ者。1年次に履修してください。

授業計画	
	〔前期〕論文執筆の基礎得 t 機な知識や技術を学びます。
1	はじめに。課題の提示（小論文）
2	音楽学について～音楽学とは何か、音楽学の歴史
3	音楽学について～音楽学の歴史的分野
4	音楽学について～非歴史的分野、音楽社会学、音楽心理学、民族音楽学、楽器学など
5	課題の添削（小論文）
6	レファレンス資料の紹介、文献資料の探し方
7	RISM・RILM講座
8	文献表の作成、課題の提示
9	欧文の作品目録（WV）の読み方～バッハ、ヘンデル
10	欧文の作品目録の読み方～シューマン、ブラームスなど
11	歴史的研究の方法論、課題の提示
12	学術論文を読む～例）沼野雄司1999「C. ドビュッシーの《海》研究序説～第1曲を中心に」東京音楽大学研究紀要
13	学術論文を読む～大崎滋生2008「ベートーヴェン伝説は今後どこまで維持できるか？～《シンフォニア・エロイカ》の成立伝説を例にして」桐朋学園大学研究紀要34
14	学術論文を読む～例）松田聡2016「モーツァルトと《セヴィリアの理髪師》《やさしい春はもうにこやかに笑いかける》に関する一考察」大分大学研究紀要
15	前期のまとめ、夏休みの課題の提示

授業計画	
	[後期] 各自の演習と発表を中心に授業を進めます。
1	夏休みの課題の添削
2	後期課題について、研究テーマの選択
3	論文執筆のプロセス、課題の提示
4	2年生の副論文中間発表を聴講
5	資料集めと文献表の作成
6	音楽作品の曲目解説の書き方（大学院演奏会のプログラムノート執筆の指導）
7	情報の分類と整理法、論文構成法について
8	引用・注釈、情報源の示し方
9	音楽学関連の講義、バッハ《ロ短調ミサ曲》～概説
10	音楽学関連の講義 バッハ《ロ短調ミサ曲》各曲の詳細、第1部
11	音楽学関連の講義 バッハ《ロ短調ミサ曲》各曲の詳細第2部以後
12	音楽学関連の講義 言葉と音楽の関係～韻律論（ドイツ詩）
13	音楽学関連講義 言葉と音楽の関係～フランス語その他の言語の詩
14	後期課題の個人指導
15	後期課題の個人指導、当講座のまとめ

科目名	楽曲分析法 [火1]Aクラス						
代表教員	青島 広志	授業コード	IE3080A0	科目コード	IE3080	期間	通年
担当教員	山田 武彦						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全 (00除く)	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

様式、歴史的背景、楽式、曲の構成要素を正しく捉えた上で楽曲分析が行えるようになる。音楽で使用される用語を用いて楽曲について概説できるようになる。

2. 授業概要

楽曲分析の方法、楽式、楽曲の読み捉え方などを解説し、それらについて各自が演習を行う（①読む・聞きとる事と②書く・作る事を行う）。古今の名曲に触れる、また未知・既知の別を問わず楽曲の分析を行っていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う楽曲をスコアと照らし合わせながら聞く事。また授業内での演習や課題を実施のこと。
※なお当科目の授業内容について「作品研究法」（担当：那須田務先生）授業との連携により楽曲分析考察結果の文章化等で指導を受けることができる。大いに活用されたい。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加意欲など）、レポート（2回）の各々50%ずつ

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜は各自用意する事。また五線紙持参の事。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業進行の課程で講義内容の順序の入れ替えや変更が起こることがある。

授業計画	
	〔前期〕 同一の作品について数回の授業でとりあげる場合、授業の進行状況によって各回の内容が変化する場合がある。
1	楽曲分析、楽式、曲の構成要素などの概説
2	一部形式、二部形式、三部形式の構造と演習
3	変奏曲の構造と演習
4	モーツァルト ピアノソナタKV300i (331) 第1楽章
5	シューベルト 野ばら、鱒、菩提樹、魔王（その1） 前半 考察の曲順についてはその都度決定する
6	シューベルト 野ばら、鱒、菩提樹、魔王（その2） 後半
7	モーツァルト フィガロの結婚（その1） 総論、序曲
8	ソナタ形式の構造と演習
9	モーツァルト フィガロの結婚（その2） 重唱とアリア
10	ベートーヴェン ピアノソナタOp. 13<悲愴>
11	モーツァルト フィガロの結婚（その3） レチタティーヴォ
12	ベートーヴェン 交響曲第5番<運命>（その1） 形式と転調過程
13	ベートーヴェン 交響曲第5番<運命>（その2） 動機の敷衍、管弦楽法など
14	ロンドの構造と演習
15	モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク第4楽章

授業計画	
	〔後期〕11回～14回の演習についてはその都度初見で楽譜を見ての考察となるため曲目は明記しない。これまで学習した各形式の作品について様々な時代、様式の作品から取り上げるものとする。（例として、バッハ：フランス組曲、モーツァルト：ヴァイオリンソナタ、ブラームス：変奏曲、など）
1	ベルリオーズ 幻想交響曲 第1楽章（その1）前半
2	ベルリオーズ 幻想交響曲 第1楽章（その2）後半
3	バルトーク ミクロコスモスより
4	カノン・フーガの構造と演習
5	バッハ「インヴェンション」「平均律1巻」より
6	スメタナ「わが祖国」よりモルダウ
7	ハイドン ネルソン・ミサ（その1）前半
8	ハイドン ネルソン・ミサ（その2）後半
9	ムソルグスキー 展覧会の絵（その1）前半
10	ムソルグスキー 展覧会の絵（その2）後半
11	楽曲分析の演習1 基本
12	楽曲分析の演習2 応用
13	楽曲分析の演習3 発展
14	楽曲分析の演習4 確認
15	総括

科目名	楽曲分析法 [水3]Bクラス						
代表教員	久行 敏彦	授業コード	IE3080B0	科目コード	IE3080	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全 (MT・CO除く)	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

説得力のある演奏を行うためには入念な演奏プランニングが必須である。そのためには作曲家の意図をしっかりと把握する必要があり、楽曲分析が極めて有効な手段となる。この講座では様々な時代の様々な編成・形式による作品を取り上げ、適切な分析をできるノウハウを会得することを目標とする。

2. 授業概要

スコアを読みながら音源を聴き、旋律・和声・形式・楽器法・管弦楽法などあらゆる角度からの分析を試みる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

入手可能なスコアについては事前に用意し、一度は曲全体を視聴しておくこと。可能であれば複数の演奏家による演奏を視聴しておくのが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、提出物等による平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

基本的に授業で扱う曲の楽譜は各自用意すること。入手困難なものについてはこちらで用意する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年次に履修することが望ましい。

授業計画	
	[前期]
1	器楽曲の分析に求められるもの ～チャイコフスキー「四季」より「炉端にて」を題材にして～
2	声楽作品の分析に求められるもの ～シューマン「女の愛と生涯」を題材にして～
3	旋律の分析について ハイドン 交響曲101番「時計」より モーツァルト 「クラリネット協奏曲」より ショパン 練習曲 op10-3 より
4	和声分析について ベートーヴェン ピアノソナタ op14-2 第2楽章より メンデルスゾーン 「Lieder ohne Worte」より
5	形式分析について 三部形式・ロンド形式で表現できること ブラームス「インテルメッツォ」op117より ブラームス「ヴァイオリンソナタ2番」より
6	形式分析について ソナタ形式とは ～19世紀以前のソナタ形式～ C.F.E. バッハ「チェンバロのためのソナタ」より モーツァルト「ピアノソナタ」k.331より
7	形式分析について ソナタ形式とは ～19世紀以降のソナタ形式～ ベートーヴェン「ヴァイオリンソナタ9番」より ブラームス「交響曲4番」より
8	形式分析について バール形式とは ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルバイデ「パレスチナリート」 ヴァーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より
9	形式分析について 定旋律（カントゥス・フィルムス）とは（1） ペロタン「ヴィデルント・オムネス」 デュファイ「ヌーペル・ロザヌム」
10	形式分析について 定旋律（カントゥス・フィルムス）とは（2） オケゲム「戦士のミサ」 ジョスカン「フェララ公エルコーレのミサ」
11	形式分析について イソリズムとは マショー「ノートルダム・ミサ」より メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より
12	形式分析について フーガとは（1） フレスコバルディ「フィオーリ・ムジカーリ」より スヴェーリンク「半音階的幻想曲」
13	形式分析について フーガとは（2） フィッシャー「アリアドネ・ムジカ」より J.S. バッハ「平均律クラヴィア集」より
14	形式分析について フーガとは（3） ベートーヴェン「交響曲第3番」より ベートーヴェン「ピアノソナタ29番」より
15	形式分析について フーガとは（4） ブラームス「チェロソナタ1番」より バルトーク「弦楽器、打楽器、チェレスタのための音楽」より

授業計画	
	[後期]
1	楽曲分析総合演習(1) モーツァルト「ピアノソナタk576」
2	楽曲分析総合演習(2) ベートーヴェン「弦楽四重奏曲」op56-1
3	楽曲分析総合演習(3) パガニーニ「カプリス」より パガニーニ「ヴァイオリン協奏曲1番」より
4	楽曲分析総合演習(4) ヴェーバー「魔弾の射手」より
5	楽曲分析総合演習(5) ロッシーニ「ウイリアム・テル」より
6	楽曲分析総合演習(6) シューベルト「冬の旅」
7	楽曲分析総合演習(7) ベルリオーズ「ファウストの郷罰」より
8	楽曲分析総合演習(8) シューマン「ピアノ四重奏曲」
9	楽曲分析総合演習(9) ショパン「チェロソナタ」
10	楽曲分析総合演習(10) ブラームス「ピアノトリオ1番」
11	楽曲分析総合演習(11)]フォーレ「レクイエム」より デュルフレ「レクイエム」より
12	楽曲分析総合演習(12) ドビュッシー 交響詩「海」より
13	楽曲分析総合演習(13) シェーンベルク「浄夜」 シェーンベルク「ピエロ・リュネール」
14	楽曲分析総合演習(14) ヴェーベルン「3つの歌曲」op.18より ベルク「ヴァイオリン協奏曲」より
15	楽曲分析総合演習(15) バルトーク「2台のピアノと打楽器のためのソナタ」

科目名	専門器楽実習 I (PF)						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	XIL1110A0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおいての取り組み成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。
3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。
7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブーレの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。
11	シチリア島起源のシチリアーナを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。
15	スペイン起源のポレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。

授業計画	
	<p>〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探究する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。
3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探究する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアノリズムを研究し、適切な音質と音色を探究し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャーピンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。
7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探究する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッチェのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探究し、モーツァルトの作品から研究実践する。
11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探究実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	専門器楽実習 I (OR)						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	XIL1110B0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

あらゆる場面で様々なオルガンを弾きこなせる知識と技術を身につけ、更にそれを実際の演奏に活かせるような音楽性を養うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

まずはより良いレッスンを受けられるようしっかりと準備をすること。またレッスンでの指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおける取り組み方、またその成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の進度や希望に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
	個人レッスンのため、各学生の技量や希望に応じて各担当教員が、時代背景や様式、和声分析などのアナリーゼをしながら演奏技術向上を身指し指導していく。
1	北ドイツ楽派の源流であるスウェーリンクのトッカータを、ヴァージナル楽派からの影響を探りながら、タッチや音色を研究する。
2	スウェーリンクの変奏曲を、各変奏のキャラクターを捕らえながらレジストレーション、装飾音符や奏法を探る。
3	イタリアバロックの巨匠フレスコバルディのトッカータから、多部分形式や幻想様式の源流を学び、様式感ある演奏を探求する。
4	フレスコバルディの「音楽の花束」の中から、カンツォーナやリチェルカーレなど対位法楽曲の基礎を研究する。
5	シャイデマンのコラール作品から、変奏技法を探りながらコラールの演奏方法を探求する。
6	北ドイツ楽派の巨匠ブクステフーデのプレリューディウムを実践しながら幻想様式を理解し、各部分の奏法やレジストレーションを研究する。
7	ブクステフーデのコラール作品から様々なコラール変奏法を知り、またコラールの歌詞の意味と修辞学の関連性を探りながら奏法を考えていく。
8	南ドイツにイタリアとフランス音楽のエッセンスを持ち込んだムファットのトッカータで、イタリアとフランス音楽の特性や相違点、奏法やレジストレーションを研究する。
9	フランス古典初期の楽曲から、特有の装飾法やアクセントなど、またレジストレーションを学びながら奏法を探る。
10	クーブランのミサから各楽曲のスタイルの特性を理解し、レジストレーションの実践をしながら表現方法を研究する。
11	グリニーのミサ曲から、様式感とエスプリを兼ね備えた演奏を目指して探求する。
12	J. S. バッハのオルガン作品からイタリアの影響を受けた前奏曲とフーガを学び、アーティキュレーションなどの工夫をしながら快活な表現方法を研究する。
13	J. S. バッハのオルガン作品から北ドイツ楽派の影響を受けた前奏曲とフーガを取り上げ、バッハに受容された音楽を感じながら様式感ある奏法を探求する。
14	J. S. バッハのオルガン作品からフランスの影響を受けた楽曲を学び、装飾法などを工夫しながら奏法を探る。
15	J. S. バッハのオルガン作品から、バッハ自身が編曲した協奏曲を取り上げ、原曲を研究しながらオルガンでの表現方法を研究する。

授業計画	
	前期に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）に向けての指導に比重を置きながら個人指導にあたる。
1	J. S. バッハのオルガン作品からトリオ・ソナタを通して、各声部を弾き分けながら1人で室内楽を奏でる奏法を実践する。
2	J. S. バッハのコラール作品を取り上げ、教会歴に添ったコラールの歌詞の意味と修辞学によるフィグーラの関連を学びながら、演奏法を探求する。
3	J. S. バッハのコラール作品から装飾コラールを取り上げ、装飾音符の入れ方や歌い方などを模索する。
4	J. S. バッハのコラール作品からコラールファンタジーやカノンのスタイルで書かれた楽曲を取り上げ、構造をよく理解した上でアーティキュレーションやレジストレーションを研究する。
5	J. S. バッハのコラール作品からバルティータを取り上げ、各変奏の各変奏のキャラクターを捕らえながら最適なレジストレーションと奏法を探求する。
6	メンデルスゾーンのソナタでレガート奏法を修得し、ロマン派の響きを引き出せるよう研究する。
7	リストのオルガン作品から、ピアニスティックな奏法をオルガンで美しくダイナミックに表現する技術を探求実践する。
8	レーガーのコラール作品から、重厚な和音やピアニスティックな音型の中からコラールを提示する奏法と、レジストレーションを考察する。
9	フランクのオルガン作品を通して、より美しいレガート奏法を修得し、フランスロマン派音楽を歌い方を研究する。またフランクが演奏していたオルガンを知った上で指示されたレジストレーションを理解し、再現を試みる。
10	ヴィドール、ヴィエルヌのオルガン・シンフォニーから、シンフォニックな響きを感じながらダイナミックな表現方法を探求する。
11	デュブレ、デュルフレのオルガン作品から、旋法的に書かれた和声や旋律を理解しながら、より美しい響きを追求する。
12	メシアンのオルガン作品で、作曲技法とレジストレーションを研究しながら、メシアンの世界観の表現方法を研究する。
13	近現代のオルガン作品で、変拍子やリズムカルな音型を生き生きと表現する方法を探る。
14	研究演奏会における楽曲の分析、レジストレーションと効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	専門音楽実習 I (WI)						
代表教員	渡部 亨	授業コード	XIL110C0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（1年次）、修士演奏会（2年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	専門器楽実習（ガイダンス）（1） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（2）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（3）練習曲の選定
4	専門器楽実習（4）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（5）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（6）バロック作品研究ヴィヴァルディ
7	専門器楽実習（7）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（8）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（9）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（10）古典作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（11）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（12）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（13）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（14）ロマン派作品研究ライネッケ
15	専門器楽実習（15）ロマン派作品研究ウェーバー

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（1） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（2） ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（3） 近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（4） 近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（5） 近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（6） 近代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（7） 近代作品研究ブーランク
8	専門器楽実習（8） 近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（9） 近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（10） 近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（11） 近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（12） 近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（13） 邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（14） 邦人作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（15） 研究演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習 I (SI)						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	XIL1110D0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	<p>専門器楽実習（1） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。</p>
2	<p>3度、6度、8度、10度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。</p>
3	<p>ヴィヴァルトのかけ方の種類の研究と実践。</p>
4	<p>ポーイングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタート等研究。</p>
5	<p>身体の使い方とバランスと音色について実践と研究。</p>
6	<p>ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。</p>
7	<p>バロック奏法研究。 テレマン12のファンタジー</p>
8	<p>バロック奏法研究。 バッハ無伴奏ソナタNo. 1</p>
9	<p>バロック奏法研究。 バッハ無伴奏パルティータNo. 3</p>
10	<p>バッハ奏法研究。 無伴奏ソナタNo. 1</p>
11	<p>バッハ奏法研究。 パルティータNo. 3</p>
12	<p>バッハ無伴奏奏法研究。 ソナタNo. 2</p>
13	<p>バッハ無伴奏研究。 右手テクニックの分析。</p>
14	<p>無伴奏バッハ奏法研究。 フィンガリングの分析。</p>
15	<p>無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。</p>

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）・修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	モーツァルト協奏曲No. 3の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No. 3ボーイングとフィンガリングの研究。
3	モーツァルト協奏曲No. 4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No. 4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No. 5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No. 5. ボーイングとフィンガリング研究。
7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo. 1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo. 1ボーイングとフィンガリング。
11	ベートーベンソナタNo. 3楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo. 3ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo. 5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo. 5 ボーイングとフィンガリング研究。
15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	専門器楽実習 I (GT)						
代表教員	原 善伸	授業コード	XIL1110D1	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

プロギタリストとしてステージに立ち、リサイタルを行うに足る実力をつけることを目標とする。

2. 授業概要

レッスン担当教員の個人レッスンをメインとし、年間数回の客員教授や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎日の基礎練習、現在研究中の楽曲演奏、各自レパートリーの維持

4. 成績評価の方法及び基準

専門家としての技量やレパートリーの完成度を勘案し、研究演奏会における演奏内容を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究対象となる楽曲の信頼の置ける出版譜及び原典版
演奏家としての技量を養うための各教本やエチュード

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの演奏家として世に出て行こうとする者。
またクラシックギターの教育者として高度な知識と指導法を身につけることを目指すもの。

授業計画	
1	ガイダンス
2	技術練習の方法と教材
3	エチュードの歴史的考察
4	クラシックギターの現代奏法の研究
5	ブジョールの技術教本の考察と実践
6	カルレバロの技術教本の考察と実践
7	パンピング・ナイロンの考察と実践
8	クラシックギターの必須レパートリー研究
9	J. S. バッハのギターへの編曲作品研究
10	フーガイ短調BWV1000の分析と演奏
11	プレリュード、フーガ、アレグロBWV998の分析と演奏
12	リュート組曲第1番BWV996の分析と演奏
13	リュート組曲第3番BWV995の分析と演奏
14	シャコンヌBWV1004～の分析と演奏
15	前期総括と発表演奏

授業計画

1	後期ガイダンス
2	近現代のクラシックギター必修レパートリー考察
3	H. ヴィラ＝ロボスのギター作品の研究
4	「5つの前奏曲」の分析と演奏
5	「12の練習曲」の分析と演奏
6	「ギターコンチェルト」の分析と演奏
7	J. トゥリーナのギター作品研究
8	「ソナタ」の作品分析と演奏
9	「セビリア幻想曲」の作品分析と演奏
10	武満徹のギター作品研究
11	「フォリオス」の作品分析と演奏
12	「すべては薄明の中に」の作品分析と演奏
13	「エキノキス」の作品分析と演奏
14	「12の地球の歌」の作品分析と演奏
15	研究演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅰ (PI)						
代表教員	神谷 百子	授業コード	XIL110E0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、演奏楽器と演奏作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことが出来るかということも常に意識、考察する。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

講座、課題に対する取り組み姿勢とそれによる成果のレベルを考慮し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	<p>〔前期〕 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	演奏楽器の発音方を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどういう発音方と力の使い方が必要かを考える。
3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸方を検証。 身体の動き、呼吸方を的確に使うことによって出せる多彩な音と音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。
7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリーゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組み。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。

授業計画	
	<p>〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。</p>
1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリゼ。
3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組み。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組み。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
11	楽曲を演奏するのに必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現するのに効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲の演奏構成のたてかたの研究。
14	取り組む楽曲の現時点での演奏の完成を目指す。
15	後期レッスンの統括、また、年間を通じた学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習 I (E0)						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	XIL1110F0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性を習得することを目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

積極的な予習、復習を望む。

4. 成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習(1) アレンジ曲を選曲
2	専門器楽実習(2) アレンジ曲の選曲と分析
3	専門器楽実習(3) 曲の時代背景、スタイル研究 読譜の確認
4	専門器楽実習(4) 曲の時代背景、スタイル研究 表現の工夫
5	専門器楽実習(5) 曲のハーモニー分析 和音からフレーズの仕組みを考える。
6	専門器楽実習(6) 曲のハーモニー分析 曲全体の流れをつかむ。
7	専門器楽実習(7) 曲のアレンジ実習 スコアリーディングをおこなう。
8	専門器楽実習(8) 曲のアレンジ実習 スコアをリダクションする。楽譜の確認。
9	専門器楽実習(9) 曲のアレンジ実習 確認
10	専門器楽実習(10) レジストレーション研究 曲に合った音色を選択
11	専門器楽実習(11) レジストレーション研究 音色の組み合わせについて
12	専門器楽実習(12) 演奏解釈並びに表現テクニック研究 アーティキュレーションの確認
13	専門器楽実習(13) 演奏解釈並びに表現テクニック研究 表現の工夫
14	専門器楽実習(14) 1曲を通しての音楽のまとめ方
15	まとめの演奏

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。年度末に実施される研究演奏会に向けて、指導を行う。
1	専門器楽実習(1) コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究
2	専門器楽実習(2) コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究 時代背景、形式から
3	専門器楽実習(3) アレンジ研究並びにレジストレーション研究 ハーモニーの確認
4	専門器楽実習(4) アレンジ研究並びにレジストレーション研究 フレーズと音色の関係を考える
5	専門器楽実習(5) 楽曲分析と演奏法研究
6	専門器楽実習(6) 楽曲分析と演奏法研究 表現の工夫
7	専門器楽実習(7) アーティキュレーション並びにフレーズ研究
8	専門器楽実習(8) アーティキュレーション並びにフレーズ研究 フレーズに合った表現の工夫
9	専門器楽実習(9) 演奏解釈と表現方法についての研究 曲全体から考える、それぞれのフレーズの表現
10	専門器楽実習(10) 演応解釈と表現テクニックについての研究 表現の掘り下げ
11	専門器楽実習(11) 音色と演奏テクニックの関連性についての研究 確認
12	専門器楽実習(12) 音色と演奏テクニックの関連性についての研究 表現並びにメカニクな指の動きの工夫
13	専門器楽実習(13) それぞれ曲を通してのまとめ方研究
14	専門器楽実習(14) 曲を通して演奏する時の表現研究 仕上げの演奏
15	専門器楽実習(15) 演奏会のための通しリハーサルとまとめ

科目名	専門器楽実習 I (WA)						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	XIL110G0	科目コード	IL1110d	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢=25% ・実践への取り組み=25% ・演奏技量に反映された成果=50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「専門器楽実習Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏研究 / 研究成果発表と講評

科目名	専門器楽実習Ⅱ (PF)						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	XIL1115A0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。」

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。
3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ 二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。
7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現の可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロガ持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。
11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。
15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン＝サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。
3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。
7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。
11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。
15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	専門器楽実習Ⅱ (OR)						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	XIL1115B0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

あらゆる場面で様々なオルガンを弾きこなせる知識と技術を身につけ、更にそれを実際の演奏に活かせるような音楽性を養うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

まずはより良いレッスンを受けられるようしっかりと準備をすること。またレッスンでの指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおける取り組み方、またその成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の進度や希望に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
	個人レッスンのため、各学生の技量や希望に応じて各担当教員が、時代背景や様式、和声分析などのアナリーゼをしながら演奏技術向上を身指し指導していく。
1	北ドイツ楽派の源流であるスウェーリンクのトッカータを、ヴァージナル楽派からの影響を探りながら、タッチや音色を研究する。
2	スウェーリンクの変奏曲を、各変奏のキャラクターを捕らえながらレジストレーション、装飾音符や奏法を探る。
3	イタリアバロックの巨匠フレスコバルディのトッカータから、多部分形式や幻想様式の源流を学び、様式感ある演奏を探求する。
4	フレスコバルディの「音楽の花束」の中から、カンツォーナやリチェルカーレなど対位法楽曲の基礎を研究する。
5	シャイデマンのコラール作品から、変奏技法を探りながらコラールの演奏方法を探求する。
6	北ドイツ楽派の巨匠ブクステフーデのプレリューディウムを実践しながら幻想様式を理解し、各部分の奏法やレジストレーションを研究する。
7	ブクステフーデのコラール作品から様々なコラール変奏法を知り、またコラールの歌詞の意味と修辞学の関連性を探りながら奏法を考えていく。
8	南ドイツにイタリアとフランス音楽のエッセンスを持ち込んだムファットのトッカータで、イタリアとフランス音楽の特性や相違点、奏法やレジストレーションを研究する。
9	フランス古典初期の楽曲から、特有の装飾法やアクセントなど、またレジストレーションを学びながら奏法を探る。
10	クーブランのミサから各楽曲のスタイルの特性を理解し、レジストレーションの実践をしながら表現方法を研究する。
11	グリニーのミサ曲から、様式感とエスプリを兼ね備えた演奏を目指して探求する。
12	J. S. バッハのオルガン作品からイタリアの影響を受けた前奏曲とフーガを学び、アーティキュレーションなどの工夫をしながら快活な表現方法を研究する。
13	J. S. バッハのオルガン作品から北ドイツ楽派の影響を受けた前奏曲とフーガを取り上げ、バッハに受容された音楽を感じながら様式感ある奏法を探求する。
14	J. S. バッハのオルガン作品からフランスの影響を受けた楽曲を学び、装飾法などを工夫しながら奏法を探る。
15	J. S. バッハのオルガン作品から、バッハ自身が編曲した協奏曲を取り上げ、原曲を研究しながらオルガンでの表現方法を研究する。

授業計画	
	前期に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会に向けての指導に比重を置きながら個人指導にあたる。
1	J. S. バッハのオルガン作品からトリオ・ソナタを通して、各声部を弾き分けながら1人で室内楽を奏でる奏法を実践する。
2	J. S. バッハのコラール作品を取り上げ、教会歴に添ったコラールの歌詞の意味と修辞学によるフィグーラの関連を学びながら、演奏法を探求する。
3	J. S. バッハのコラール作品から装飾コラールを取り上げ、装飾音符の入れ方や歌い方などを模索する。
4	J. S. バッハのコラール作品からコラールファンタジーやカノンのスタイルで書かれた楽曲を取り上げ、構造をよく理解した上でアーティキュレーションやレジストレーションを研究する。
5	J. S. バッハのコラール作品からバルティータを取り上げ、各変奏の各変奏のキャラクターを捕らえながら最適なレジストレーションと奏法を探求する。
6	メンデルスゾーンのソナタでレガート奏法を修得し、ロマン派の響きを引き出せるよう研究する。
7	リストのオルガン作品から、ピアニスティックな奏法をオルガンで美しくダイナミックに表現する技術を探求実践する。
8	レーガーのコラール作品から、重厚な和音やピアニスティックな音型の中からコラールを提示する奏法と、レジストレーションを考察する。
9	フランクのオルガン作品を通して、より美しいレガート奏法を修得し、フランスロマン派音楽を歌い方を研究する。またフランクが演奏していたオルガンを知った上で指示されたレジストレーションを理解し、再現を試みる。
10	ヴィドール、ヴィエルヌのオルガン・シンフォニーから、シンフォニックな響きを感じながらダイナミックな表現方法を探求する。
11	デュブレ、デュルフレのオルガン作品から、旋法的に書かれた和声や旋律を理解しながら、より美しい響きを追求する。
12	メシアンのオルガン作品で、作曲技法とレジストレーションを研究しながら、メシアンの世界観の表現方法を研究する。
13	近現代のオルガン作品で、変拍子やリズムカルな音型を生き生きと表現する方法を探る。
14	修了演奏会における楽曲の分析、レジストレーションと効果的な奏法の研究。
15	修了演奏会における楽曲の演奏表現の確立。二年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	専門器楽実習Ⅱ (WI)						
代表教員	渡部 亨	授業コード	XIL1115C0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（1年次）、修士演奏会（2年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>[前期] 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	専門器楽実習（ガイダンス）（1） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（2）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（3）練習曲の選定
4	専門器楽実習（4）練習曲の実践
5	専門器楽実習（5）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（6）コンクール課題曲選定
7	専門器楽実習（7）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（8）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（9）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（10）古典派協奏曲作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（11）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（12）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（13）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（14）ロマン派作品研究シューマン
15	専門器楽実習（15）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（1） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（2） ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（3） 近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（4） 近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（5） 近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（6） 近現代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（7） 近現代作品研究ブーランク
8	専門器楽実習（8） 近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（9） 近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（10） 近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（11） 近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（12） 近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（13） 邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（14） 邦人作曲家作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（15） 修了演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅱ (SI)						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	XIL1115D0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No. 24奏法研究・楽曲分析
3	パガニーニ奇想曲No. 24ボーイングとフィンガリング研究
4	パガニーニ奇想曲No. 9、11、16奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンガリング
7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo. 2楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo. 2ボーイングとフィンガリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンガリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニックの分析
11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニックについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析
15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニック分析

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）、修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	ベートーベン ソナタNo. 7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo. 7研究ボーイング フィンガリング
3	ベートーベン ソナタNo. 9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo. 9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング
7	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲 1楽章 楽曲分析
10	ブラームス協奏曲1楽章 ボーイング、フィンガリング
11	ブラームス協奏曲2.3楽章 楽曲分析
12	ブラームス協奏曲2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
13	ブラームス ソナタ 楽曲分析
14	ブラームス ソナタ、ボーイング、フィンガリング
15	ブラームス ソナタ 表現研究

科目名	専門器楽実習Ⅱ (GT)						
代表教員	原 善伸	授業コード	XIL1115D1	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

プロギタリストとしてステージに立ち、リサイタルを行うに足る実力をつけることを目標とする。

2. 授業概要

レッスン担当教員の個人レッスンをメインとし、年間数回の客員教授や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎日の基礎練習、現在研究中の楽曲演奏、各自レパートリーの維持

4. 成績評価の方法及び基準

専門家としての技量やレパートリーの完成度を勘案し、修了演奏会における演奏内容を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究対象となる楽曲の信頼の置ける出版譜及び原典版
演奏家としての技量を養うための各教本やエチュード

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの演奏家として世に出て行こうとする者。
またクラシックギターの教育者として高度な知識と指導法を身につけることを目指すもの。

授業計画	
1	ガイダンス
2	技術練習の方法と教材
3	エチュードの歴史的考察
4	クラシックギターの現代奏法の研究
5	ブジョールの技術教本の考察と実践
6	カルレバロの技術教本の考察と実践
7	パンピング・ナイロンの考察と実践
8	クラシックギターの必須レパートリー研究
9	J. S. バッハのギターへの編曲作品研究
10	フーガイ短調BWV1000の分析と演奏
11	プレリュード、フーガ、アレグロBWV998の分析と演奏
12	リュート組曲第1番BWV996の分析と演奏
13	リュート組曲第3番BWV995の分析と演奏
14	シャコンヌBWV1004～の分析と演奏
15	前期総括と発表演奏

授業計画

1	後期ガイダンス
2	近現代のクラシックギター必修レパートリー考察
3	H. ヴィラ＝ロボスのギター作品の研究
4	「5つの前奏曲」の分析と演奏
5	「12の練習曲」の分析と演奏
6	「ギターコンチェルト」の分析と演奏
7	J. トゥリーナのギター作品研究
8	「ソナタ」の作品分析と演奏
9	「セビリア幻想曲」の作品分析と演奏
10	武満徹のギター作品研究
11	「フォリオス」の作品分析と演奏
12	「すべては薄明の中に」の作品分析と演奏
13	「エキノキス」の作品分析と演奏
14	「12の地球の歌」の作品分析と演奏
15	修了演奏会リハーサル

科目名	専門器楽実習Ⅱ (PI)						
代表教員	神谷 百子	授業コード	XIL1115E0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	専門器楽実習Ⅰは専門器楽実習Ⅱとリンクさせることを前提に履修することが望ましい。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

大学院として学部レベルと比較して、演奏技術のさらなる向上を目指す。同時に、演奏楽器と演奏作品に対するより深い知識と理解力を身につけ、それを自身が音楽を表現するツールとしていく。将来的に音楽が社会でどんな役割を担うことができるかということも常に意識、考察する。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

講座、課題に対する取り組み姿勢と、それによる成果のレベルを考慮し評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として履修生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	<p>〔前期〕 概ね下記の流れで進むが、それに加えて複数の教員が担当教員となる個人レッスンのため、各履修者の技量に応じ、各担当教員それぞれの方法で演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	演奏楽器の発音方を研究する。身体の使い方、ストロークなどを変えることで、出る音がどう変化するかを検証。
2	演奏楽器によって出せる音のダイナミックスの検証。 大きい音、小さい音を出すのにどういう発音方と力の使い方が必要かを考える。
3	呼吸について。身体の動きに伴う呼吸方を検証。 身体の動き、呼吸方を的確に使うことによって出せる多彩な音と音色を検証、確認する。
4	リズム、ビートについて考える。
5	音、それに対する間について考える。
6	演奏楽器の奏法、テクニックについての検証。
7	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
8	楽曲についての学習。アナリーゼ。
9	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
10	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
11	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
12	次の楽曲に取り組み。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
13	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
14	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
15	前期レッスンの統括。後期レッスンに繋げる。

授業計画	
	<p>〔後期〕 前期授業計画に準ずるが、前期での学習をふまえ、より高度なレッスン内容としていくことを目指す。</p>
1	担当教員が選んだ楽曲に取り組み、これまでのレッスンで学んだことを踏まえての演奏を試みる。
2	楽曲についての学習。アナリゼ。
3	楽曲内で「うまく演奏できる所」「うまく演奏できない所」を取り出し、どこがうまく出来ているか、なぜうまく出来ないかをそれぞれ検証、確認する。「うまく出来ない所」を解決するために必要なテクニック、表現法などを考察する。
4	前回のレッスンの復習。うまく出来たことがより良くなっているか、うまく出来なかった所の演奏に必要なテクニックその他を再度確認する。
5	取り上げる楽曲の演奏の現時点での仕上げ。
6	次の楽曲に取り組み。今回は、履修者が演奏したい曲を選択し、自分なりの方法での演奏の完成を目指すことにより、自分の個性、好み、得手不得手などをより強く確認していく。
7	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める
8	取り組む楽曲の演奏の現時点での完成。
9	次の楽曲に取り組み。より難易度の高い作品を取り上げる。ここであらためて体の使い方、呼吸方などを検証。楽曲を読み、曲に対するイメージを広げる。
10	履修者の考える楽曲との取り組み方の中での効果的な部分とより良く出来る部分の検証をしながらレッスンを進める。
11	楽曲を演奏するのに必要な奏法とテクニックの検証。
12	楽曲を演奏し、表現するのに効果的な音色や音質を検証。
13	楽曲の演奏構成のたてかたの研究。
14	取り組む楽曲の現時点での演奏の完成を目指す。
15	後期レッスンの統括、また、年間を通じた学習内容の再確認と反省。次のステップについてのディスカッション。

科目名	専門器楽実習Ⅱ (E0)						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	XIL1115F0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性を習得することを目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

積極的な予習、復習を望む。

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すべく個人指導にあたる。
1	専門器楽実習(1) アレンジ曲を選曲
2	専門器楽実習(2) アレンジ曲の選曲と分析
3	専門器楽実習(3) 曲の時代背景、スタイル研究 読譜の確認
4	専門器楽実習(4) 曲の時代背景、スタイル研究 表現の工夫
5	専門器楽実習(5) 曲のハーモニー分析 和音からフレーズの仕組みを考える。
6	専門器楽実習(6) 曲のハーモニー分析 曲全体の流れをつかむ。
7	専門器楽実習(7) 曲のアレンジ実習 スコアリーディングをおこなう。
8	専門器楽実習(8) 曲のアレンジ実習 スコアをリダクションする。楽譜の確認。
9	専門器楽実習(9) 曲のアレンジ実習 確認
10	専門器楽実習(10) レジストレーション研究 曲に合った音色を選択
11	専門器楽実習(11) レジストレーション研究 音色の組み合わせについて
12	専門器楽実習(12) 演奏解釈並びに表現テクニック研究 アーティキュレーションの確認
13	専門器楽実習(13) 演奏解釈並びに表現テクニック研究 表現の工夫
14	専門器楽実習(14) 1曲を通しての音楽のまとめ方
15	まとめの演奏

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。年度末に実施される修了演奏会に向けて、指導を行う。
1	専門器楽実習(1) コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究
2	専門器楽実習(2) コンサートに向けての選曲並びにプログラム研究 時代背景、形式から
3	専門器楽実習(3) アレンジ研究並びにレジストレーション研究 ハーモニーの確認
4	専門器楽実習(4) アレンジ研究並びにレジストレーション研究 フレーズと音色の関係を考える
5	専門器楽実習(5) 楽曲分析と演奏法研究
6	専門器楽実習(6) 楽曲分析と演奏法研究 表現の工夫
7	専門器楽実習(7) アーティキュレーション並びにフレーズ研究
8	専門器楽実習(8) アーティキュレーション並びにフレーズ研究 フレーズに合った表現の工夫
9	専門器楽実習(9) 演奏解釈と表現方法についての研究 曲全体から考える、それぞれのフレーズの表現
10	専門器楽実習(10) 演応解釈と表現テクニックについての研究 表現の掘り下げ
11	専門器楽実習(11) 音色と演奏テクニックの関連性についての研究 確認
12	専門器楽実習(12) 音色と演奏テクニックの関連性についての研究 表現並びにメカニクな指の動きの工夫
13	専門器楽実習(13) それぞれ曲を通してのまとめ方研究
14	専門器楽実習(14) 曲を通して演奏する時の表現研究 仕上げの演奏
15	専門器楽実習(15) 演奏会のための通しリハーサルとまとめ

科目名	専門器楽実習Ⅱ (WA)						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	XIL1115G0	科目コード	IL1115d	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	「専門器楽実習Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を更に高度に磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜徹底研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢=25% ・実践への取り組み=25% ・演奏技量に反映された成果=50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程2年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。1年目の「器楽演奏実習Ⅰ」から繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～現代作品による専攻楽器演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～演奏に向けての概説、2) 譜読み等、楽譜徹底研究、3) 課題作品演奏研究実践、4) 演奏ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し 「和のいろは」コンサート曲レッスン4
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 導入編～演奏に向けての概説
12	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 譜読み等、楽譜徹底研究
13	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 課題作品演奏研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏の高度な研究 / 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究 I (PF)				
代表教員	吉武 雅子	授業コード	XIL1170A0	科目コード	IL1170d
担当教員					
授業形態	実技	配当学年			
対象コース	PF	科目分類	専門必修		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

修了後の高度な専門性が求められるピアニストとしての演奏技術、深い学識及び卓越した音楽性を培うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

習得すべき演奏技術、いかなる状況においても揺るがぬ自己の音楽性を身につけるため、日々錬磨研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおける取り組み成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

其々の状況に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリーゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	楽式から音楽表現法を考察し、演奏に効果的な演奏技術を研究する。
2	バロック時代の舞曲から、時代の変遷により発展した楽曲を実践研究。
3	ドイツ起源の宮廷舞曲として採り入れられたアルマンドの形式を、バッハの作品から研究する。
4	フランス起源のクーラントを、バッハのイギリス組曲から考察、基本の3拍子のリズムを研究。
5	スペイン起源のサラバンドの3拍子を、クーラントとの比較研究により実践する。
6	イギリス起源で17世紀にヨーロッパ大陸に広まったジグの形式を、急速なテンポにおける音質、音色の演奏効果を考察、実践する。
7	フランス起源のガヴォットの2拍子の舞曲を、バッハの作品より研究し、適切な音質と音色の奏法を探る。
8	フランスの民族舞曲から発展したメヌエットを、バッハのフランス組曲から表現方法を研究実践。
9	リュリによって宮廷舞曲に採りこまれたブールの急速なテンポの2拍子を、明るい音質で奏する技術の探求実践。
10	フランス起源の舞曲パスピエを、指先のタッチの効果的奏法を研究し実践する。
11	シチリア島起源のシチリアーノを取り上げ、遅いテンポの舞曲のフレーズから音の響き方を研究し実践する。
12	スコットランド起源のエコセーズを、ベートーヴェンの作品から研究実践する。
13	ポロネーズのしっかりとしたリズムを、ショパンの作品から研究し、ポロネーズのリズムに適切な音質を探求する。
14	ポーランド舞曲でショパンによって広められたマズルカを、ポロネーズの3拍子と比較し研究実践する。
15	スペイン起源のポレロを取り上げ、繰り返されるリズムから音質や音色の変化による表現法を実践から研究する。

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	イタリア起源のタランテラをリストの作品により激しい曲想の表現、音質を探求する。
2	様々な楽曲の奏法に必要な技術を習得するため、ショパンの練習曲から適切なタッチのあり方を研究実践する。
3	リストの練習曲からヴィルトゥオーソ的な奏法を研究実践する。
4	ドビュッシーの練習曲から、より繊細な音質と音色を研究し、タッチの多様性を探求する。
5	ラフマニノフの絵画的練習曲「音の絵」から、ロシアのピアノリズムを研究し、適切な音質と音色を探索し演奏表現の拡大を図る。
6	スクリャーピンの練習曲から、テヌート、スタッカート、スラーなど多様なタッチによる表現法の確立を図る。
7	バッハの作品を取り上げ、チェンバロとのタッチの相違、現代でのピアノによる表現法を探求する。
8	バッハの作品から、オルガンとピアノの響き方の比較をし、現代のピアノによる効果的な奏法の研究実践。
9	スカルラッチェのソナタを取り上げ、この時代のタッチを研究実践する。
10	ソナタ形式による奏法を探索し、モーツァルトの作品から研究実践する。
11	ベートーヴェンのソナタから、ソナタ形式の発展に伴う奏法の発展を研究実践する。
12	シューベルトのソナタを取り上げ、ベートーヴェンの影響と相違を比較研究、音質と音色の相違について探求実践する。
13	シューマンのソナタを取り上げ、古典派との相違、それに伴う音質、音色の奏法について研究実践。
14	研究演奏会における楽曲の分析から効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	演奏法研究 I (OR)						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	XIL1170B0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

あらゆる場面で様々なオルガンを弾きこなせる知識と技術を身につけ、更にそれを実際の演奏に活かせるような音楽性を養うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

まずはより良いレッスンを受けられるようしっかりと準備をすること。またレッスンでの指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおける取り組み方、またその成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の進度や希望に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
	個人レッスンのため、各学生の技量や希望に応じて各担当教員が、時代背景や様式、和声分析などのアナリーゼをしながら演奏技術向上を身指し指導していく。
1	北ドイツ楽派の源流であるスウェーリンクのトッカータを、ヴァージナル楽派からの影響を探りながら、タッチや音色を研究する。
2	スウェーリンクの変奏曲を、各変奏のキャラクターを捕らえながらレジストレーション、装飾音符や奏法を探る。
3	イタリアバロックの巨匠フレスコバルディのトッカータから、多部分形式や幻想様式の源流を学び、様式感ある演奏を探求する。
4	フレスコバルディの「音楽の花束」の中から、カンツォーナやリチェルカーレなど対位法楽曲の基礎を研究する。
5	シャイデマンのコラール作品から、変奏技法を探りながらコラールの演奏方法を探求する。
6	北ドイツ楽派の巨匠ブクステフーデのプレリューディウムを実践しながら幻想様式を理解し、各部分の奏法やレジストレーションを研究する。
7	ブクステフーデのコラール作品から様々なコラール変奏法を知り、またコラールの歌詞の意味と修辞学の関連性を探りながら奏法を考えていく。
8	南ドイツにイタリアとフランス音楽のエッセンスを持ち込んだムファットのトッカータで、イタリアとフランス音楽の特性や相違点、奏法やレジストレーションを研究する。
9	フランス古典初期の楽曲から、特有の装飾法やアクセントなど、またレジストレーションを学びながら奏法を探る。
10	クーブランのミサから各楽曲のスタイルの特性を理解し、レジストレーションの実践をしながら表現方法を研究する。
11	グリニーのミサ曲から、様式感とエスプリを兼ね備えた演奏を目指して探求する。
12	J. S. バッハのオルガン作品からイタリアの影響を受けた前奏曲とフーガを学び、アーティキュレーションなどの工夫をしながら快活な表現方法を研究する。
13	J. S. バッハのオルガン作品から北ドイツ楽派の影響を受けた前奏曲とフーガを取り上げ、バッハに受容された音楽を感じながら様式感ある奏法を探求する。
14	J. S. バッハのオルガン作品からフランスの影響を受けた楽曲を学び、装飾法などを工夫しながら奏法を探る。
15	J. S. バッハのオルガン作品から、バッハ自身が編曲した協奏曲を取り上げ、原曲を研究しながらオルガンでの表現方法を研究する。

授業計画	
	前期に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）に向けての指導に比重を置きながら個人指導にあたる。
1	J. S. バッハのオルガン作品からトリオ・ソナタを通して、各声部を弾き分けながら1人で室内楽を奏でる奏法を実践する。
2	J. S. バッハのコラール作品を取り上げ、教会歴に添ったコラールの歌詞の意味と修辞学によるフィグーラの関連を学びながら、演奏法を探求する。
3	J. S. バッハのコラール作品から装飾コラールを取り上げ、装飾音符の入れ方や歌い方などを模索する。
4	J. S. バッハのコラール作品からコラールファンタジーやカノンのスタイルで書かれた楽曲を取り上げ、構造をよく理解した上でアーティキュレーションやレジストレーションを研究する。
5	J. S. バッハのコラール作品からバルティータを取り上げ、各変奏の各変奏のキャラクターを捕らえながら最適なレジストレーションと奏法を探求する。
6	メンデルスゾーンのソナタでレガート奏法を修得し、ロマン派の響きを引き出せるよう研究する。
7	リストのオルガン作品から、ピアニスティックな奏法をオルガンで美しくダイナミックに表現する技術を探求実践する。
8	レーガーのコラール作品から、重厚な和音やピアニスティックな音型の中からコラールを提示する奏法と、レジストレーションを考察する。
9	フランクのオルガン作品を通して、より美しいレガート奏法を修得し、フランスロマン派音楽を歌い方を研究する。またフランクが演奏していたオルガンを知った上で指示されたレジストレーションを理解し、再現を試みる。
10	ヴィドール、ヴィエルヌのオルガン・シンフォニーから、シンフォニックな響きを感じながらダイナミックな表現方法を探求する。
11	デュブレ、デュルフレのオルガン作品から、旋法的に書かれた和声や旋律を理解しながら、より美しい響きを追求する。
12	メシアンのオルガン作品で、作曲技法とレジストレーションを研究しながら、メシアンの世界観の表現方法を研究する。
13	近現代のオルガン作品で、変拍子やリズムカルな音型を生き生きと表現する方法を探る。
14	研究演奏会における楽曲の分析、レジストレーションと効果的な奏法の研究。
15	研究演奏会における楽曲の演奏表現の確立。一年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	演奏法研究 I (WI)						
代表教員	渡部 亨	授業コード	XIL1170C0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（1年次）、修士演奏会（2年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	専門器楽実習（ガイダンス）（1） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（2）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（3）練習曲の選定
4	専門器楽実習（4）練習曲の実践研究
5	専門器楽実習（5）無伴奏作品研究
6	専門器楽実習（6）バロック作品研究ヴィヴァルディ
7	専門器楽実習（7）バロック作品研究ヘンデル
8	専門器楽実習（8）バロック作品研究バッハ
9	専門器楽実習（9）古典作品研究ハイドン
10	専門器楽実習（10）古典作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（11）古典作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（12）ロマン派作品研究シューマン
13	専門器楽実習（13）ロマン派作品研究ブラームス
14	専門器楽実習（14）ロマン派作品研究ライネッケ
15	専門器楽実習（15）ロマン派作品研究ウェーバー

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（1） ※上記参照の事
2	専門器楽実習（2） ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（3） 近代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（4） 近代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（5） 近代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（6） 近代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（7） 近代作品研究ブーランク
8	専門器楽実習（8） 近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（9） 近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（10） 近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（11） 近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（12） 近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（13） 邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（14） 邦人作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（15） 研究演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究 I (SI)						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	XIL1170D0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、世界に通用する演奏家、教育者になるための高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

そのためには、基本的な奏法の見直しをし、テクニックの向上を図る。音楽的教養を備えるためにも日々研究を進める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

常に、自分の演奏に対して客観的にとらえ、奏法研究、表現、分析につとめる。

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	<p>専門器楽実習（1） 単音のスケールの確実な音程の取り方、ポジション移動の極意の研究。</p>
2	<p>3度、6度、8度、10度など和音のスケールを通して美しい音程の取り方を研究する。</p>
3	<p>ヴィヴァルトのかけ方の種類の研究と実践。</p>
4	<p>ポーイングの演習。デタシェ、スピッカート、サルタート等研究。</p>
5	<p>身体の使い方とバランスと音色について実践と研究</p>
6	<p>ロングトーンを通して身体のバランスと右手の研究と実践。</p>
7	<p>バロック奏法研究。 テレマン12のファンタジー</p>
8	<p>バロック奏法研究。 バッハ無伴奏ソナタNo. 1</p>
9	<p>バロック奏法研究。 バッハ無伴奏パルティータNo. 3</p>
10	<p>バッハ奏法研究。 無伴奏ソナタNo. 1</p>
11	<p>バッハ奏法研究。 パルティータNo. 3</p>
12	<p>バッハ無伴奏奏法研究。 ソナタNo. 2</p>
13	<p>バッハ無伴奏研究。 右手テクニクの分析。</p>
14	<p>無伴奏バッハ奏法研究。 フィンガリングの分析。</p>
15	<p>無伴奏バッハ研究を通してバロック奏法を学ぶ。</p>

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）・修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	モーツァルト協奏曲No. 3の楽曲分析。
2	モーツァルト協奏曲No. 3ボーイングとフィンガリングの研究。
3	モーツァルト協奏曲No. 4 楽曲分析。
4	モーツァルト協奏曲No. 4ボーイングとフィンガリング研究。
5	モーツァルト協奏曲No. 5楽曲分析。
6	モーツァルト協奏曲No. 5. ボーイングとフィンガリング研究。
7	モーツァルトソナタ分析と奏法研究。
8	モーツァルトソナタのピアノを学ぶ。
9	ベートーベンソナタNo. 1楽曲分析。
10	ベートーベンソナタNo. 1ボーイングとフィンガリング。
11	ベートーベンソナタNo. 3楽曲分析。
12	ベートーベンソナタNo. 3ボーイングとフィンガリング研究。
13	ベートーベンソナタNo. 5楽曲分析。
14	ベートーベンソナタNo. 5ボーイングとフィンガリング研究。
15	メンデルスゾーン協奏曲楽曲分析。

科目名	演奏法研究 I (GT)				
代表教員	原 善伸	授業コード	XIL1170D1	科目コード	IL1170d
担当教員					
授業形態	実技	配当学年			
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門必修		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

クラシックギターの主要なレパートリーの演奏法を研究する。
基本技術として重要なスケール、アルペジオ、トレモロなどのテクニックを、より高度な水準に到達させることを目標とする。

2. 授業概要

レッスン担当教員（原善伸）の個人レッスンと、客員教授（鈴木大介、大萩康司）や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

研究中の楽曲やテーマを学内図書館などを利用し、様々な角度から研究する。

4. 成績評価の方法及び基準

研究演奏会において、どのように研究の成果が現れたかを検証、採点する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

25の練習曲集Op. 60 (M. カルカッシ) セゴヴィア編20の練習曲 (F. ソル)
12の練習曲 (H. ヴィラ=ロボス) 12の地球の歌 (武満徹)

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの奏法がどのように発展、進歩してきたかを、レパートリーの中に見出し、実践しようとする意欲を持った者。

授業計画	
1	ガイダンス：年間の授業計画について
2	クラシックギター演奏法の歴史概観
3	中世の撥弦楽器の使用例と奏法
4	スペイン16世紀、ヴィウエラの奏法
5	イギリス・エリザベス朝リュートの奏法
6	イタリア16世紀のリュートとギター音楽の奏法研究
7	ルネッサンス期ドイツのリュート音楽研究
8	フランドルやフランスにおけるルネッサンスリュートやギター奏法研究
9	バロックリュートの奏法とレパートリー研究
10	フランスバロックのリュート音楽研究
11	ドイツバロック、特にS. L. ヴァイスのリュート音楽研究
12	J. S. バッハのリュート音楽研究
13	J. S. バッハのクラシックギターへの編曲作品研究
14	A. セゴヴィアのバッハ編曲作品研究前期のまとめ
15	前期総括発表

授業計画	
1	後期ガイダンス：後期の授業計画と研究演奏会準備計画
2	ルネッサンスギターとバロックギターについての考察
3	ルネッサンスギターの作品と奏法研究（A. ムダーラ、L. ナルバエス、P. アテニアンなど）
4	ガスバル・サンスのバロックギター作品の奏法研究
5	ロベール・ド・ヴィゼーのバロックギター作品の奏法研究
6	その他のバロックギター作曲家の作品研究（ムルシア、ロンカリ、ロジーなど）
7	19世紀ギターの構造、奏法と作品、作曲家についての考察
8	F. カルツリの作品と奏法研究
9	F. ソルの作品と奏法研究
10	M. ジュリアーニの作品と奏法研究
11	ロマン派のギター作品と作曲家、奏法、そして楽器の変容
12	J. K. メルツとN. コストの作品と奏法研究
13	A. トーレスの登場と現代クラシックギター、構造と受容の歴史
14	A. セゴヴィアによる現代クラシックギターの奏法革命
15	研究演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ (PI)				
代表教員	神谷 百子	授業コード	XIL1170E0	科目コード	IL1170d
担当教員		期間	通年		
授業形態	実技	配当学年			
対象コース	PI	科目分類	専門必修		
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。その学習の先に、院を修了して社会に出てから、どのような形で音楽と社会を結んでいくことが出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の研究演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう考えて年間の授業を進めていく。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	<p>〔前期〕 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。</p>
1	前期授業についてのガイダンス。後期の研究演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっているか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要な箇所を認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性はあるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。
11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。
15	前期レッスンの統括。その上で後期研究演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	後期授業についてのガイダンス。研究演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。
11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。1曲を演奏する上での構成の立て方を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 研究演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	研究演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち居振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。
15	研究演奏会プログラムの作品の最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究 I (E0)						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	XIL1170F0	科目コード	IL1170d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専門器楽実習と関連性を持たせつつ、修士論文のテーマを決定し、その研究を担当教員指導のもと、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

継続的な研究、練習を望む。

4. 成績評価の方法及び基準

研究演奏会での演奏により評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的にレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	個人レッスンの、各個人の技量に応じ、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すると同時に、アレンジやオリジナル作品等の指導も行う。
1	演奏法研究(1) レパートリー選曲
2	演奏法研究(2) バロック演奏法研究 様式を中心に
3	演奏法研究(3) バロック演奏法研究 形式、和声を学ぶ
4	演奏法研究(4) パイプオルガン演奏法研究と応用 フィンガリングを中心に
5	演奏法研究(5) パイプオルガン演奏法研究と応用 ペダル奏法を学ぶ
6	演奏法研究(6) アーティキュレーション研究 レガート奏法を学ぶ。
7	演奏法研究(7) アーティキュレーション研究 スタッカート、テヌートなどを学ぶ。
8	演奏法研究(8) レジストレーション研究 音色を生かした奏法を研究する。
9	演奏法研究(9) レジストレーション研究、エディット研究 木管楽器の音色を作る。
10	演奏法研究(10) レジストレーション研究、エディット研究 金管楽器の音色を作る。
11	演奏法研究(11) レジストレーション研究、エディット研究 スtringスの音色を作る。
12	演奏法研究(12) フレーズの表現についての研究 フレーズの解釈からの表現方法
13	演奏法研究(13) フレーズの表現についての研究 ペダル鍵盤のよるフレーズの表現の仕方。
14	演奏法研究(14) 曲のまとめと解釈について 表現の工夫
15	演奏法研究(15) 曲のまとめと解釈について 演奏の確認

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。研究演奏会に向けての指導も積極的に行われる。
1	演奏法研究(1) ロマン派の音楽について 選曲
2	演奏法研究(2) ロマン派の音楽のレジストレーション研究 アナリゼから音色を工夫する。
3	演奏法研究(3) ロマン派の音楽とレジストレーション研究 奏法を中心に
4	演奏法研究(4) ロマン派のレパートリー 音色と演奏法の関係性について 時代背景や様式から考える。
5	演奏法研究(5) ロマン派のレパートリー 音色と演奏法の関係性について 形式、和声から分析する。
6	演奏法研究(6) 近現代のレパートリー選曲
7	演奏法研究(7) 近現代作品のスタイル研究 様式や時代背景から学ぶ。
8	演奏法研究(8) 近現代作品スタイル研究 形式や和声から考える。
9	演奏法研究(9) 近現代作品の演奏表現についての研究 表現法、音色を考える。
10	演奏法研究(10) 近現代作品の演奏表現についての研究 表現の工夫
11	演奏法研究(11) 近現代作品のフレーズ研究と表現 表現を掘り下げ。
12	演奏法研究(12) 研究演奏会用楽曲のアナリゼと解釈について
13	演奏法研究(13) 研究演奏会用楽曲の音色研究
14	演奏法研究(14) 研究演奏会用楽曲のフレーズの表現並びにアーティキュレーションの研究
15	演奏法研究(15) 研究演奏会用楽曲の全体を通しての演奏によるリハーサル

科目名	演奏法研究Ⅰ (WA)				
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	XIL1170G0	科目コード	IL1170d
担当教員	山口 賢治				
授業形態	実技	配当学年			
対象コース	WA	科目分類	専門必修		
前提科目	特になし				
教員免許状					

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢=25% ・実践への取り組み=25% ・演奏技量に反映された成果=50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院研究演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

科目名	演奏法研究Ⅱ (PF)						
代表教員	吉武 雅子	授業コード	XIL1175A0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

1年次において習得した演奏技術と音楽性の発展を目指し、修了後にピアニストとして活躍すべく自己の演奏表現の確立をする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

修了後の演奏活動に向けての準備、リサイタルを開催する際のプログラムのレパートリーを錬磨研究する。」

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の状況に応じて担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が演奏技術、アナリゼ、曲の背景等楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。
1	1年を通して時代の変遷により発展を遂げた奏法の変化を研究実践するための計画の立案。
2	バロック時代の楽曲形式を研究し、チェンバロとの音質、音色の違いを比較、現代の奏法に活かすタッチの研究実践。
3	変奏曲の形式の発展を研究、それに伴う楽器、奏法の発展も実践研究する。
4	即興的な形式の研究。バッハのトッカータとフーガ 二短調を実践し研究する。
5	バロック時代のソナタと古典派のソナタの比較研究。時代の変遷による鍵盤楽器の表現法の拡大を、実践により研究する。
6	古典派とロマン派のソナタを比較し、楽器の変遷による奏法の比較、それに伴う表現法の拡大。
7	ロマン派と20世紀のソナタの比較研究。形式の発展から見る演奏表現の可能性を実践から研究する。
8	作曲家の民族性から見える特色の研究。
9	バロック時代のイタリアにおける作曲家の特徴。併せてチェンバロガ持つ特色も研究する。
10	バロック音楽の協奏様式、通奏低音の研究実践。
11	バロック音楽の重要な作曲家の一人であるヘンデルのソナタの研究。バッハの作品との比較によりバロック時代の音楽性を探求する。
12	チェンバロ、オルガン、ピアノを実際に演奏し、タッチの違い響きの違いを実践研究し、表現法の創作意識を高める。
13	バロック音楽と古典派の音楽の旋律法、和声の比較研究。
14	絶対音楽と標題音楽の研究。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品から実践し探求する。
15	ロマン派の作曲様式、作曲技法の特徴を研究する。ダイナミックスの変化がもたらす演奏効果を考察実践する。

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	ロマン派の作曲家ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームスを取り上げ、鍵盤楽曲以外の作品とピアノ曲の比較研究をし、表現の拡大を図る。
2	サン＝サーンス、フォーレ、ドビュッシーの作品から、フランスの作曲家の特徴を考察し、ドイツ音楽との比較から音質、音色の相違を研究する。
3	ムソルグスキー、バラキレフ、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品を通して、ロシアの民族的な色彩の表現法の実践研究。
4	アルベニス、グラナドスの作品をから、スペイン音楽と他国の音楽の比較研究。独特のリズム感やハーモニーから奏法の多様性を実践研究する。
5	キャラクターピースにおける表現の創意性の探求。
6	20世紀の音楽における発展の研究。旋律、和声、調性、リズム、形式から見える複雑化を考察し、その奏法、表現法を探る。
7	修了演奏会における楽曲の分析、奏法解釈から、自身の効果的な表現法を研究実践する。
8	修了演奏会における楽曲の副論文作成により、考察した結論を演奏に活かすための奏法研究の実践。
9	自身のレパートリーとなるコンチェルトの奏法研究。独奏とコンチェルトの奏法の比較から効果的な奏法を探求する。
10	オーケストラスコアから見るソリストとしての奏法研究。オーケストラとのアンサンブルからソリストとしての音質、音色、表現法について探求する。
11	声楽曲から見るピアノ独奏曲の実践。リストの編曲作品を取り上げ、歌曲を奏でる声を音によって表現する奏法研究。
12	ピアノ独奏によるベートーヴェン交響曲の奏法研究。 リストの編曲作品から、オーケストラの表現法の研究をとおして、多様な音質、音色の表現を習得する。
13	音楽的な演奏の原理の追求。フレージング、リズム、拍子、音質、音色、2年間の研究を通して培った演奏技術を確立する。
14	ペダリングの演奏効果についての実践研究。ペダリングによる表現の可能性をバロック音楽から現代音楽までを比較実践し、演奏表現の拡大を探求する。
15	2年間の研究成果を試演会の発表を通して、自己の音楽性、演奏技術を確立する。

科目名	演奏法研究Ⅱ (OR)						
代表教員	荻野 由美子	授業コード	XIL1175B0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

あらゆる場面で様々なオルガンを弾きこなせる知識と技術を身につけ、更にそれを実際の演奏に活かせるような音楽性を養うことを目標とする。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

まずはより良いレッスンを受けられるようしっかりと準備をすること。またレッスンでの指摘や課題を真摯に受け止め、自己を向上させるための鍛錬を日々怠らないこと。

4. 成績評価の方法及び基準

毎週のレッスンにおける取り組み方、またその成果による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各学生の進度や希望に応じた課題曲を、担当教員より指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に無し

授業計画	
	個人レッスンのため、各学生の技量や希望に応じて各担当教員が、時代背景や様式、和声分析などのアナリーゼをしながら演奏技術向上を身指し指導していく。
1	北ドイツ楽派の源流であるスウェーリンクのトッカータを、ヴァージナル楽派からの影響を探りながら、タッチや音色を研究する。
2	スウェーリンクの変奏曲を、各変奏のキャラクターを捕らえながらレジストレーション、装飾音符や奏法を探る。
3	イタリアバロックの巨匠フレスコバルディのトッカータから、多部分形式や幻想様式の源流を学び、様式感ある演奏を探求する。
4	フレスコバルディの「音楽の花束」の中から、カンツォーナやリチェルカーレなど対位法楽曲の基礎を研究する。
5	シャイデマンのコラール作品から、変奏技法を探りながらコラールの演奏方法を探求する。
6	北ドイツ楽派の巨匠ブクステフーデのプレリューディウムを実践しながら幻想様式を理解し、各部分の奏法やレジストレーションを研究する。
7	ブクステフーデのコラール作品から様々なコラール変奏法を知り、またコラールの歌詞の意味と修辞学の関連性を探りながら奏法を考えていく。
8	南ドイツにイタリアとフランス音楽のエッセンスを持ち込んだムファットのトッカータで、イタリアとフランス音楽の特性や相違点、奏法やレジストレーションを研究する。
9	フランス古典初期の楽曲から、特有の装飾法やアクセントなど、またレジストレーションを学びながら奏法を探る。
10	クーブランのミサから各楽曲のスタイルの特性を理解し、レジストレーションの実践をしながら表現方法を研究する。
11	グリニーのミサ曲から、様式感とエスプリを兼ね備えた演奏を目指して探求する。
12	J. S. バッハのオルガン作品からイタリアの影響を受けた前奏曲とフーガを学び、アーティキュレーションなどの工夫をしながら快活な表現方法を研究する。
13	J. S. バッハのオルガン作品から北ドイツ楽派の影響を受けた前奏曲とフーガを取り上げ、バッハに受容された音楽を感じながら様式感ある奏法を探求する。
14	J. S. バッハのオルガン作品からフランスの影響を受けた楽曲を学び、装飾法などを工夫しながら奏法を探る。
15	J. S. バッハのオルガン作品から、バッハ自身が編曲した協奏曲を取り上げ、原曲を研究しながらオルガンでの表現方法を研究する。

授業計画	
	前期に準ずるが、年度末に実施される修了演奏会に向けての指導に比重を置きながら個人指導にあたる。
1	J. S. バッハのオルガン作品からトリオ・ソナタを通して、各声部を弾き分けながら1人で室内楽を奏でる奏法を実践する。
2	J. S. バッハのコラール作品を取り上げ、教会歴に添ったコラールの歌詞の意味と修辞学によるフィグーラの関連を学びながら、演奏法を探求する。
3	J. S. バッハのコラール作品から装飾コラールを取り上げ、装飾音符の入れ方や歌い方などを模索する。
4	J. S. バッハのコラール作品からコラールファンタジーやカノンのスタイルで書かれた楽曲を取り上げ、構造をよく理解した上でアーティキュレーションやレジストレーションを研究する。
5	J. S. バッハのコラール作品からバルティータを取り上げ、各変奏の各変奏のキャラクターを捕らえながら最適なレジストレーションと奏法を探求する。
6	メンデルスゾーンのソナタでレガート奏法を修得し、ロマン派の響きを引き出せるよう研究する。
7	リストのオルガン作品から、ピアニスティックな奏法をオルガンで美しくダイナミックに表現する技術を探求実践する。
8	レーガーのコラール作品から、重厚な和音やピアニスティックな音型の中からコラールを提示する奏法と、レジストレーションを考察する。
9	フランクのオルガン作品を通して、より美しいレガート奏法を修得し、フランスロマン派音楽を歌い方を研究する。またフランクが演奏していたオルガンを知った上で指示されたレジストレーションを理解し、再現を試みる。
10	ヴィドール、ヴィエルヌのオルガン・シンフォニーから、シンフォニックな響きを感じながらダイナミックな表現方法を探求する。
11	デュブレ、デュルフレのオルガン作品から、旋法的に書かれた和声や旋律を理解しながら、より美しい響きを追求する。
12	メシアンのオルガン作品で、作曲技法とレジストレーションを研究しながら、メシアンの世界観の表現方法を研究する。
13	近現代のオルガン作品で、変拍子やリズムカルな音型を生き生きと表現する方法を探る。
14	修了演奏会における楽曲の分析、レジストレーションと効果的な奏法の研究。
15	修了演奏会における楽曲の演奏表現の確立。二年間を通しての研究成果を試演会において発表する。

科目名	演奏法研究Ⅱ (WI)						
代表教員	渡部 亨	授業コード	XIL1175C0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

マスター（修士）クラスとしての演奏技術のさらなる向上と、研究演奏会（1年次）、修士演奏会（2年次）へのアプローチとなる個人レッスン。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

個々の自発的な技術、楽曲探求及び指導教員からの指示を、次回のレッスンまでに取得する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	専門器楽実習（ガイダンス）（1） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（2）レッスン計画作成
3	専門器楽実習（3）練習曲の選定
4	専門器楽実習（4）練習曲の実践
5	専門器楽実習（5）コンクール用無伴奏曲実践
6	専門器楽実習（6）コンクール課題曲選定
7	専門器楽実習（7）バロックソナタ作品研究バッハ
8	専門器楽実習（8）バロック協奏曲作品研究ヴィヴァルディ
9	専門器楽実習（9）古典派ソナタ作品研究モーツァルト
10	専門器楽実習（10）古典派協奏曲作品研究モーツァルト
11	専門器楽実習（11）古典派ソナタ作品研究ベートーヴェン
12	専門器楽実習（12）古典派協奏曲作品研究シュターミッツ
13	専門器楽実習（13）古典派ソナタ作品研究ウェーバー
14	専門器楽実習（14）ロマン派作品研究シューマン
15	専門器楽実習（15）ロマン派ソナタ作品研究ブラームス

授業計画	
	[後期]
1	専門器楽実習（1） ※下記参照の事
2	専門器楽実習（2） ロマン派作品研究チャイコフスキー
3	専門器楽実習（3） 近現代作品研究ドビュッシー
4	専門器楽実習（4） 近現代作品研究フォーレ
5	専門器楽実習（5） 近現代作品研究サン=サーンス
6	専門器楽実習（6） 近現代作品研究ラヴェル
7	専門器楽実習（7） 近現代作品研究ブーランク
8	専門器楽実習（8） 近現代作品研究ミヨー
9	専門器楽実習（9） 近現代作品研究プロコフィエフ
10	専門器楽実習（10） 近現代作品研究ブリテン
11	専門器楽実習（11） 近現代作品研究メシアン
12	専門器楽実習（12） 近現代作品研究ジョリヴェ
13	専門器楽実習（13） 邦人作曲家作品研究 平尾貴四男
14	専門器楽実習（14） 邦人作曲家作品研究 武満徹
15	専門器楽実習（15） 修了演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ (SI)						
代表教員	水野 佐知香	授業コード	XIL1175D0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専攻楽器について、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること

4. 成績評価の方法及び基準

毎回のレッスンに向けての研究成果による評価とする

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員の指示によるもの。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

しっかりと各自の意識を持ってレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	<p>〔前期〕 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・アナリゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべく個人指導にあたる。</p>
1	速いスピードでスケールを正確に弾けるための奏法研究
2	パガニーニ奇想曲No. 24奏法研究・楽曲分析
3	パガニーニ奇想曲No. 24ボーイングとフィンガリング研究
4	パガニーニ奇想曲No. 9、11、16奏法研究・楽曲分析
5	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタ楽曲分析
6	バロック奏法研究 バッハ無伴奏ソナタボーイングとフィンガリング
7	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo. 2楽曲分析
8	バロック奏法研究 バッハ無伴奏パルティータNo. 2ボーイングとフィンガリング
9	メンデルスゾーン協奏曲のボーイングとフィンガリング
10	メンデルスゾーン協奏曲表現研究とテクニックの分析
11	サン=サーンス協奏曲研究 楽曲分析
12	サン=サーンス協奏曲研究 ボーイングとフィンガリング
13	サン=サーンス協奏曲研究 表現とテクニックについて
14	フランク ソナタ研究 楽曲分析
15	フランク ソナタ研究 ボーイング、フィンガリング、テクニック分析

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会（1年）、修了演奏会（2年）に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	ベートーベン ソナタNo. 7研究楽曲分析
2	ベートーベン ソナタNo. 7研究ボーイング フィンガリング
3	ベートーベン ソナタNo. 9研究 楽曲分析
4	ベートーベン ソナタNo. 9研究 ボーイング、フィンガリング
5	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 楽曲分析
6	チャイコフスキー協奏曲 1楽章 ボーイング、フィンガリング
7	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章楽曲分析
8	チャイコフスキー協奏曲 2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
9	ブラームス協奏曲1楽章 楽曲分析
10	ブラームス協奏曲1楽章 ボーイング、フィンガリング
11	ブラームス協奏曲2.3楽章 楽曲分析
12	ブラームス協奏曲2.3楽章 ボーイング、フィンガリング
13	ブラームス ソナタ 楽曲分析
14	ブラームス ソナタ、ボーイング、フィンガリング
15	ブラームス ソナタ 表現研究

科目名	演奏法研究Ⅱ (GT)						
代表教員	原 善伸	授業コード	XIL1175D1	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI (GT)	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

クラシックギターの主要なレパートリーの演奏法を研究する。
基本技術として重要なスケール、アルペジオ、トレモロなどのテクニックを、より高度な水準に到達させることを目標とする。

2. 授業概要

レッスン担当教員（原善伸）の個人レッスンと、客員教授（鈴木大介、大萩康司）や海外招聘教員の特別レッスンを行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

研究中の楽曲やテーマを学内図書館などを利用し、様々な角度から研究する。

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会において、どのように研究の成果が現れたかを検証、採点する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

25の練習曲集Op. 60 (M. カルカッシ) セゴヴィア編20の練習曲 (F. ソル)
12の練習曲 (H. ヴィラ=ロボス) 12の地球の歌 (武満徹)

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギターの奏法がどのように発展、進歩してきたかを、レパートリーの中に見出し、実践しようとする意欲を持った者。

授業計画	
1	ガイダンス：年間の授業計画について
2	クラシックギター演奏法の歴史概観
3	中世の撥弦楽器の使用例と奏法
4	スペイン16世紀、ヴィウエラの奏法
5	イギリス・エリザベス朝リュートの奏法
6	イタリア16世紀のリュートとギター音楽の奏法研究
7	ルネッサンス期ドイツのリュート音楽研究
8	フランドルやフランスにおけるルネッサンスリュートやギター奏法研究
9	バロックリュートの奏法とレパートリー研究
10	フランスバロックのリュート音楽研究
11	ドイツバロック、特にS. L. ヴァイスのリュート音楽研究
12	J. S. バッハのリュート音楽研究
13	J. S. バッハのクラシックギターへの編曲作品研究
14	A. セゴヴィアのバッハ編曲作品研究前期のまとめ
15	前期総括発表

授業計画	
1	後期ガイダンス：後期の授業計画と終了演奏会準備計画
2	ルネッサンスギターとバロックギターについての考察
3	ルネッサンスギターの作品と奏法研究（A. ムダーラ、L. ナルバエス、P. アテニアンなど）
4	ガスバル・サンスのバロックギター作品の奏法研究
5	ロペール・ド・ヴィゼーのバロックギター作品の奏法研究
6	その他のバロックギター作曲家の作品研究（ムルシア、ロンカリ、ロジーなど）
7	19世紀ギターの構造、奏法と作品、作曲家についての考察
8	F. カルッリの作品と奏法研究
9	F. ソルの作品と奏法研究
10	M. ジュリアーニの作品と奏法研究
11	ロマン派のギター作品と作曲家、奏法、そして楽器の変容
12	J. K. メルツとN. コストの作品と奏法研究
13	A. トーレスの登場と現代クラシックギター、構造と受容の歴史
14	A. セゴヴィアによる現代クラシックギターの奏法革命
15	修了演奏会リハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ (PI)						
代表教員	神谷 百子	授業コード	XIL1175E0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅰ、Ⅱはそれぞれをリンクさせて取り組むことが望ましい。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

楽器を演奏する上での基礎を固め、そこからより高度なテクニックを身につけていく中で、多彩な音色、リズム、ビートについての考察、表現することなどについて深く研究する。その学習の先に、院を修了して社会に出てから、どのような形で音楽と社会を結んでいくことが出来るかという点も常に考えて各々の研究を進めていくことが望まれる。

年度末の修了演奏会での発表を大きな目標とし、そこに結びつくよう考えて年間の授業を進めていく。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスン時に教員から与えられる課題をレッスン後に復習し体得すること、またレッスン前には次のレッスンに必要な準備と練習をすることが推奨される。また、取り組む作品のアナリゼを行う、作品や作曲者に関連した文献などがある場合はそれらに積極的に目を通し、ただ「弾く」というだけではない学習をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏により評価する

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示により各自が準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特になし。クラス分けは、原則として受講生が自身で希望する教員を担当教員として進める。

授業計画	
	<p>〔前期〕 概ね下記のような流れで進むことになるが、複数担当教員による個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が、演奏技術・曲の背景等、楽曲の内容を深く探求すべくそれぞれの方法を交えて受講生と相談しながら個人指導にあたる。</p>
1	前期授業についてのガイダンス。後期の修了演奏会で発表するプログラムを何にするかの相談を交えつつ、前期に取り組む作品をおおよそ決定する。受講生が取り組むべき基礎課題についても相談、確認する。
2	演奏楽器を演奏する上での姿勢について、発音するのに必要なストローク、体の使い方などを実践を交えて研究と確認をする。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリーゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	取り組む作品の、この時点での一つの完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏が出来るようになっているか、あらためて細部を確認する。
8	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認。年度始めのレッスンから成長したところ、より改善が必要な箇所を認識し、この先のレッスンにつなげていく。
9	次の作品への取り組み。基礎を大切にしながら、より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。
10	取り組む作品が楽譜となっている場合、楽譜上に記載されていることを大切にしつつ、あえて違ったアプローチの可能性はあるか、など、既成概念にとらわれずに作品と向き合う時間を持つ。実践を交えながら、受講生と担当教員間でのアイデアの交換、ディスカッションを中心にレッスンを進める。
11	あらためて取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行ったアプローチが有効であるかどうかを検証する。作品と取り組み始めた当初よりも広い視野で作品を捉えていく。
12	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
13	前期にこれまで取り組んで来た作品とは違ったテイストの小品を学習する。作品に応じた演奏楽器の音色を探す。
14	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。小品ならではの表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。
15	前期レッスンの統括。その上で後期研究演奏会のプログラムについて再考し、後期のレッスンに繋げる。

授業計画	
	<p>[後期] 前期授業計画に準ずるが、年度末に実施される研究演奏会に向けての指導比重を重く個人指導にあたる。</p>
1	後期授業についてのガイダンス。修了演奏会で発表するプログラムを何にするかを相談、決定し、それを前提として後期レッスンの進め方を相談する。
2	前期レッスンで学習したことを復習する。基礎の確認と表現についての再考など。
3	取り組む作品の楽譜の読譜。実際に曲を演奏しながらアナリゼを行い、作品への理解を深める。
4	取り組む作品を演奏する中で、譜面を正しく再現出来ているかどうか重点を置き、レッスンを進める。
5	取り組む作品をどう表現出来るかについての研究と考察。作品に応じて、リズム、フレーズなどを確認していく。
6	取り組む作品への理解を深め、そこに自分自身のアイデア、表現を加えていく。実践を交えながら楽譜を正しく演奏するところから発展し、それを自分の声とする方法を探っていく。
7	ここまでのレッスンを経て、あらためて演奏する上での自分の姿勢や体の使い方、各楽器の発音の方法、表現についての考えなどを確認し、作品演奏に反映させられているかを検証。
8	より積極的且つダイナミックな（または繊細な）音色、表現を伴う演奏をするために必要なものは何かを考える。既成概念にとらわれるだけにとどまらない自由な発想を持って作品と向かい合う方法を相談、考える。
9	作品のこの時点での完成を目指す。演奏会で取り上げられるレベルの演奏とすることが出来ているか、確認。
10	次の作品への取り組み。担当教員の指導を形にするだけではなく、受講生が自分で考え、自分の演奏とそこから生まれる音、音楽を体感する、という方向性を強めていく。
11	取り組む作品の楽譜を読み、前回レッスンで行った自分で考えたアプローチが有効であるかどうかを検証する。一層広い視野で作品を捉えていく方法を相談、研究する。
12	表現のニュアンスはどう表せるか、センスのいい演奏とはどういうものか、などについてのディスカッションをしながらレッスンを進める。1曲を演奏する上での構成の立て方を相談、研究する。
13	取り組む作品のこの時点での完成を目指す。 研究演奏会での演奏を前提に、演奏会場の広さ、響きなども想定した演奏を目指す。
14	研究演奏会で演奏するにあたって、ステージ上での立ち居振る舞い、演奏曲間の気持ちの切り替え、集中力の保ち方と緩め方など、演奏するという以外の部分について考察する。
15	修了演奏会プログラムの作品の最終確認。 後期レッスンの統括。

科目名	演奏法研究Ⅱ (E0)						
代表教員	赤塚 博美	授業コード	XIL1175F0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

専門器楽実習と関連性を持たせつつ、修士論文のテーマを決定し、その研究を担当教員指導のもと、高度な演奏技術と音楽性の習得を目指す。

2. 授業概要

担当教員による個人レッスン

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

継続的な研究、練習を望む。

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会での演奏により評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的にレッスンに臨んでほしい。

授業計画	
	個人レッスンの、各個人の技量に応じ、演奏技術・アナリーゼ・曲の背景等、楽曲の内容を深く探究すると同時に、アレンジやオリジナル作品等の指導も行う。
1	演奏法研究(1) レパートリー選曲
2	演奏法研究(2) バロック演奏法研究 様式を中心に
3	演奏法研究(3) バロック演奏法研究 形式、和声を学ぶ
4	演奏法研究(4) パイプオルガン演奏法研究と応用 フィンガリングを中心に
5	演奏法研究(5) パイプオルガン演奏法研究と応用 ペダル奏法を学ぶ
6	演奏法研究(6) アーティキュレーション研究 レガート奏法を学ぶ。
7	演奏法研究(7) アーティキュレーション研究 スタッカート、テヌートなどを学ぶ。
8	演奏法研究(8) レジストレーション研究 音色を生かした奏法を研究する。
9	演奏法研究(9) レジストレーション研究、エディット研究 木管楽器の音色を作る。
10	演奏法研究(10) レジストレーション研究、エディット研究 金管楽器の音色を作る。
11	演奏法研究(11) レジストレーション研究、エディット研究 スtringsの音色を作る。
12	演奏法研究(12) フレーズの表現についての研究 フレーズの解釈からの表現方法
13	演奏法研究(13) フレーズの表現についての研究 ペダル鍵盤のよるフレーズの表現の仕方。
14	演奏法研究(14) 曲のまとめと解釈について 表現の工夫
15	演奏法研究(15) 曲のまとめと解釈について 演奏の確認

授業計画	
	前期授業計画に準ずる。修了演奏会に向けての指導も積極的に行われる。
1	演奏法研究(1) ロマン派の音楽について 選曲
2	演奏法研究(2) ロマン派の音楽のレジストレーション研究 アナリゼから音色を工夫する。
3	演奏法研究(3) ロマン派の音楽とレジストレーション研究 奏法を中心に
4	演奏法研究(4) ロマン派のレパートリー 音色と演奏法の関係性について 時代背景や様式から考える。
5	演奏法研究(5) ロマン派のレパートリー 音色と演奏法の関係性について 形式、和声から分析する。
6	演奏法研究(6) 近現代のレパートリー選曲
7	演奏法研究(7) 近現代作品のスタイル研究 様式や時代背景から学ぶ。
8	演奏法研究(8) 近現代作品スタイル研究 形式や和声から考える。
9	演奏法研究(9) 近現代作品の演奏表現についての研究 表現法、音色を考える。
10	演奏法研究(10) 近現代作品の演奏表現についての研究 表現の工夫
11	演奏法研究(11) 近現代作品のフレーズ研究と表現 表現を掘り下げ。
12	演奏法研究(12) 修了演奏会用楽曲のアナリゼと解釈について
13	演奏法研究(13) 修了演奏会用楽曲の音色研究
14	演奏法研究(14) 修了演奏会用楽曲のフレーズの表現並びにアーティキュレーションの研究
15	演奏法研究(15) 修了演奏会用楽曲の全体を通しての演奏によるリハーサル

科目名	演奏法研究Ⅱ (WA)						
代表教員	松尾 祐孝	授業コード	XIL1175G0	科目コード	IL1175d	期間	通年
担当教員	山口 賢治						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WA	科目分類	専門必修				
前提科目	「演奏法研究Ⅰ」の単位取得を前提としている。						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏法（技術面）を鍛えていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、高度な演奏技法を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立して、充実した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

2. 授業概要

和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら研究を進めて行く。また、様々な現場に出張して研修活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を5回で1クールとして、1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の事前の試聴、譜読みやレッスン後の課題克服のための練習、等の自主的な励行が強く望まれる。

4. 成績評価の方法及び基準

レッスン担当教員講師の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。
 ・研究への姿勢=25% ・実践への取り組み=25% ・演奏技量に反映された成果=50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大学院修士課程1年目の履修を想定している講座と考えていただきたい。2年目の「演奏法研究Ⅱ」に繋がる内容になっていることを、認識されたい。

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第1クール～古典作品による専攻楽器演奏法基礎研究 / 研究成果発表と講評
6	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第2クール～古典作品による専攻楽器演奏法応用研究 / 研究成果発表と講評
11	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第3クール～「和のいろは」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

授業計画	
	担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1) 導入編～必要な演奏法についての概説、2) 譜読み等、演奏法徹底研究、3) 課題作品演奏法研究実践、4) 演奏法ブラッシュアップ、5) 研究成果発表と講評、というサイクルを基本としていく。
1	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
2	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
3	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
4	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	第4クール～「大学院リサイタルシリーズ」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
6	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
7	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
8	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
9	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	第5クール～「冬の音楽祭・邦楽コンサート」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評
11	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 導入編～必要な演奏法についての概説
12	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 譜読み等、演奏法徹底研究
13	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 課題作品演奏法研究実践・・・課題の洗い出し
14	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 演奏法ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	第6クール～「大学院修了演奏会」「邦楽定期」演奏曲の演奏法研究 / 研究成果発表と講評

科目名	声楽実習 I (V0)						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	XIL131000	科目コード	IL1310d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究 I とリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる

2. 授業概要

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクッションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、研究演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクッション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

試験 100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間30回のレッスンは、1回1回の積み重ねによって成立するので、遅刻欠席がないようにする。
また、担当教員と研究課題をしっかりと決め、積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス／研究演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／研究演奏に向けてプログラムの確定
8	研究演奏会に選曲した曲の作品研究
9	研究演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	研究演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	研究演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	研究演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	研究演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	研究演奏会に向けて、全体の流れを確認する
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会への仕上げ）

科目名	声楽実習Ⅱ (V0)						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	XIL131500	科目コード	IL1315d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	演奏法研究Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンを行う。
担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる

2. 授業概要

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクッションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、修了演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクッション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会（試験）100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間30回のレッスンは、1回1回の積み重ねによって成立するので、遅刻欠席がないようにする。
また、担当教員と研究課題をしっかりと決め、積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス／修了演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景の研究
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／修了演奏に向けてプログラムの確定
8	修了演奏会に選曲した曲の作品研究
9	修了演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	修了演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	修了演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	修了演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	修了演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	修了演奏会に向けて、全体の流れを確認する
15	年間を通してのまとめ（修了演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究 I (V0)						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	XIL137000	科目コード	IL1370d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	声楽実習 I とリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、発声法から音楽表現に至るまで、学生一人一人に合わせたレッスンをを行う。担当教員により、各自の目標を達成できるよう指導が行われる。

2. 授業概要

2年間という短い期間の中で、学生一人一人の演奏技術、表現を考え、ディクッションなど基礎を確立し、更により高度なテクニックの習得と、音楽表現を学び、研究演奏会では、集大成としての演奏に臨む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
ディクッション、音楽表現等各自出来ることを、準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

試験 100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

レッスン担当教員の指示のもと準備する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究課題をしっかり決めること。
1回1回のレッスンを、しっかり積み重ねていくことが望ましい。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス／研究演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／研究演奏に向けてプログラムの確定
8	研究演奏会に選曲した曲の作品研究
9	研究演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	研究演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	研究演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	研究演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	研究演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	研究演奏会にむけて仕上げをしていく
15	年間を通してのまとめ（研究演奏会への仕上げ）

科目名	演奏法研究Ⅱ (V0)						
代表教員	柳澤 涼子	授業コード	XIL137500	科目コード	IL1375d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門必修				
前提科目	声楽実習Ⅱとリンクさせて履修することが望ましい						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

学生各自が研究テーマを持って、各レッスン担当教員からアドバイスをを受け、自分の目標を達成させる。

2. 授業概要

年間30回の個人レッスンによる

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回レッスン時に教員から与えられる課題を解決できるよう準備すること
歌唱時に必要な表現法を、各自、検討して次回のレッスンに発表できるように準備しておくこと

4. 成績評価の方法及び基準

修了演奏会（試験）100%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各レッスン担当教員、及び論文担当指導教員がその都度指示する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究課題をしっかりと決める。
1回1回のレッスンを積み重ねていくことが望ましい

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 研究テーマにそって課題を決める
2	課題とする歌曲の作品研究
3	課題とする歌曲の作曲家の研究とその時代背景
4	課題とする歌曲の楽曲分析
5	課題とする歌曲の歌唱法の研究
6	歌曲研究の総括
7	課題とするオペラアリアの作品研究
8	課題とするオペラアリアの作曲家の研究とその時代背景
9	課題とするオペラの台本研究
10	課題とするオペラアリアの楽曲分析
11	課題とするオペラアリア歌唱法の研究
12	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／レガート唱法
13	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／装飾音及びカデンツ唱法
14	課題とするオペラアリア歌唱法の研究／音楽表現と身体表現の関係
15	前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス／修了演奏のプログラミング
2	選曲した作品の楽曲研究
3	選曲した作品の作曲家及び時代背景の研究
4	選曲した作品の発語研究
5	選曲した作品の発語研究（顎と舌の運動の関連について）
6	選曲した作品の歌唱法の研究
7	前半のまとめ／修了演奏に向けてプログラムの確定
8	修了演奏会に選曲した曲の作品研究
9	修了演奏会に選曲した作品の時代別演奏法を研究
10	修了演奏会に選曲したオペラ作品のキャラクター研究
11	修了演奏会に選曲したオペラ作品の芝居と音楽の関係を研究
12	修了演奏会に向けて、舞台上での身体表現を研究
13	修了演奏会に向けて、身体表現と発声の関係について研究
14	修了演奏会に向けて、全体の流れを確認する
15	年間を通してのまとめ（修了演奏会への仕上げ）

科目名	創作研究 I (C0)						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	XIL151100	科目コード	IL1511d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical (わが音楽語法)」に記される方法なども作曲技法の一つである。作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、創作研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。創作研究 I は、前期に大きな編成による室内楽曲、後期に室内オーケストラや管弦楽曲を中心として研究する。

2. 授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の20%）
 学年末提出作品（評価の80%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
 『音楽言語の技法』（0.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 目標の設定
2	楽曲研究－導入（大きな編成による室内楽など）
3	楽曲研究－基礎（大きな編成による室内楽など）
4	楽曲研究－応用（大きな編成による室内楽など）
5	楽曲研究－まとめ（大きな編成による室内楽など）
6	書法研究－導入（大きな編成による室内楽など）
7	書法研究－基礎（大きな編成による室内楽など）
8	書法研究－応用（大きな編成による室内楽など）
9	書法研究－まとめ（大きな編成による室内楽など）
10	構成とスケッチ－導入（大きな編成による室内楽など）
11	構成とスケッチ－基礎（大きな編成による室内楽など）
12	構成とスケッチ－応用（大きな編成による室内楽など）
13	構成とスケッチ－まとめ（大きな編成による室内楽など）
14	楽譜の作成－基礎（大きな編成による室内楽など）
15	楽譜の作成－応用（大きな編成による室内楽など）

授業計画	
	[後期]
1	楽曲研究－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
3	楽曲研究－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
5	書法研究－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
6	書法研究－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
7	書法研究－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
8	書法研究－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（室内オーケストラや管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（室内オーケストラや管弦楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（室内オーケストラや管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（室内オーケストラや管弦楽曲など）
15	1年間の総括 楽曲の完成

科目名	創作研究Ⅱ (C0)						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	XIL151600	科目コード	IL1516d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical (わが音楽語法)」に記される方法なども作曲技法の一つである。作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、創作研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。創作研究Ⅱは、前期に20世紀の交響曲と管弦楽曲、後期に現代の多様な編成による楽曲を中心として研究する。

2. 授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の20%）
 学年末提出作品（評価の80%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
 『音楽言語の技法』（0.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 目標の設定
2	楽曲研究－導入（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
3	楽曲研究－基礎（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
4	楽曲研究－応用（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
5	楽曲研究－まとめ（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
6	書法研究－導入（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
7	書法研究－基礎（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
8	書法研究－応用（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
9	書法研究－まとめ（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
10	構成とスケッチ－導入（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
12	構成とスケッチ－応用（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
14	楽譜の作成－基礎（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）
15	楽譜の作成－応用（20世紀の交響曲と管弦楽曲など）

授業計画	
	[後期]
1	楽曲研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
3	楽曲研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
5	書法研究－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
6	書法研究－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
7	書法研究－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
8	書法研究－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（現代の多様な編成による楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（現代の多様な編成による楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（現代の多様な編成による楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（現代の多様な編成による楽曲など）
15	1年間の総括 楽曲の完成

科目名	作曲理論研究 I (CO)						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	XIL157000	科目コード	IL1570d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。2年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究 I は、前期にスタイル和声学研究、後期にフーガ書法を研究し、自作品にそれらの技法を取り入れられることを目標とする。

2. 授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の20%）

学年末試験（評価の80%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：

『フーガ書法』（音楽之友社）

『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）

『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／LEDUC社刊）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	[前期]
1	授業概要 スタイル和声の研究 (J. S. バッハ)
2	J. S. バッハ様式での創作のスケッチ
3	J. S. バッハ様式での創作のまとめ
4	スタイル和声の研究 (W. A. モーツァルト)
5	W. A. モーツァルト様式での創作のスケッチ
6	W. A. モーツァルト様式での創作のまとめ
7	スタイル和声の研究 (R. シューマン)
8	R. シューマン様式での創作のスケッチ
9	R. シューマン様式での創作のまとめ
10	スタイル和声の研究 (J. ブラームス)
11	J. ブラームス様式での創作のスケッチ
12	J. ブラームス様式での創作のまとめ
13	スタイル和声の研究 (R. ワーグナー)
14	R. ワーグナー様式での創作のスケッチ
15	R. ワーグナー様式での創作のまとめ 前期の総括と講評

授業計画	
	[後期]
1	授業概要 学習フーガ（4声）の様式について
2	学習フーガ 第1提示部の書き方
3	作曲演習1 第1提示部
4	学習フーガ 第1喜遊部の書き方
5	作曲演習2 第1喜遊部
6	学習フーガ 第2提示部の書き方
7	作曲演習3 第2提示部
8	学習フーガ 第2喜遊部の書き方
9	作曲演習4 第2喜遊部
10	学習フーガ 第3提示部の書き方
11	作曲演習5 第3提示部
12	学習フーガ 第3喜遊部の書き方
13	作曲演習6 第3喜遊部
14	学習フーガ 提示部と喜遊部の総括
15	1年間の総括と講評

科目名	作曲理論研究Ⅱ (CO)						
代表教員	清水 昭夫	授業コード	XIL157500	科目コード	IL1575d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。2年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅱは、前期にフーガ書法を研究して完成をめざし、後期にスタイル和声进行研究し、自作品にそれらの技法を取り入れられることを目標とする。

2. 授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の20%）

学年末試験（評価の80%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：

『フーガ書法』（音楽之友社）

『300 Textes et Realisations 6 - 16』（Zurfluh社刊）

『Vingt Leçons d'Harmonie』（O.メシアン著／Leduc社刊）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	[前期]
1	授業概要 学習フーガ 主要追拍の書き方
2	作曲演習 7 主要追拍
3	学習フーガ 対唱追拍の書き方
4	作曲演習 8 対唱追拍
5	学習フーガ 平行調追拍の書き方
6	作曲演習 9 平行調追拍
7	学習フーガ 真正追拍の書き方
8	作曲演習 10 真正追拍
9	学習フーガ 結尾部の書き方
10	作曲演習 11 結尾部
11	作曲演習 12 学習フーガのまとめ
12	学習フーガの浄書制作 (4段譜)
13	学習フーガの浄書制作 (2台ピアノ版)
14	学習フーガの試演、試聴
15	前期の総括と講評

授業計画	
	[後期]
1	スタイル和声の研究 (J. P. ラモー)
2	J. P. ラモー様式での創作のスケッチ
3	J. P. ラモー様式での創作のまとめ
4	スタイル和声の研究 (G. フランク)
5	G. フランク様式での創作のスケッチ
6	G. フランク様式での創作のまとめ
7	スタイル和声の研究 (G. フォーレ)
8	G. フォーレ様式での創作のスケッチ
9	G. フォーレ様式での創作のまとめ
10	スタイル和声の研究 (C. ドビュッシー)
11	C. ドビュッシー様式での創作のスケッチ
12	C. ドビュッシー様式での創作のまとめ
13	スタイル和声の研究 (M. ラヴェル)
14	M. ラヴェル様式での創作のスケッチ
15	M. ラヴェル様式での創作のまとめ 1年間の総括と講評

科目名	創作制作研究 I (SC)						
代表教員	前田 康德	授業コード	XIL1580B0	科目コード	IL1580d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目							
教員免許状							

1. 主題・到達目標

創作制作研究は、音楽制作スキルの向上を図るものではなく、各自作品のクオリティを重視した視点で指導する。また、音楽音響理論研究と連携して創作能力を養うことが目標である。

2. 授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容と合致する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果50%、研究態度50%、

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	<p>〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。</p>
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成1（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成2（感情表現）
3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成3（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成4（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）
7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（小編成）
10	アレンジスコアの制作（各初期設定）
11	アレンジスコアの制作2（各修正作業）
12	アレンジスコアの制作3（演奏表現に関する部分を確認）
13	DTMIにてシミュレーション1（トラックの構成とデータ入力）
14	DTMIにてシミュレーション2（ミキシングと各調整）
15	作品の試聴とディスカッション

授業計画	
	<p>[後期] 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。</p>
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察
3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（2声）
6	対位的アプローチの導入2（3声）
7	対位的アプローチの導入3（4声）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中盤）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半）
11	弦楽四重奏のスコアの完成
12	DTMIによるシミレーション1（トラックの構成とデータ入力）
13	DTMIによるシミレーション2（ペロシティーの調整）
14	DTMIによるシミレーション3（ミキシングと各調整）
15	作品試聴と講評

科目名	創作制作研究Ⅱ (SC)						
代表教員	前田 康德	授業コード	XIL1585B0	科目コード	IL1585d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	「創作制作研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

創作制作研究は、音楽制作スキルの向上を図るものではなく、各自作品のクオリティを重視した視点で指導する。また、音楽音響理論研究と連携して創作能力を養うことが目標である。

2. 授業概要

音楽・音響デザインコースにおける創作制作研究は、個々の研究テーマに沿って行われる。従って、研究内容を網羅する担当教員に師事することが必要であるが、これは「音楽音響理論研究」と合わせて事前面接によって決定される。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

講義内容を良く分析し、作品へ反映するための方法を研究すること。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果50%、研究態度50%
研究成果に関しては、作品発表も含まれる。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員の指示に従い準備すること。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この科目はレッスン形式であるため、シラバスの記載内容は一例に過ぎない。実際には担当教員と相談しながら決めることになる。

授業計画	
	<p>〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。</p>
1	映像におけるシーンの分析と音楽の構成1（テーマ）
2	映像におけるシーンの分析と音楽の構成2（感情表現）
3	映像におけるシーンの分析と音楽の構成3（情景表現）
4	映像におけるシーンの分析と音楽の構成4（人物表現）
5	映像におけるシーンの分析と音楽の構成5（無機質表現）
6	シーンを設定してスケッチ（作曲）
7	スケッチについてディスカッション
8	スケッチの修正
9	楽器編成についての考察（オーケストラ）
10	スコアの制作1（前半）
11	スコアの制作2（中盤）
12	スコアの制作3（後半）
13	DTMIによるシミレーション1（前半）
14	DTMIによるシミレーション2（中盤）
15	DTMIによるシミレーション3（後半）

授業計画	
	[後期] 年度末試験における作品発表を念頭に、担当教員と相談の上研究計画を立てる。
1	前期の作品にシンセサイザーの付加を検討
2	シンセサイザーの音色について考察
3	スコアのミックスとマスタリング
4	前期作品を弦楽四重奏にリアレンジ（準備）
5	対位的アプローチの導入1（2声）
6	対位的アプローチの導入2（3声）
7	対位的アプローチの導入3（4声）
8	弦楽四重奏にアレンジ（前半）
9	弦楽四重奏にアレンジ（中盤）
10	弦楽四重奏にアレンジ（後半）
11	ハリウッド的オーケストラのアプローチ1（作品研究）
12	ハリウッド的オーケストラのアプローチ2(代表的なアプローチ)
13	ハリウッド的オーケストラのアプローチ3(簡単な楽曲を制作)
14	シンセサイザーアプローチ4（楽曲の制作とミックス）
15	作品試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅰ (SC)						
代表教員	前田 康德	授業コード	XIL1590B0	科目コード	IL1590d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目							
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽音響理論は、打ち込み技術やスコアリングなど楽曲制作上のスキル向上を目標とする。

2. 授業概要

個々の研究テーマに沿って、必要な技術の修得を目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果50%、研究態度50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業計画は学生ごとに異なるため、その一例であることに注意されたい。

授業計画	
	<p>〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。ここではフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。</p>
1	研究に必要な技術の確認及び学習計画
2	これまでの自己の作品の検証
3	これまでの自己の作品の検証と整理
4	前期の作品制作の計画
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	作品のモチーフを複数作成
8	モチーフの抽出
9	録音素材とモチーフの関連性を検討
10	作品全体の構成を調整
11	楽曲の指導（構成を中心に）
12	楽曲の指導（各セクションのについて）
13	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
14	作品のミックス
15	ミックスの仕上げ

授業計画

	<p>〔後期〕 後期は前期の反省点を踏まえ、引き続きフィールドレコーディングを活用した作品制作を想定している。</p>
1	後期の作品発表に関する計画と確認
2	録音素材の活用視点と加工方法について
3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（前半部）
11	ミキシング（後半部、オートメーションなど）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（EQなど詳細処理）
14	マスタリング（全体のラウドネスの調整）
15	作品の試聴

科目名	音楽音響理論研究Ⅱ (SC)						
代表教員	前田 康德	授業コード	XIL1595B0	科目コード	IL1595d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門必修				
前提科目	「音楽音響理論研究Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

音楽音響理論は、打ち込み技術やスコアリングなど楽曲制作上のスキル向上を目標とする。

2. 授業概要

個々の研究テーマに沿って、必要な技術の修得を目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各回で学習した内容はテキストとしてデータ化しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

研究成果50%、研究態度50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業計画は学生ごとに異なるため、その一例であることに注意されたい。

授業計画	
	<p>〔前期〕 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。</p>
1	修了作品についてのディスカッション
2	修了作品と副論文の関係性についての検証
3	前期の作品制作の計画
4	作品の録音素材を選定
5	作品の収録スケジュールの設定
6	作品のモチーフを複数作成
7	モチーフの抽出
8	録音素材とモチーフの関連性を確認
9	作品全体の構成を調整
10	楽曲の指導（構成を中心に）
11	楽曲の指導（各セクションのについて）
12	楽曲の指導（録音素材のレストレーションを中心に）
13	作品のミックス
14	ミックスの仕上げ
15	マスタリング作業

授業計画	
	<p>[後期] 学生各自の意向により、作品発表の計画を考慮しながら、担当教員と相談の上研究計画を立てる。</p>
1	修了作品に関する計画と確認（後期作品）
2	録音素材の活用視点と加工方法について
3	録音素材の発展方法について
4	録音素材の空間処理について
5	作品の録音素材を選定
6	作品の収録スケジュールの設定
7	楽曲の指導（構成を中心に）
8	楽曲の指導（各セクションのについて）
9	曲のの指導（録音素材のレストレーションを中心に）
10	ミキシング（前半部）
11	ミキシング（後半部）
12	ミキシング段階における楽曲の微調整
13	マスタリング（前半部）
14	マスタリング（後半部）
15	作品の試聴

科目名	副科学研究 1 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	XIL2051C0	科目コード	IL2051d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画

	[半期] 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（1） 精確な譜読み
3	実技指導（2） 楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（3） 楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（4） 演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（5） 演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（6） 演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（7） 楽曲の和声を理解して
9	実技指導（8） 楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（9） 奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（10） 演奏表現を工夫して
12	実技指導（11） 細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（12） 音色を意識して
14	実技指導（13） 仕上げ
15	総括

科目名	副科学研究2 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	XIL2052C0	科目コード	IL2052d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[半期] 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（1） 精確な譜読み
3	実技指導（2） 楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（3） 楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（4） 演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（5） 演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（6） 演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（7） 楽曲の和声を理解して
9	実技指導（8） 楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（9） 奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（10） 演奏表現を工夫して
12	実技指導（11） 細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（12） 音色を意識して
14	実技指導（13） 仕上げ
15	総括

科目名	副科学研究3 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	XIL2053C0	科目コード	IL2053d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[半期] 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（1） 精確な譜読み
3	実技指導（2） 楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（3） 楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（4） 演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（5） 演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（6） 演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（7） 楽曲の和声を理解して
9	実技指導（8） 楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（9） 奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（10） 演奏表現を工夫して
12	実技指導（11） 細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（12） 音色を意識して
14	実技指導（13） 仕上げ
15	総括

科目名	副科学研究 4 (MP)						
代表教員	佐藤 昌弘	授業コード	XIL2054C0	科目コード	IL2054d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MP	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1. 主題・到達目標

副科学研究は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まって、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

2. 授業概要

選択した楽器や担当教員により異なる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ決定する。
参考文献はレッスン中に紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[半期] 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題を選択する。
1	ガイダンス（到達目標や課題曲について、前期の計画を立てる）
2	実技指導（1） 精確な譜読み
3	実技指導（2） 楽曲の音楽形式を理解して
4	実技指導（3） 楽曲の音楽様式を意識して
5	実技指導（4） 演奏困難箇所についての対策
6	実技指導（5） 演奏困難箇所についての練習
7	実技指導（6） 演奏困難箇所についての克服
8	実技指導（7） 楽曲の和声を理解して
9	実技指導（8） 楽曲の和声感を表現して
10	実技指導（9） 奏法、唱法をブラッシュアップ
11	実技指導（10） 演奏表現を工夫して
12	実技指導（11） 細かいニュアンスを配慮して
13	実技指導（12） 音色を意識して
14	実技指導（13） 仕上げ
15	総括